

京都府立総合資料館所蔵



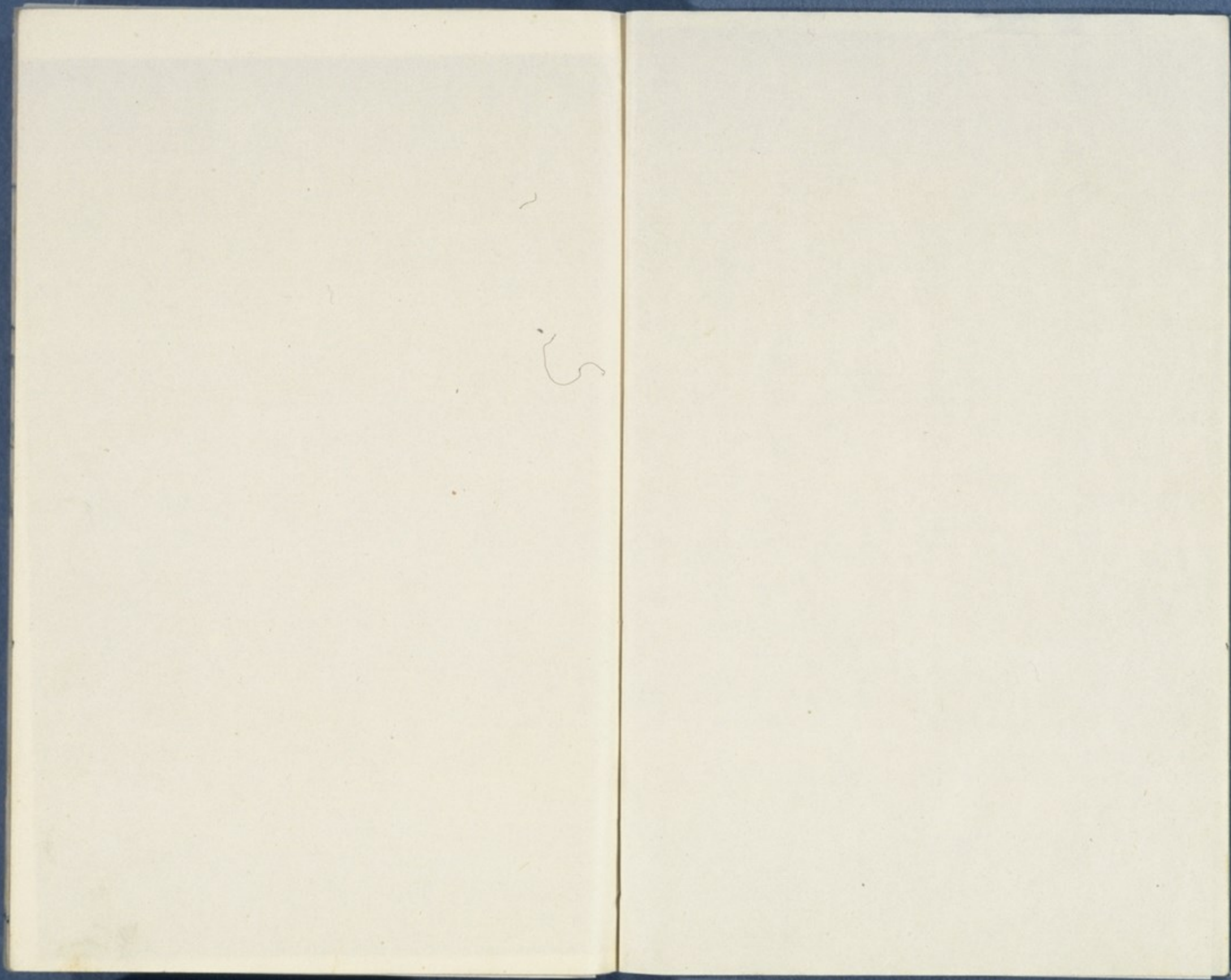
特
992
31
11

○北村先生編 丹波誌 一部拾五卷
先生に請ひて二部を淨寫し
京都帝國大學圖書館と京都
府立圖書館に各一部を寄託
す

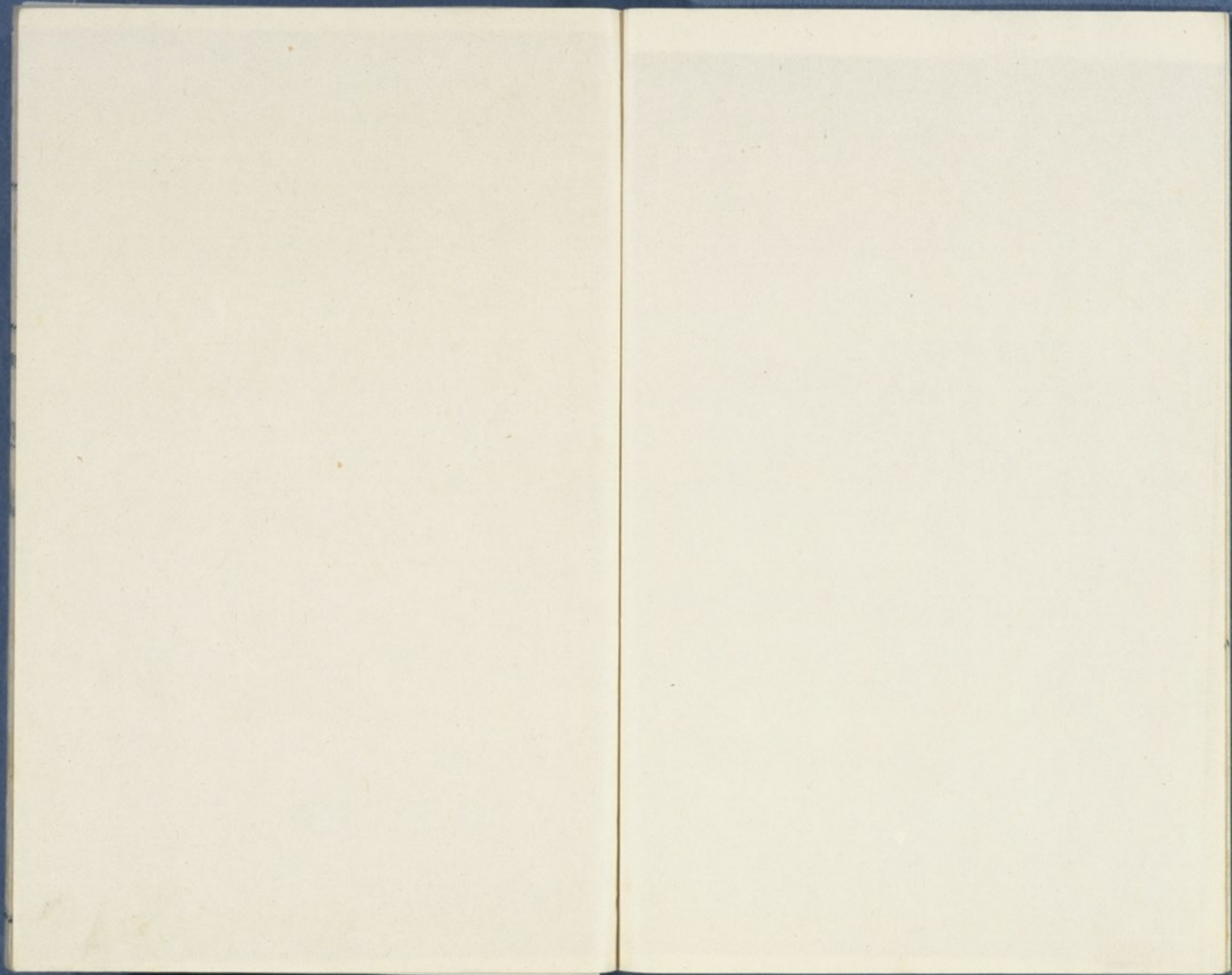
大正拾四年七月一日

北村龍象先生喜壽會

(北村先生喜壽會結末報告書を添附す)



京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵

天田郡(下巻)

雀部村

古時土師莊アリ雀部アリ中古土師群ハ消上産部	中断ス	川流ハ長流何鹿郡ヨリ来リ福知川トナリ本村ヲ	入ルヲ得	東方ニ鬼ヶ城峠ノ路アリ何鹿郡ノ佐賀村界線ニ	ニ突入ス	道路ハ山陰道東方ヨリ村内ヲ貫穿シテ福知山町	ニ突入ス	ニシテ延ビ南北ニ長ク東西ニ短シ	町ニ向ヒ北方ハ山曇ヲ以テ何鹿郡ニ疆ス村形斜	テ兩村ニ挾マレ西南ノ方ハ大川ヲ間テ、福知山	此ノ村ハ東方ニ西中筋村アリ西方ニ庵我村アリ	雀部村	大字	土師	前田	川北
-----------------------	-----	-----------------------	------	-----------------------	------	-----------------------	------	-----------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----	----	----	----	----

丹波志

辨ハ存ス星河建彦宿代大鷲鶴尊繫木綿禊堂監御
 膳因賜名曰產部臣トハ古書ニ見エ
 大字土師 小字 上池 西城 新所 河原
 高五百五十八石 民家百七十戸 寛政年度ノ詔
 査 福知山藩領
 八幡神社 三柱神社 熊野神社
 往古ハ土師ノ賜領地ニシテ莊ト呼バリ土師氏ノ
 裔孫ナル菅原氏ニ傳ハリテ之ヲ領地トセリ土師
 ハ陶工ナリ土師宿禰カ殉死ヲ止メタル功ニ由リ
 大和河内伊勢出雲三河和泉及ビ丹波ニテ此ノ地
 ヲ賜ハリタルナリ土師ハ元來河内志紀郡道明寺
 ノ舊名ニテ一名秋篠ト云ヘリトノ説ヲ聞ク 雄

畧天皇ノ十七年癸丑春三月丁丑ノ朔土師連等ニ
 詔シ朝夕ニ盛ル御膳ノ清器ヲ進メシム土師ノ祖
 ナル吾等仍リテ撰津國來狹々村山背國內村俯見
 村ト伊勢國藤形村ト丹波國但馬國因幡國等ヨリ
 私ノ民部ヲ進ム名ヅケテ贄ノ土師部ト云フ和名
 鈔ニ云フ丹波ニテハ天田郡土師ト

野見宿禰



京都府立総合資料館所蔵

城址アリ横山大膳此ノ地ニ枝城ヲ置キ猪崎ニ連絡セシノ身ハ本城福知山ニ住ス總論及福知山ノ條ヲ参看スベシ

府立第三中學アリ 明治三十四年設立生徒定員

四百名 四十三年ノ在學生數二百九十名

孝子蘆田七左衛門爲助ノ墓ハ小字西城ノ共同墓

地ニアリ福知山町ノ東南土師川橋ヨリ綾部街道

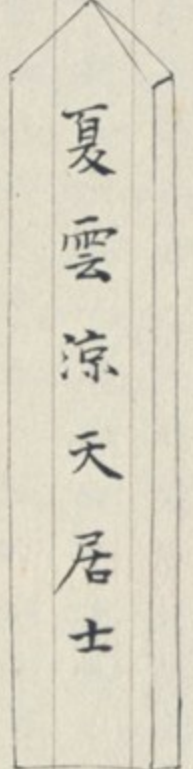
ニ至レバ路傍ニ木標アリ孝子蘆田爲助之墓ト記

ス墓地ヲ北ニ入ル數步ニシテ大碑見ユ大廿五尺

計リ樹蔭ニアリ表面ニ

下面ノ如ク鐫リ

裏面ニ左ノ文ヲ



録セリ

誠貴ト云へきハ孝乃徳ナリ佛ハ孝順父母
ト宣説し聖賢も亦百行乃本ト咏嘆し給へ
リ矣獨厥霄壤を盡セムハ爲助乃至孝内ニ
ハ撮妙来於撰化ト子ハ徹虞舜ト準繩不可
不度矣然ラハ澆末乃人トハいへとも是ハ
爲子志を發ル其物ならずし靦靦傳記ニ見
爰ニ不記

孝子儒名蘆田七左衛門爲助孝孫等建之

孝子蘆田爲助之碑ハ伏見宮貞愛親王ガ第十師團
長ニテ福知山御巡閱ノ際ニ賜ハリシ所ノモノヲ
彫刻シタルナリ 其ノ家系ヲ聞キ其ノ墓所ヲ見
レバ往古ハ地方ノ豪族ニシテ中古下リ農戶ニ編

籍セラレシモノ今モ農桑ニ従ス世々七左衛門ヲ
通稱トス七左衛門爲助ノ遺徳ソノ名ト共ニ傳ハ
ルハ嘉スベシ當主七左衛門モ亦人ト爲リ醇良ニ
シテ殊ニ孝道ニ篤キテ後文ニ示スカ如シ従前相
應ノ産業アリシガ孝養ニ用ヒテ惜マサルト人ノ
窮困ヲ救ハン爲ニ保證人トナリ其ノ義務ヲ脊負
ヒタルナドニテ今ハ屋ニ家屋ヲ所有スルノニ幸
ニ其ノ家ソ人ノアリアリテ當時ノ情ヲ相望ムニ
足ル

上野回新田部細公好
安永甲午九月
二十四日
富山左馬六郎

慶安二年己丑四月松平主殿頭参河川屋ヨリ移封
セラレテ本城ニ入ルヤ美舉ノ一タルハ爲助ニ賞
金ヲ與ヘタルト田畑免稅諸役免除ノ榮ヲ與ヘタ
ルトニアリ黄金ノ賞ハ幕府時代ノ特典ナリ
寛永三奇士ノ一ナル高山ガ爲助ノ人トナリヲ欽
慕シテ旅中途ヲ枉ゲテ尋ネ来リ其ノ墓ヲ拜シ金
壹封ヲ奠キ名刺ヲ留メテ去ル丹ハ當人が九州ニ
赴ク途上ト知ラル久留米ノ逆旅ニ自殺シタルハ
此所ヲ經過シ彼地ニ至リシ後ノヲナラン三崎士
ハ蒲生君平ト林子平トヲ云フ
家傳ニ云フ蘆田家往時信濃國ニ起リ甲斐守頼信
ナルモノ當地ニ来リ手白山ニ居住ス山ハ近傍ニ

京都府立総合資料館所蔵



一 丹波 誌

アリ其ノ後裔移ツテ天神山ニ住セリト墓地ニ石
 室ニ個アリテ小社ヲ夾メリ之ヲ其ノ祖先トス石
 室大約ニ尺四方高サ之ニ楯ヲ兩扉相合フ所ニ一
 指ヲ通スル計リノ穴アリ扉モ亦石ナリ古色蒼然
 得易カラヌ古物ナリ

懸物 壹幅 其ノ家ニ藏ス 長安寺住職義天和
 尚筆

一農夫が雨中ニ大傘ヲ以テ石碑ニ差シ掛ケ恰モ
 濡レサセジトスル様ナリ次文中ニアル如ク母ノ
 存生中雷鳴ヲ怖レタルヲ以テ其ノ死後ニ於テモ
 驟雨スル毎ニ農業中タリトモ畑ヨリ馳テ歸リ
 傘ヲ以テ墓所ニ驅ケ附ケ私コヽニ居リマス母様
 怖イヲハゴザリマセヌト云ヒワヽ之ヲ差シ掛ケ
 雨ノ終ルヲ
 待チ左様ナ
 り歸リ

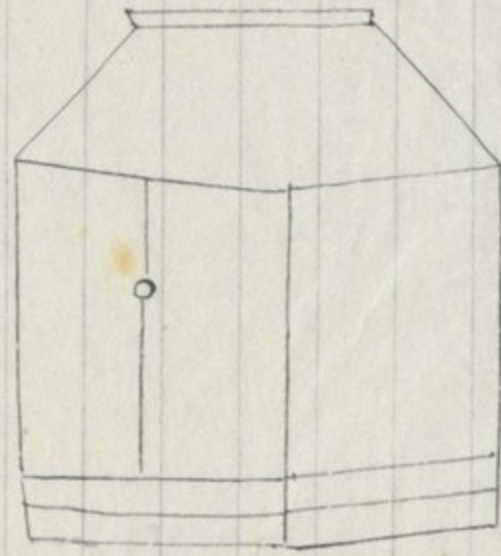


孝是天性不拘貴賤
 溫其衣被法被雷電
 火強再出傳元重踏
 存則能養況而足驚
 聞於海島感于後產

石室



贊ハ後文ニアル林學士ノ
モノヲ記セルナリ繪畫俗ニ
レテ真ニ適セス借ムベシ



丹波乃玉天田郡土師村の孝子ハ蘆田七た市門倉
助トモソツヒ市ノ家ヲグシケレバあつと父母ルヤ

しなへり父
母のゆふ
従ひて以
ふ事ふしき
まねハ父母
いねんとす
れバまづを
乃かまこへ
をゆてそむ
しろをあこ
たれ後父母
をいねしめ



京都府立総合資料館所蔵

何れいハ父母乃是ととの可なりと云ふ入れやあ
 たりむすて母しりそきてハ又中よりわすくいぬ
 りやさうやわとくひひ見るおあ母ニたびニ
 たび母しりや夏乃日以うあつきにすいし
 ずあるあうげをえらびを床をうすく父母をりぞ
 あいゆきておねますそあをたのめあされバと
 も母うりり秋さああさそぞあさしめある衣念た
 らむとくくどもうくひとあみて父母ハ常母あ
 ころあるやう母のとおもてせあをさうらにふのれ
 がとほしきさしめあ母いりつらああそるよ
 りてうみあるゆるあハにそのうらそるを
 ともあやあておああしりどもすみやうあ

何れいハ父母乃是ととの可なりと云ふ入れやあ
 たりむすて母しりそきてハ又中よりわすくいぬ
 りやさうやわとくひひ見るおあ母ニたびニ
 たび母しりや夏乃日以うあつきにすいし
 ずあるあうげをえらびを床をうすく父母をりぞ
 あいゆきておねますそあをたのめあされバと
 も母うりり秋さああさそぞあさしめある衣念た
 らむとくくどもうくひとあみて父母ハ常母あ
 ころあるやう母のとおもてせあをさうらにふのれ
 がとほしきさしめあ母いりつらああそるよ
 りてうみあるゆるあハにそのうらそるを
 ともあやあておああしりどもすみやうあ

京都府立総合資料館所蔵

足さむをうけずもろくろ相づりもやまが終る
そのもろくろつみろくろの家を愛せしむ
まろくろみろくろをゆるしとぞちまのそうけけ
ととあん

孝子傳

丹波國天田郡土師村有一孝子曰蘆田爲助(辨七左衛門)其父曰井上々々父曰蘆田爲次(辨五郎左衛門)爲次仕土師村主蘆田小界住于白山(今愛宕山是也)井上娶妻生二子爲助其季也爲次死後井上携妻及二子退爲土師村民家貧居狹而舖破席飲食窮乏僅全身送年老衰而夫妻共寢而不能起爲助天性至孝事父母盡心力其所言無不從焉寒夜則以己膚温席而令父母臥其上窺其熟睡踏而竊入加被而退欲不驚

覺也若父母睡覺則問其安否而容父母足於己懷温之而退如此者每夜或再或三無敢闕焉炎天則擇樹蔭涼處構庇障日負父母憩於其下自梳其白髮以敬其親其寢則先扇臥處掛暑氣以迎之飲食不足則唯供父母已足饑渴而對父母乃言食有餘不令知輩瓢屢空若偶得一物於外則喜而奉之母常畏雷故霹靂則不離其傍雖出在他必速歸保護焉平生給養之暇不急耕耨納其貢租不肯違期雖然絕已糧無關奉上之物不蒙未進之責不借他人之物其爲人柔和而能勤產業是以一村邑長及戶民皆憐之相睦承應二年爲助娶妻結小蘆於屋隅不妨父母之所居其妻亦微爲助之所爲能事舅姑以竭婦道父母或求之他則爲

京都府立総合資料館所蔵

助與具妻抱負而出或途中逢聖則妻先掃雪啓行而
導焉歷年產子不以私愛而忽其孝養方凶歲水旱則
父母曰我田不枯我疇不溺而不使其艱苦萬治三
年四月十七日母歿壽八十寬文元年二月四日父終
壽八十三共極天年爲助哭泣殊甚哀慕不止葬於己
屋近邊築墓建石塔日々詣墓獻香花每當七日招僧
讀經及七々日修懺浴每月忌日拜墓不懈猶事存之
禮催感而至落淚而歸雷震則必詣母墓泣而守之如
生之時爲助孝志同邑悉知之隣里亦知之既而聞於
福知山城所謂土師村隸此城主從五品尚舍奉御源
姓松平氏忠房感其孝恤其志昇黃金以褒之爲助拜
戴歸家讓其兄々辭曰此恩賜之物依汝孝之聞達也

我何受之兄弟相讓而不取而封緘藏於其家城主聞
而奇之乃復爲助尸袒且蠲其課役城主朝江府以是
語余求記其事余擊節嘆賞之爲之述其實迹之不
足副之以贊又作論勵今之人俾後之世
贊曰孝是天性不拘貴賤溫其衣被泣彼雷電文強再
出偉元童孺存則能養沒而追薦聞於鄉里感千俊秀
論曰人者萬物之靈孝者百行之本也苟存孝心則羅
匹夫之賤所以爲人也若無孝心則雖公侯之貴所以
不異禽獸也虞舜之聖曾子之賢其本是孝而已孝之
道大哉至哉故孔子曰吾行在孝經々々家々有之人
々讀之然不孝則與蛙鳴蟬噪何異哉嗚呼丹州一民
之蚩未知讀孝經否讀與不讀不可論焉其孝志之深

雖富貴之養不可過焉讀書之人無以加焉誰敢間然
 哉其化之及妻亦順兄亦讓彼猶如此况於顯達之人
 施教化哉夫孝子之心非干譽求名然國郡必告之閭
 里以標之者古之洽也中華本朝皆然嘗聞十室之邑
 必有忠信則邊鄙之僻豈無孝子哉是不告之則無標
 之者耳方今城王之著意得其告以加優恤是興百廢
 之一端也豈啻一州之美談而已哉可遍傳闔國激起
 群黎者乎天道福善彼亦有餘慶抑其孝志切果得天
 之助者誰不感嘆哉

寛文丁未孟冬

弘文院林學士

林大學頭ハ幕府ノ儒官ニシテ世々弘文學ノ放
 頭タリ此ノ文ヲ作レル者ハ名ヲ怒ト云ヒ字ヲ

之春トシ辨ヲ春齋トス本文ハ鳥子紙ニ書セリ

蘆田家系圖

- 初代 蘆田井上 寛文元年二月四日死 法名華山常紅信士 妻何鹿郡高津ヨリ入 一力治三年四月七日死 法名國室全貞大炊
- 二代 同 為助 七左衛門、稱、延寶五年六月七日死 法名夏雲深天居士 妻蘆田大西某女元禄十一年七月七日死 法名一密貞圓大炊
- 三代 同 佐治兵衛 寛永四年十二月廿一日死 法名本源覺性居士 妻章保十九年九月廿六日死 法名松屋貞林大炊
- 四代 同 嘉兵衛 寶曆二年五月十八日死 法名正岸玄當居士 妻天明四年九月廿九日死 法名深林自紅信女
- 五代 同 為延 寛正三年四月四日死 法名溪法良山居士 妻正明寺村吉左衛門女享和二年九月廿七日死 法名春山貞芽信女
- 六代 同 七左衛門 天保十一年九月廿二日死 法名天明自眼居士 妻同村與右衛門女天保十二年二月六日死 法名設外貞琴信女
- 分家 初代
- 七代 同 常兵衛 四代嘉兵衛子五代為延、弟文化五年四月廿四日死 法名清覺了雲信士 妻顯田村久左衛門女天保十一年十月四日死 法名安相慈穂大炊
- 八代 同 七左衛門 七代常兵衛ノ孫父某早世ハルヲ以テ祖父ノ後ヲ継グ 明治十八年十月六日死 法名山靈光居士 妻カ不存世
- 九代 同 七左衛門 明治二十四年八月十四日生

あまの石碕の建設とて之に至りてハ孝子乃送徒
の故其あといりハ又吾を好む人乃多きハ故な
らむやまを可くともゆえを殿下その地方
を巡視せられちよあの孝を慕ひて碑の表に
うらむるは母をよみ人相見えたるはと違ふ
ちすくくみふらふびの底とてめくくあん
あまれあ乃碕の面をうち仰らん者ハ孝子の事蹟
を慕ひては碕のしるしハうらむるはと違ふ
しりてしりて永く孝行を勵むるは後の人をして
たれ乃が為ようくハ碕をたてしらんことを
驚れんしこれやぞとあま碕の表記名のまむ
あらん

遙々善報をたくりて建碕の盛興を祝ふことか
くの如し

明治二十二年十月

新長谷長尾住意一宮宮崎守河内風

丹波國天田郡第二區土師村農

蘆田七左衛門

四十年十月

其方儀蘇々家業を勉勵し父母子事ありて孝養乃
ゆきく誦くそ乃孝を述へしゆを慰む兼て母終る
の後毎夜墓例に侍り之を看護し或ハ父時ハ酒興
に急し歌者を命ずれば碑版もゆきく歌起りて歌
者歌謡せしめ或ハ父他出帰来少し返後其れハ即
出て之を近ハ西を望み守法政を傳へ厚き二十

京都府立総合資料館所蔵

年々更ずるあり加へ祀定の年代は昔の風あり
と新編積著し家々多し其の終り郡邑之を人
之を編考の跡加へて多持し事々々因て其の賞と
し々全多因下郷の事

明治九年九月十日

京都府

此ノ七左衛門十八年十月六日没ス墓面二月山靈
光居士ト刻ス當時府知事ハ植村正直ナリ

大字 前田 小字上ノ段 東

往昔高千百十六石寛政改千六十四石五斗六合
内三十二石六斗八升九合ハ柏原藩領八十八石九
斗二升一合ハ福知山藩領 柏原藩領ハ高アリテ
民家無し 福知山領ハ舊織郷ニテ今ノ特殊部落

ナリ

戸田村ノ内小字小次郎ニ水神宮アリ此處ニ高八
十石計リノ地アリ領主松平主殿頭ノ時改メテ此
ノ田畑ヲ戸田ニ編入セリ前田ト戸田トノ間ニ土
村アルヲ以テ飛地トナレル故ナリ今ハ西中筋
村ノ内ニ戸田ト土トアリ
小字菅嶋ニ菅原姓ノ前田數家アリ元ノ加賀藩主
前田氏亦菅原ヲ姓トス其ノ原ヲ繹ヌレバ土師氏
ナリ此ノ地モ一村ナリシガ中古別レテ土師前田
トナリ今又合フテ崔部ノ中ニ入ル大宰府菅廟ノ
傍地ニ前田ナル所アリ前田ノ字由リテ起コル
天満神社 主體ハ觀音大士 菅公ノ守本尊 兩

部神道 九月廿五日祭禮 維新後純神道トシテ
佛式ヲ廢ス

本社 舞殿 祝詞殿 籠屋 烏居 等具ハル

境内山林長五十八間幅四十六間社田一畝三畝村

ノ除地 田六畝十三歩朽木家臣板倉喜左衛門寄

附年貢地

稻荷神社貴船神社一宮神社松尾神社水神々社嚴

嶋神社浦嶋神社武〇神社等アリ明天神社八月讀

尊ヲ祭ル九月十日其ノ式ヲ行フ

愛宕神社 主神軻遇突智 七月廿四日行祭 兩

部神道ノ當時ハ愛宕山末ニシテ雲前寺ト稱シ鐘

接アリ佛具ヲ藏セリ 社地ハ前田村分山林ハ土

師村分 昔時山公事起コリ之ヲ領主ニテ審判シ

得々京都所奉行所ノ訴出シタルニ其ノ判決ニ由

リ山ハ土師ニ社ハ前田ニ歸着シ遂ニ祭式ヲ兩村

立テ合ヒ之ヲ執行スルヲトナレリ本社并ニ山上

ノ烏居ハ福智山城主ノ修理ニ係カル例ナリ

松平主殿頭忠房ノ寄附帳アリ其ノ文ニ曰ハク

寄附 丹州天田郡愛宕社領事

高五石(山林寺内竹木共)目錄別紙有但山者

土師村愛宕者前田村所

右當社具以前社領無之堂社悉及破損之條開新

地新規令寄附者也仍寄附之狀如件

寛文七年五月廿四日 主殿 判

京都府立総合資料館所蔵

當社衆徒中

寄附天田野前田村慶宕 但山者土師之地也 社頭

於前田村之内

高五石 本田之外也 目錄在別紙

軍紀先例今度潤邑而令寄附之畢全可社納并ニ
境内山林如附来不可有相違者也仍如件

元禄三年正月十一日 朽木伊豫守源植昌判

雲 上荆寺

領主代々給與スル書面同文ナリ 別當中川家世々
社務ヲ執ル僧形ニシテ十徳ヲ着用ス 讀經勤行僧
侶ニ同シ身分ハ法印ナリ

明天神社 菅公ヲ奉祀ス 境内陸二十一間横二十

間竹林大畝高九斗修理料地年貢アリ

瑞龍山東林寺 曹洞宗 本尊藥師如來開基雪山

玄良居士寛永八年建立未鞍山林陸二町横五十間

除地 境内ハ村ノ除地

大字 川北 舊高千百十六石七斗八升四合 文

久年度千百二十九石七斗三升六合一勺 柏原藩

領 大川ノ北方ニ於テハ以前ヨリ崔部村ノ編管

トナレリ

稻荷神社 祭神 宇氣母知神 毎年舊曆九月十

日祭式ヲ營ム

若宮 天満宮 三柱 今宮 多光 一柱 等ノ

神社アリ

須彌塔山頼光寺 曹洞宗ニシテ由緒寺ナルヲ以テ知識地トシ善知識大培僧ナラザレバ位職タル可ラザルノ謂ナリ今ハ有名無實トナリ了ニ又古塔アリ山稱ノ由リテ起コル所以ナリ 本尊釋迦如来 文殊普賢ノ兩菩薩コレニ陪位侍立ス

開基寂室空心開山定岩林光 應永二年ノ創建中興安慶龍徳

吾祥圭明和尚ハ此ノ位職ニシテ性来愛兒ノ癖アリ維新前ニ寺子屋ヲ始メタルカ寺子屋ハ學制ノ布カルヨリ寺子屋ヲ以テ小學校ト改名シ自身教師ノ名稱ヲ以テ僧籍ヲ脱シ専心一意談業ニ従事シ其ノ教育方途ノ改善ヲ圖リ新知識アル教員

ヲ雇傭シ身具ノ助教トナリ新ニ校舍ヲ建テ烈暑酷寒ニモ老身ヲ以テ之ニ當タリ且其ノ身モ教師試験ヲ受ケ十有八年ヲ一日ノ如ク勤勉シ明治ニ十五年古稀ヲ過ギタルヲ以テ退職シ二十八年五月某日死去セリ有用ノ僧ト云フベシ

東禪寺址 此ノ地ニ存ス

前田喜左衛門ハ崔部ノ人ナリ家世々農タリ家事ニ務メ業事ニ務メ村事ニ務メ前後二十餘年間父子カ忘クシタル功績ハ牧養ニ遑アラズ手白山ノ鬱蒼タルハ實ニ具ノ父子が樹木ノ植栽ニ培養ニ務メタル結果ノ一ニシテ其ノ遺物一ニ居ル村内ノ用水ハ之ヲ沁水ニ仰グヲ以テ一朝旱魃ノ患ニ

京都府立総合資料館所蔵

遭ハバ民苦甚大ナルヲ以テ之ヲ救済スルニ苦辛
 シ池溝ノ開鑿ト猪溜トノ工夫ヲ凝ラシ偏ニ不虞
 ニ備アルノ計畫ヲ建テタルカ爾來村民ノ早苦ヲ
 訴ヘガルハ其ノニタリ荒地ヲ開墾シ農産ノ増殖
 ヲ計リ私財ヲ投ジテ公益ヲ増益シタルハ其ノ三
 ナリ庄屋トナリ年寄トナリ郷庄屋トナリ老イテ
 益々壯シニ其ノ職務ニ盡瘁シ領主ノ賞譽幾度ガ
 之アリ天保十二年十二月某日米壽ノ齡ヲ以テ歿
 ス村人舉リテ葬式ニ臨メリ
 子喜石衛門亦能ク務メタリ謂ハ所ル箕裘ノ業ヲ
 継ギ弱年ニシテ父職ヲ襲ギ堤防工事ヲ作興シテ
 父志ヲ成就シ前田二千餘石高ノ地ヲ肥沃ナラシ

メ且廢田無カラシメタリ宇川向ノ堰杭ガ存在ス
 ルヲ見テ天保年間和知川ノ氾濫ヲ防カントテ築
 造シタル遺址ナルトテ思ハシム殖産ノ道ハ成レ
 リ勸農ノ志ハ達セリ今ハ村民ノ徳義ヲ養ヒ風俗
 改善ニ着意セザル可ラズトテ神社ノ再建修繕等
 ニ着手シ以テ敬神ノ民志ヲ培養シタリ明天神ノ
 社殿ハ天保十二年ニ再建シ愛宕神社ノ鳥居モ亦
 同時ニ建設シタル所ナリ
 土手卯右衛門夫妻 卯右衛門ハ天保六年四月前
 田村ニ生マル性質篤實ニシテ家業ニ勤メ農事ニ
 忠精ナリ其ノ出デ行クヤ道路ニ障礙アレバ石ト
 無ク瓦ト無ク之ヲ除キ破橋ハ之ヲ補ヒ敗鞋ハ之

京都府立総合資料館所蔵

ヲ田畝ニ納レ意ヲ用フル諸事ニ周到ナリ其ノ親
ニ事フルヤ其ノ意ヲ迎フルヲ以テ務トシ能ク其
ノ心ヲ安レシム父早ク亡ス母ニ事ハ聲容ヲ和
ラゲ平素其ノ命只ク是レ從フ妻つう亦夫ト共ニ
心ヲ一ニシテ事ヘシカバ其ノ子女ノ見習ヒ聞キ
習ヒ祖母ヲ勝ハル丁父母ノ爲ス所ニ異ナラズ一
家五人ニシテ四人ノ存子アリ近隣コレヲ異トシ
之ニ感涙セラレ、モノ數クアルニ至ル領主コレ
ヲ賞シ金書ノ賜品アリ

妙智山圓覺寺 曹洞宗 創建慶長十三年開基
風山薰ト大悅 再建天保十五年 文殊菩薩丹後
切戸ノ文殊ト共ニ天竺ノ毘首羯磨ノ作ニテ衆魔

退治ノ劔ヲ持シ獅子ニ乘ル文殊ハ妙智具足スル
ヨリ衆ヲ山辨トス衆生ヲシテ大智ヨリ圓滿悟覺
ニ入ラレメンガ爲ニ寺辨トスト云フ

境内ニ領主ノ墓アリ

德壽院殿本覺桃源大居士

從五位下朝散大夫丹波國福知山城主伊豫守
宇多源氏佐々木朽木鋪綱行年五十八歲
天明七年丁未九月二十日卒

錦江院殿成德惟馨大居士

從五位下朝散大夫兼近江守朽木植張墓
慶應三丁卯年春二月十三日卒

麗春院殿露舍蘭英大妙

京都府立総合資料館所蔵

庵我村

時枝志

トドモ南方ハ平潤ナリ東ニ雀部村座ニ福知山所



福知山

庵我村 大字 猪崎 中 池部 安井 答卷

水郡ヲ小犬ノ坐スルニ譬フ
 レバ此ノ村ハ其ノ腹面ニ當
 ル大字猪崎中池部ハ南ニ在
 アリ安井答卷ハ差々西ニ斜
 ナリ
 村形富士山ニ似テ諸部落ハ
 駿河国道ニ相連ナル驛舎ノ
 如シ
 北方ハ鬼ヶ城山鳥が嶽相對
 峙シテ其ノ系統ニ包圍セラル

福知山藩知事朽木爲綱妻六浦藩知事米倉昌言妹

明治三庚午年九月八日卒年二十歳

下豊富村西ニ下川口村アリテ相共ニ疆界ス而シ
 ラ北方ハ丹後ノ加佐郡ニ接ス
 福知川南方ヲ迂流シ池部ノ南ニ於テ西ヨリ来ル
 和久川流ヲ納レ等巻ノ西ニ宕ヒテ丹後海ニ注グ
 丹後街道 綾部ヨリノ一線迂回シテ来リ猪崎ヲ
 経テ福知山ヨリ来ル一線ト相合テ此ノ村ヨリ
 丹後ノ境川ハ出ヅ
 産物 米穀 素麩 藍 繭 絲 村内到ル處衆
 樹繁茂ス丹後街道々側ニ多シ
 大字 猪崎 高千七十石内百三十石織郷ト舊記
 ニ見エ 福知山藩領ナリシ
 須賀社ニ所アリ 巖嶋社 三柱社 稻荷社 賀

庵我村

茂社 若宮社アリ
 保信館衆園ハ植村敬次郎經營ノモノ前示丹後街
 道由良川沿岸ノアリ半里餘ニ亘ル細長ニシテ幅
 半町ノ所アリ數間ノ所モアリ
 三十代池 舊稱三段池銀玉朽木出羽守綱貞改メ命ツケ
 一日池上ニテ
 水少キハ谷川ニせキ以テ三々代乃池ニすめり月乃那
 ト詠マレケルニ從者コレヲ和スル無シ村ノ庄屋
 清兵衛コレヲ聞キテ
 松うけやうらゝ水乃底清一とせし 三々代をらすのたま
 ト返歌シ恐ル 之ヲ臣下ノ者ニ見セケルヲ領
 主モ見テ大ニ感賞ヲ下シタリ

京都府立総合資料館所蔵

城迹アリ塩見大膳ノ支城ト云テ
 木塔山醍醐寺 臨濟派禪宗 京都南禪寺末 開基
 足利尊氏 本尊樂師如來 開山三光國師 二世天
 真 三世鷲峰 四世椿叟 五世眠光 六世保山
 現今^{大正}二十八年 尊氏位牌新造ノモノアリ表面
 等持院殿仁山義光大居士 境内山林兵除地 慶曆
 三年ノ創立 由緒アル大寺トシテ丹波ノ臨濟宗本
 山タル姿ナリシヲ寛文初年田舎ニテ本山無キ獨立
 寺ヲ廢止シタルニ由リ舊縁アルヲ以テ南禪寺ノ附
 籍ト為シ南禪寺ニ於テモ斯カル資格アル寺ヲ一般
 ノ末寺扱キ為シ難シトテ客院モテ之レヲ待遇セリ
 ト云フ

庵我村

境内 東烏ヶ嶽通 西鬼ヶ城通路 南鎮守辨天台
 光菴 北本山麓 所有山林宇本山新山地蔵山
 本堂 玄關 庫裡 客寮 鐘樓門 山門
 地蔵堂 鎮守社皇太神宮 半僧坊權現堂近年有志者ノ建立
 塔頭 法了菴 台光菴 寂照庵 貞宗庵
 本堂棟木ノ札
 寛保ニ至成嶽
 上棟改作 瑠璃殿一字 現位絶同棄捨官錢
十二月吉祥日 淨信檀那資助貨財在産清兵衛
 本堂ニ掲ケル額ハ足利義詮ノ筆ニテ醍醐禪寺ト書
 不 塩見大膳ノ位牌アリ表面ニ
 法名 孝嶽院殿正五位前筑後大守子英全雄 大居
 士トアリ裏面ニ

町 岐 志

府君姓源塩見氏名利勝號大膳亮吾塩見氏之祖也
曾居住於當邑即有其墟以天正七年己卯秋七月廿
四日卒斯有相邨甚左衛門實次者其室府君姪也
因安其神牌於大呂村天寧禪寺其背書曰塩見大膳
正當寺唐繪十六羅漢之寄附主也蓋府君之嗣子
堂前家君以下氏族之墳墓綿連者在當邑醍醐寺境
神牌亦皆在同寺持府君之神牌闕焉因今新造
之而位為氏族之牌上聊以奉其祀云

天明四甲辰冬十一月 塩見氏族某等誓首再拜

開山三光國濟國師略傳

國師名覺明號孤峰與州ノ産十七歳天台宗ノ寺
ニ於テ得度シ幾年ナラズシテ法華ノ要義ヲ悟リ禪

機願ニ發シ信州某寺ニ掛錫セントシ三誓願ヲ發ス
一ニ曰ハク我當修今己修所有福業廻施含靈不獨自
受ニニ曰ハク我設隨三途八難能荷擔佛之大法無
有退屈三ニ曰ハク我當持前佛之法傳之於後佛又
發意欲參詢於中華知識

後醍醐天皇ハ御父祖ヨリノ御遺傳ニテ御幼少ヨリ
佛教ニ御歸依アリ元弘元年隱岐ヨリ遁レ出ラマシ
伯耆ノ船上山ニ着御テラセラルヤ御流竄中工夫
アラセテタル所ノ疑問ヲ解カント思シ召サレ近
邑ニ高僧ヤ有ルト聞ハセ玉フ時ニ近キ所ノ雲樹寺
ニ知徳氣具ノ僧アリト對ヘ奉ルモノアリ其レ辟セ
トアリテ拜謁問答アリ大ニ旨ニ合テ天長雲樹興聖

庵我村ニ

木塔
乃昔
作



禪寺ノ額ト金襴ノ袈裟ヲ賜フ京都ニ召サル、
次ナリ足利尊氏モ亦歸依スル、深ク中國勢ヲ驅リ
催ナントテ山陰ヲ未往シ大原私市坂ハ當所ト經廻
ル内四禪相應ノ地コ、ヲ措キテハ又ト之レ有ル可
ラストテ辻堂ノアル所ニ一寺ヲ建立シ禪師ヲシテ
住任セシノヌ禪師一大長樹ノ五層ニ繁茂スルヲ看
出ダシ之レヲ以テ塔ニ擬シ佛法ヲ以テ醍醐味トス
ル教義ヲ采リ命ヅケテ木塔山醍醐寺トス後醍醐天
皇ノ謚號ハ醍醐天皇ノ御謚ヨリ取リタルニハアテ
テ實ニ此ノ寺殆ヨリ采リタルナリトゾ足利義詮モ
亦父ニ嗣ギ禪師ニ就キ法要ヲ問ヒ額面ヲ與ヘ室町
家祈願所ノ一トセリ寺殆ハ天皇ノ御撰定トモ云フ

禪寺ノ額ト金襴ノ袈裟ヲ賜フ京都ニ召サル、丁敷



木
家
塔
の
新
村

禪師ノ遷化ハ康安元年五月廿四日ニテ泉州大雄寺ニ於テナリ年九十一其ノ和泉ニ轉居セラレタルハ足利氏ノ所為ニ不滿ナリシトカヤ末後ノ偈アリ

出息不涉諸緣 入息不居陰界

視死如生 視生如死 生死無隔 豈有一法可

當情耶

鬼ヶ城記事

鬼ヶ城ハ猪ノ崎ノ北方ニ在ル山嶽ニシテ山頂ハ丹後ノ版圖ニ入ル古来要害ノ地トシテ有名ナリ一名華浪山又藤浪山ト呼フ藤花蔓延シテ波浪晚霞ニ掩映スルガ如ク謡曲花月ノ一條ニ丹後丹波の界を鬼ヶ城ト聞ハ天狗トモトモ云コ幼時

奄我村

丹波志

天狗ニ捉テヘラレテ經廻リタル山々ヲ數ヘ擧グル
ノ文句ニテ古ハ狗賓ノ住處ナリト言ヒ囉セシ所ナ
リ
治承四年石橋山ノ合戰ニ源氏方ノ猛者俣野五郎ハ
川津三郎ト一騎打ノ晴レノ勝負ヲ為シタルニ孰レ
モ負ケズ方ラズ打テ合ヘトモ勝負附カサルモノカ
ラ去来ヤ角力取リテ勝負ヲ決セント雙方太刀打テ
捨テ互ニユイヤ々々々ノ聲カケ合ヒ組合ヒ暫シガ
程揉ミニ揉ミ川津ノ一聲揚ガルト共ニ俣野ハ其ノ
足下ニ打テ仆レ何處トモ無ク引キ揚ゲタリ俣野ノ
從者ニ釋迦辛尼ニ俣太郎時盛同次郎清時茂木小太郎
畠長同小次郎拾盛中村助之進ナド主人ニ離レ諸國

庵我村

ヲ流寓シテ遂ニ此ノ地ニ入り此ノ山窟ヲ見付ケテ
住所トシ兇暴ノ者ヲ呼ビ集メ近在ヲ荒レ廻リ金穀
ヲ押ヘ取り非道ヲ働キケレバ民家雞儀ニ及ビ平家
方ノ綾部領主ニ訴ヘ出デケル領主之レヲ聞キ繼ヤ
元ハ吾ガ味方ナルモ其ノ所作ハ用捨成リ雞シトテ
八方ヨリ火ヲ放テ残ラズ兇徒ヲ打テ成ゲタリ釋迦
辛尼俣ハ巧ニ重圍ヲ逃レ出テ東ノ方ヘ落テ延ビシ
リト故老ノ言フガ儘ヲ記ス南栗田郡龜岡町小字釋迦ノ
出ハレ參考ナリ
天正十年當國ノ住人赤井刑部少輔幸家伊江郡出部
所ニ
ハ安藝ノ國ヘ使者ヲ立テ吉川元春ヘ申シ遣ハシケ
ル文中ノ一節
愛宕山ヘ攀躋リ京都モ目下ニ見下シテ諸所ニ

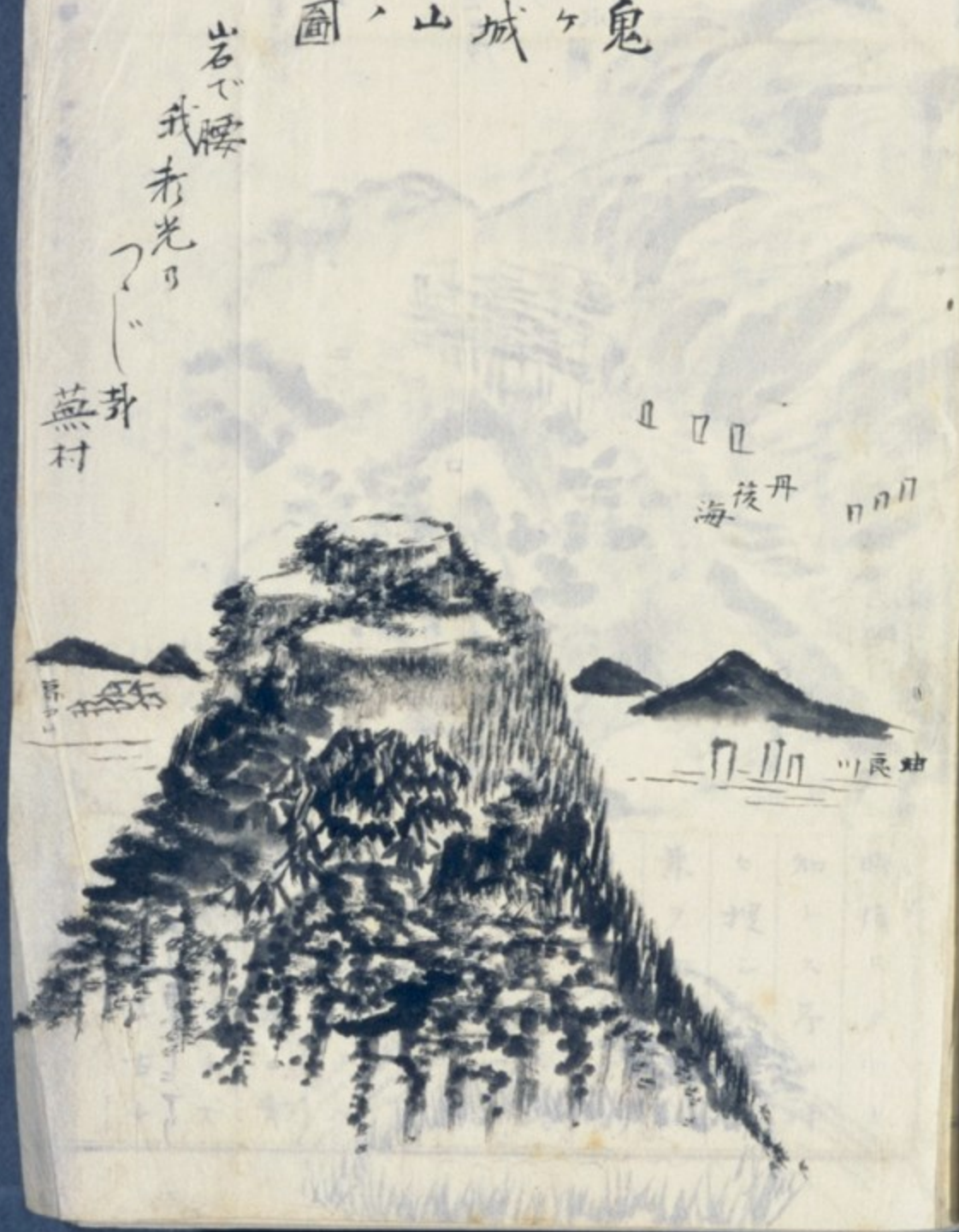
手遣ひ仕らんは必勝の術計京都府合戦たる利を得
得ひりて逃る、敵に勞を乗つて安工山まで押入
り織田の一族根を絶ち枝を枯らさん事何り難く
いべき總論ニ全文
ト勸ノタリ元春ハ勦ニ在ル公方義昭ニ言エス公方
ハ元春ニ能ク計ラヘトアリ元春由リテ丹波へ同意
ノ旨ヲ答ヘタレバ赤井等大ニ喜ビ急ニ鬼ヶ城ヲ取
繕ヒ元春ノ本陣ト為シ今ヤ遅シト毛利勢ノ來ルヲ
待テタルニ元春ハ小早川隆景ト兄弟シテ宗家ノ毛
利氏ヲ輔ケ所々ニ轉戰中ナレバ懸軍長驅織田氏ニ
當ルハ得策ナラズ又備前ノ浮田氏ノ去就モ定カナ
ラハルヲ以テ右ノ計畫ハ挫折シニケル

某家所藏ノ舊記ヲ左ニ摘録ス

享祿四年細川高國攝津尼ヶ崎へ打手トシテ出向ヒ
シ時丹波ニ在ル細川方ノ横山大膳大夫大槻右京大
天波々伯部伊勢守等隨ヒ行キケルニ細川方敗軍シ
大將ハ斃サレ士卒ハ過半亡ビタリト知レケレバ南
朝方ノ落人ナド和知上林ノ方へ逃ゲ來リ遂ニハ鬼
ヶ城へ楯籠モリ一揆徒黨ノモノヲ集メ小城ヲ拵ヘ
ントシテ人家ヲ取り壊テハ持上ケ金穀ヲ掠ノ人
民ヲ惱マスタ以テ横山ノ城主横山大膳大天賴氏塩
見筑後守利勝等ハ山ノ南ヨリ攻登リ中山城主中山
徳岐守長賴同太郎左衛門長遠等ハ山ノ北ヨリ攻上
リ一人モ残サズ討取りタリ其ノ後ニハ雲林院式部

京都府立総合資料館所蔵

鬼ヶ城の山圖



家高居住シタリシニ天正二年ニハヌモヤ釋迦辛尼
 伴敦負并河四郎左衛門久下七郎左衛門長澤越後守
 河田甚石衛門ト立籠モリ織田勢ヲ防ギケルニ明
 智光秀ニ攻メ立ラレニ百餘人皆討死セリ

京都府立総合資料館所蔵

南向

イ隆岩

口洞穴

ハ攀路

二同 上ヨリ見ル場所

ホ洞ロミ入路

ハ柿木

ト同

千側面ヨリ見ル山頂

リ岩エノ松並ア

又滝泉城ノ水



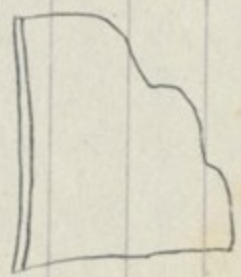
頂上ヨリ東下ニアリ

茨木童子ノ住ミタリ酒顔童子モ一時住ミタリト
 云フ洞穴ハ大山中ノ事トテ容易ニ知レズ予ヲ伴
 ヒタル案内者ハ土地ノ者ナルニ中々捜シ得ズ殊
 ニ夏木立茂リタル折トテ枝ヲ分ケ葉ヲ分ケ具ノ
 アルベシト想ハル、方向ニ進ミ漸ク捜シアテ夕
 ル時高キ聲シテ予ヲ呼ブ行カント欲スレドモ路
 ナレ案内者来リテ予ヲ助ケ具ノ洞口ニ導ビク洞
 口長サ四五尺幅モ同ニ程ナリケンモ大石上ヨリ
 落テ掛カリ具ノ大方ヲ塞グ自ヲ横ニシテ北ニ入
 ル事ニ間ニシテ折レ東南ニ下ル赤岩水ニ潤ヒ青
 色ヲ帯ブ洞内暗クシテ見ル可ラズ又測ル可ラズ
 洞口ノ左右ニニ株ノ杵アリ根ヲ見ルニ頗ル古シ

丹波志

童子ノ在ル時目印シニナシタルモノトカ外ハ皆
 他ノ樹ニテ茂リ合ヒ他所ノモノニテハ搜シ得ベ
 クモアラズ案内者モ此ノ折ヲ見付ケテ洞口ヲ知
 ルト云ヘリ洞口ノ上ニ大岩アリ松樹并ビ生フ木
 ニ纏リテ下リ木ヲ攀ダテ上リ漸ク樵路ヲ得タリ
 洞口ヨリハ上ルベシ下ル可ラズ
 城ノ水ト呼ブ池アリ頂上ヨリ東下スル數百歩ニ
 在リ長七八尺幅三尺許ノ山ノ井ニテ大枯旱ニモ
 涸レズト云フ童子ガ飲料ニテ後人籠城ノ際ニハ
 軍用水トナレリ
 此ノ山名高ク丈モ高レ山上第一ノ平地ハ長サ十
 四五間幅廣キ處ニテ四五間アリ第二高山ノ事ト

テ風景別世界ノ觀アリ坤位ニ福知山ヲ瞰ル大凡
 五十町アルナラン北隈ハ丹後ニテ平野山嶽河川
 海波一望ノ下ニ集マル其ノ太險ナルヲ以テ近村
 ノ者サハ登臨スルハ稀ナリト云フ
 鬼ヶ城切銀ノ
 切銀ハ截断シテ通用セシメ
 タルナリ
 圖其ノ歴史ハ
 詳ナラズ
 龜山天皇ノ弘長
 三年ニ切銀ヲ用ル
 フ禁不トアリ参考
 スマシ通貨ニ無
 數ノ銀錢○ノ如キモノモアリタリ



銀切

丹波志

神護慶雲二年秋七月散位從七位上昆解宮成得似
 日鐵者以獻言曰是丹波國天田郡華浪山所出也和
 鑄諸器不劣唐錫因呈以真白鐵所鑄之鏡其後授以
 外從五位下復與役採之單功數百得十餘斤或曰是
 似鉛非鉛未知所名時召諸鑄工與官成雜鍊之官成
 途窮無所施奸然以其似白鐵因年不敢伏寶龜八年
 入唐准判官羽粟臣翼贊之以示揚州鑄工僉曰是純
 隱也此間私鑄濫錢時或用之トアルヲ見レハ此ノ
 純隱ナルモノヲ以テ右ノ切銀トシ又ハ圓形ノ錢
 ニシテ通用シタルモノナラン
 鳥カ嶽 鬼カ城山ノ東南ニツバク山ナリ頂ニ樹
 木數株アリ

大字 池部 高四百五十七石八斗 内十六石ノ
 地ハ安井ニ在リ故ニ池部ノ左屋ハ十六石ノ米ヲ
 安井村ヨリ受取り四百五十七石八斗トシテ御倉
 ニ封入スルノ煩アリ封建時代ニハ此ノ如キヲ往
 々之アリ慣習俗ヲ成シ之ヲ改メシスル者モ無カ
 リシナリ 福知山藩領
 武神社 倉崎神社 稻荷神社 須賀神社ニ所 牛頭天王
 社ハ境内除地ナリキ
 研珠山 觀音寺 臨濟宗 本尊藥師如來 開山白
 峰 練 中興 藕菴
 古ハ觀音堂ニ聖觀音ヲ安置シタルノミナリシヲ
 具ノ作カ聖德太子ノモノナリ逆之ヲ寺ニシ住持

シタルハ白峰ナリ 文化四年焼失シ同七年再建
中興シタルハ蕪菴ナリ 大破シタルヲ明治拾年
又之ヲ新造セリ
大字 箸巻 高四百九十石餘ト注セラル餘ノ字
ヲ用アルハ餘裕アルノ稱ニシテ大名旗下士ノ高
ニモ之アリ奉行代官ノ常ニ注目シテ間竿ヲ入レ
丈量ヲ爲サレトスルモノナルガ果セル哉萬治二
年ノ檢地ニ際シ五百十一石五斗四分ニ合ト高附
ケセラレタリ間竿ヲ入レタル結果ト社ハ聞コエ
シ 山林モ延寶年中ニ間竿ヲ入ラレタリ 寛政
度民家百戸 領主旗下士武田河内守安部丹波守
ノニ家ニテアリシ

高野明神 社地免稅ナリシ 天神々社アリ
福壽山無量寺 臨濟宗 本尊 阿彌陀如來ニテ
唐土傳來ノモノ 應永二十四年創立 開山 一
笑禪慶 天正ノ兵火ニ罹リ元祿七年 實翁中興
ス
倉山 一字山号 金福寺址 領主武田越前守ヨリ寺領
若干寄附シタリト云フ
京園五十所歩寛政年間改メノ時已ニ之アリ舊株
古木ニテ一大森林ノ姿ナリ下ニ大根ヤ麥ヲ播種
シ藍ヲ栽上テ收穫ヲ重ネ利益ヲ倍シタリ平城天
皇大同二年勅アリテ粟漆ヲ天下ニ植エシメラレ
タリ此ノ邊リノモノハ其ノ遺種カ

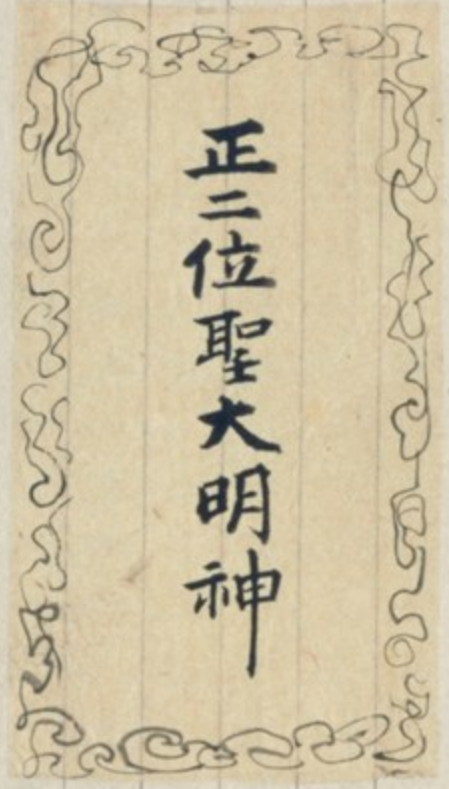
銅銀鑛ノ發見 猪ノ崎ト中ト池部トノ入會山ニシ
テ鬼カ城鳥ヶ嶽ノ西南ニ方ル妙見山中ニ於テ同
地ノ塩見等太郎之ヲ祭見シタリニ十六萬坪アリ
テ露頭ハ四百尺以上ナル山ナリ 鬼カ城山ト相
對シテ簞正僅ニ鳥ノ脊文昇キカ故ニ名ヅケタリ
トカヤ
丹後加佐郡夏間マデニ十一町五十間村路平坦ナ
リ 東ハ鬼ヶ城山ノ尾續キノ峰ヲ以テ疆界トス
西ハ耕地ノ溝ヲ思トシテ天津ヲ眺ムベシ
大字 安井 古高二百四十三石ニ斗四升九合
萬治二年松平主殿頭幕命ヲ奉シテ此ノ邊ヲ檢地
ス山林ハ延寶六年小出伊勢守亦幕命ヲ奉ジテ檢

地ス然レドモ村高二大變更ハアラザリシ文久度
ニハ高二百四十三石一斗七升三合トナリ内四十
五石五斗六升三合 安部摂津守領百九十七石六
斗九合 武田河内守領ナリキ 八坂神社アリ
大川ノ向フニ下川口村ノ天津アリ安井筈巻ノ間
ニ鬼ヶ城山ノ尾端川岸ニ出テ、岩アリ岩ザイト
呼ブ此ノ邊ハ洪水毎ニ川ノ瀬看ハリ近傍ノ耕地
ニ被害多シ享保年中筈巻村ヨリ堤ヲ築キテ竹ヲ
植エ附ケタリ年ヲ経ルニ從ヒ繁茂シテ防水ノ用
ト爲リシガ此トガ爲ニ天津村ノ地次第ニ水勢ヲ
受テ堤防ノ決潰少カラズ天津村是社明神下ノ街
道恰田天ノ如キ勢ヲナセリ又此ノ邊河端最狹シ

河
端
志

享保廿年ノ洪水ニ常水ヨリ高キト五丈ナリシト
 ズ 植附ケラレタル竹追々繁茂シテ林藪トナリ
 無頼者ノ棲處トナリシヲ領主ヨリ捕縛シ追放ニ
 處セラレタルトアリトゾ
 庵我辻堂 本尊薬師 古ノ迹侶バレ廣キ境内ニ
 其ノ傍ヲ見ル 安井
 大字 中 従前中村ト唱へ大古ハ大河トモ唱へ
 タル獨立村ナリシ
 高九百石 福知山藩領ナリシ
 鬼ヶ城谷ソノ水涼トナリテ田畑ヲ養フ谷ノ長サ
 十七八町アリテ收穫毎ニ豊富ナリ
 庵我神社 式内 祭神 神功皇后 古ハ庵ノ字ヲ

用ヒタリ
 古額ニシテ神庫ニ秘藏スルモノニハ 正二位聖
 大明神トアリテ裏面ニハ元享三年癸亥十一月二
 日庚寅書之散位正四位下藤原行房トアリ 杉板
 厚一寸餘長ニ尺一寸雲形アリ内分一尺一寸ノ幅
 平形ノ額ナリ



社宇ハ荒蕪ノエ匝カ作ル所トノ口碑アリ 元ハ

京都府立総合資料館所蔵

等卷ノ聖御前山ニアリ天忍穗耳尊ヲ祭ルトノ説
古クヨリ言傳フ 例年八月十五日ノ祭ニハ社人
五トモ等卷ノ西大河ニテ御杖ニ聖御前山ノ権現
ニ祝詞ヲ奉レリ 祭式九月九日
續日本紀光仁天皇寶龜四年九月壬辰丹波天田郡
廣我社有盜喫供祭物斃社中即去十許丈更立社
八幡社 福知山ニアリシヲ城築ノ際此ノ所ニ移
シタリト傳フ
祭禮ニハ神輿旗弓矢太刀槍等列ヲ爲ス福知山藩
ヨリ警固ノ士卒出テ嚴肅ニ執行セリ神社ノ修繕
ハ藩ノ負擔ナリシ
神跡ハ太刀ニテ三條小鍛冶宗近ノ作 松平主殿

頭領主タリシ時之ヲ京都ノ研師ニ錯落シサセテ
一層ノ神威ヲ加ヘ新ニ箱ヲ調製シ具ノ蓋ニ左ノ
文ヲ記セシメタリ
夫劔者文王之録桓公之葱楚之龍泉越之純鉤何
勝縷舉矧本朝天叢雲劔超越支竺炳煥乾坤神寶
之靈劔皇基之重器天下之治具茂以加焉茲丹波
國福知山天田郡廣我左中村有八幡社其社内納
收ニ條小鍛冶宗近之所鑄成之神劔一握星霜經
歲鞞琫燥爛鋒鏑汚裂因茲近代太守繕斫及之
願情莫世不有之凝信取闡欽仰神慮累代無神感
之許託空沙居諸今茲慶安ニ屠維赤奮若純陽月
松平氏尚倉局源忠房受封於斯處爲城主掌郡縣

城志

治民庶日域者神國而依神佑而靖邦家渴仰之餘
先就社前取修繕之闡神許憇然而感應不勝欽崇
之至課衆工遂繕完新斫之功乃至袋匣楹莊嚴之
飾謹奉納社中云爾

慶安二己丑年八月十五日

大檀越 松平尚倉局源忠房敬白

正徳年中ニモ之ヲ研磨シテ社中ニ納ムルニ城主
ヨリ家士ヲ添ヘ社人村長等京都ニ赴キ之ヲ修メ
夕リ此ノ外ニモ宗近ガ作物アリタリト云フ

箱荷神社 二所 秋葉神社 藥王神社

明光山養泉寺 臨濟宗 本尊藥師如來 開山三

光國師 醍醐寺ノ條參看 創建曆應二年 再興寶曆

年間 明治二十九年燒失 觀音堂ハ大仙寺ヨリ

移シタルモノ嘉永年中大破シタルヲ再興ス

産物 牛蒡

京都府立総合資料館所蔵

西中筋村

西中筋村 大字 土 石原 戸田 観音寺
 東ハ上下六人部村ノ西村ニ隣リ西ハ産部村ニ界
 ヲ交ハ南方角尖ヲ爲シテ下六人部産部ノ中腹ヲ
 衝ク村位ハ郡形小物ノ頸部ニアリテ北方何鹿郡
 ト平交ス何鹿郡綾部町ヨリ本郡ノ福知山所ニ至
 ルノ道路ニ筋アリテ此ノ村ソノ中ニ居ル何鹿郡
 ニ中筋村アリ是レ其ノ西中筋タル所以ナリ
 郡中ニ於ケル小村ナレド平面膏腴ノ地ヲ占メ米
 穀ニ裕ナル所トス知知川村内ヲ流レテ灌溉ニ便
 ス東ノ方下六人部ニ界シテ山アレド西南産部ニ
 接スル所ハ平坦ニシテ農ニ利ス具ノ山林ニ乏シ
 キヲ以テ薪炭ヲ他方ニ仰ガサルヲ得ズ依テ舊來

西中筋村

西中筋村

土村石原村戸田村ハ上六人部村ノ三候村山林ニ
 入ワテ之ヲ伐採シ来レリ之ヲ爲スモノハ一人ニ
 一枚ノ札ヲ携ヘテ山入ス其ノ札一枚ニツキ云米
 一斗ニ升ヲ三候村ニ前納シタルナリ一枚ヲ持ツ
 モノハ一年三百六十日山入スルモ妨ナキナリ其
 ノ獲得ノ多少ヲ問ハサルナリ 産物中ニ葱アリ
 大字 土村 古ノ産部庄 高四百一石五斗六升
 八合 澤地長七十間幅七間無稅地ナリシガ 寛
 政年度實地檢査アリテ村高増セラ六百七十七石
 八斗トナレリ安部攝津守領ナリシ
 松尾大明神 古ハ産部ノ氏神ナリ 大山咋神
 市杵嶋姫ヲ祭ル 祭禮舊曆九月十日 産部七村

トテ土村戸田村石原村川北村興村觀音寺村ニ前
 田村ヲ加ヘタルヲ氏子トシタリ石原ノ坂下ト云
 フ所ニアリシヲバ何年ノ頃ニカ今ノ所ニ移シタ
 リ故ニ右七村ノ者ハ今ニテモ參詣スルヲ多シ
 古傳ニ云ヘリ私部庄ニ私ノ漁翁ト云ヘルガアリ
 テ和知谷ヨリ由良、流ル、大川筋ニテ味方神守
 今内ノ間ノ魚ヲ捕ツテ此ノ大神ノ日供ニ奉レリ依
 リテ此ノ川筋ニハ諸人ノ釣ヲ禁シ且ツ騷ガシキ
 一切禁止セラレ殺生禁斷ノ場トナリ遂ニ音無
 トマテ言フニ至レリ味方ヨリ上ハ和知川ト呼ビ
 神守ヨリ下ハ小久保川ト云フトカヤ
 外ニ武神社 齋宮神社 八幡神社等アリ

丹波
 史
 志

大字 庄田 高八百二十石一斗二升四合ニシテ
 幕府ノ直轄地代官小堀數馬支配ト栢原藩領及ビ
 旗下士安部丹波守領交ル 文久五百四十四石六斗八
 升ニ合五斗内 三十一石七斗六升四合 拾
 二石七斗八升一合 佛代官所
 水神々社 祭神 周象女神 祭禮舊曆九月十日
 浦嶋神社 三柱神社 疫神々社 愛宕神社等ア
 リ
 此ノ地古ハ何鹿郡私市ノ部分ニテ大川ノ北ナル
 山ノ手ニアリシカ洪水ノ憂ニ由リ川岸ニ移リタ
 ルナリ故ニ元ハ麓我郷ナリシトカヤ只口碑ニ傳
 ハルノミニテ年歴判然セズ
 高隆寺が嶽へ採樵スルノ古例ナリシカ川北村ト

端無クモ争訟ノ起ルアリテ奉行所ノ裁判ヲ仰グ
 下トナリシカ京都西奉行ノ判決ニハ庄田ノ申立
 ニヨリ古來高隆寺山ヲ庄田ノ向フ山ト云フトノ
 證ヲ引キ山ノ南面ヲ庄田ノ村有トセリトカヤ
 大字 興 高五百十三石七斗三升四合寛政改四
 百五十石七斗三升餘無地高十三石四斗七升餘文
 久同高内五十六石四斗六升七合 御代官所 四
 百五十七石二斗六升七合 安部攝津守領 當時
 民家六十戸ノ綾部藩領ト旗下安部攝津守分領ト
 リ 此ノ無地高ハ寛政改後ノ下ナラシカ斯カル
 不明了ナル地無クシテ税ヲ課スルノ法ヤアル無
 地高ハ隱田羨地アリテ丈量セラレ常税ヲ課セラ

ル、ヲ恐レテ社村民ヨリ頼ヒ出ツルモノナレ一
 時ノ便濟ナレバ寛政改正ニ過ラテ糾サルベキ
 二社
 ナシホウヨリ大谷ハカケ観音寺ト入込立會ノ山
 林ナリ此ノ外ニ長田多保市ノ平石山ハモ入込
 例アリ
 天日大明神社 境内三段計除地ナリシ
 男田神社
 大字 石原 高九百八十七石四斗六合 民家百
 十戸 柏原藩領 寛政度查
 本ハ崔部ノ内ナリレラ此ノ村ニ合セタリ
 一品神社 伊弉諾尊 伊弉册尊 祭式舊曆九月

十日
 貴船神社 若宮神社 日吉神社 巖嶋神社
 金光山洞玄寺 曹洞宗 天正十五年建立開基大
 槻洞玄 山号寺号ハ夫妻ノ名ヨリ采レリニ堂門
 十六羅漢等アリ
 月輪山寶珠院薬師寺 開基洞玄ノ茅上原権八
 今ハ七寺トナリ址ノミ存ス
 権八荒神ハ右権八ノ葬所
 城址 スクモ山ニアリ大槻安藝守ノ居所
 大字 観音寺 古高八百九十石七斗三升 寛政
 改八百六十石内三十石七斗三升ハ無地高 柏原
 藩領 文久八百六十三石八斗八升三合五勺ニ入

丹波
 皮
 志

内七百八十六石一斗五升九合一勺六分御代官所
七十七石七斗二升四合三勺六分綾部領 觀音
寺ナル地名ハ國々到處ニ之アリ古時佛法興隆
ノ際觀音ノ功德盛シナリトテ流行シ之ヲ祀リタ
ルモノニヤ 無地高トハ所々ニ出シ示セシカ如
ク輕稅ノ地ト見レバ奉行又ハ代官ヨリ庄屋ニ直
ツテ租稅ヲ増サシムルモノナリ此ノ觀音寺ハ本
末何鹿郡内ニアリシヲ村民ノ願ニヨリ當郡ハ編
入シタルナリ何ニヨリ轉郡セシカハ理由左ノ如
シ當時ノ語ニテ山手ト云フ稅目アリ山稅ノ謂ナ
リ當時山家藩領地高不足ナルヨリ何鹿郡ノ山手
ヲ領セシメラレ村々ヨリ他領地タリトモ山手丈

ハ之ヲ談藩ニ納ムルトトナリタルガ觀音寺ハ山
手ヲ納ムル丈ニ山家ハ赴クノ不便ヲ言ヒ左テ本
郡編入ノ出願ニ及ビ遂ニ許可セラレタルナリ
式内 阿比地神社 アリオキトト云フ 祭神大日靈尊
何鹿郡ニ中筋アリ西中筋アリテ西中筋ヲ本郡ニ
入レタルヨリ此ノ社モ共ニ本郡ノモノトナレリ
延喜式ニハ元ノ如クニ何鹿郡内ノ神社トセリ
祭禮舊例九月九日
箱荷神社 三柱 熊野 小森 幸神 中宮 等
ノ小社アリ
小字 大木牧ノ堂屋敷畑地ヨリ石葺長六寸幅一
寸二分ノ槍ノ穂先メケルモノ銅製唐草ノ彫刻アリ

何鹿郡志

ル筭ノ如キモノ長五寸幅二分アルモノヲ祭堀セ
リ大正三年五月二十六日
補陀洛山觀音寺 真言宗 本尊觀世音菩薩 漆
道仙人養老年間此ノ寺ヲ創スルヤ自作ノ觀音像
ヲ以テ本尊トセリ而シテ空也上人コレヲ中興ス
小野成尊僧都平安朝ノ頃任職ス僧都ハ後三條白
河兩皇ノ導師ナリ 六條天皇ノ頃東寺ノ長者實
堅備正兼務シ岩倉派ノ漆流ヲ傳ヘ學林ニ門徒信
徒集合セリ寺勢興隆シテ十餘坊ヲ連ヌ建仁二年
鎌倉將軍ヨリ六人部新庄ノ平高盛ヲレテ別當ト
シテ寺務ヲ視セシメ丹波ニ於ケル佛漆道場ナリ
弘安七年北條時宗年シテ貞時忌日田若干ヲ寄進

シ永仁六年左兵衛尉平盛氏ヨリ燈油田ヲ寄附ス
足利氏ニ至リ寺領安堵ノ赦書ヲ下シ康安年中守
護右京亮光秋駿河守光春父子ヨリモ田園ノ寄附
アリ應安年中六人部左ガ天龍寺領トナリシ時庄
内ノ寺領ハ元ノ如ク當寺ニ歸タリ應永年間東彌
九郎カ尊氏ニ叛キ丹後ニ死スルヤ没收セラレタ
ル領邑皆此ノ寺ニ入り細川氏此ノ國ヲ領スルヤ
一山ハ守護不入ノ地トシタリ應仁以來モ細川代
々ノ庇護アリ大永年中ニハ細川高國ノ庇護ニ依
リ仁王門ヲ修繕セリ天正四年ノ兵火ニ罹リ寺堂
書記物品大抵烏有ニ歸ヒタリ天正五年十一月本
堂再建元和二年有馬玄蕃頭福知山入城ノ際制札

京都府立総合資料館所蔵

ヲ渡シ寛永十年九月鬼式部少輔ヨリモ亦渡シタリ

禁制

一 甲乙人致狼藉事

一 喧嘩口福事

一 國幣郡幣事

一 商人法公事

一

右條ニ法華一文字部ニ召喚令停止記是於お幣事
可也 嚴科志也

元和五年二月十五日

有馬伯耆守 五

右ノ外什物ノ内ニ最明寺時頼寄附ノ磁像ノ觀音

ヤ中原兼遠ガ觀音ニ捧ケタル額文ナドアリ坊中

存スルモノニワ曰ハク大聖曰ハク多聞 境内除

地ニシテ下馬牌アリ 朝倉義景ノ墓 當村及ビ

何鹿郡ニ散在セラル越前ノ遺臣ガ築ケルモノナラ

シ

一 說本尊現今モノハ運慶ノ作 仁王ハ丹慶ノ作

門ハ飛騨工匠ノ作

今ハ高野山ノ末寺 天田三十三巡拜所ノ第一

札所

觀音寺城址 大槻將監ノ居所

京都府立総合資料館所蔵

下六人部村

下六人部村 大字 長田 多保市 岩崎
 東ニ上中ノ西六人部村アリ北方角度ノ地ハ上六
 人部ト西中筋トノ西村ニ挾マリ西ニ雀部村ト福
 知山町ノ地ニ接ス
 大道坦々福知山ニ往來スベク東行シテ船丹郡ニ
 赴クベシ土師川ノ源流六人部川ノ名ヲ以テ斜ニ
 村岸ヲ經過シテ土田ヲ灌溉ス何鹿郡丹山系迄キ
 テ入り来リ村内山丘離合シテ各部落ヲ遮断セン
 トス
 村家相聯ナリテ町家ヲ爲シ旅亭五戸兼テ飲食
 ヲ隣々間驛トシテ又小市トシテ近在ノ需要ヲ充
 給シタルガ維新後漸次減衰シ明治三十六年ニハ

丹波志

旅亭僅ニ一戸トナリ夫レサハ維持ニ困メリ然ル
 所以ハ何シゾ人カ車ガ旅客ヲ載セテ奔リ福知山
 ノ自由郷ニ誘拐スルニ由ル
 古昔此ノ地ヲ六人部ノ左トシ又六人部ノ郷ト呼ビ長
 田多保市岩間大内田野樂々塲宮内ノ総稱トセリ
 宮内ハ岩崎ナリ又千束河合長谷菟原ヲ四個ト呼
 ビ長田大内生野ヲ下三個ト呼ビ一團トナシタリ
 長谷ハ細見谷ナリ元祿中ニハ河合村岬村下河合
 村上河合村加用村臺頭村細見辻村中子村中島村
 奥村田谷村松村菟原村下村高杉村友洲村長田村
 多保市村岩間村トナリ又長田ニ多保市岩間ヲ入
 レテ長田村トシ大内ニ山野樂々塲宮内ヲ合セテ

下六人部村

大内村トシ生野ニ三俣平石上安場塲越正後寺坂
 室池田向池田上野萩原ヲ加ヘテ生野村トシ千束
 ニ蘆洲草山寺尾ヲ加ヘテ千束村トシ河合ニ岬下
 河合梅ヶ原上河合臺頭加用大原ヲ加ヘテ河合村
 トシ細見谷ニ細見辻中出中嶋奥ヲ加ヘテ細見谷
 村トシ菟原ニ中菟原下菟原高杉友洲大身ヲ加ヘ
 テ菟原村トセリ其ノ沿革數次ヲ歴タリ之ヲ六人
 部ニ十七村ト呼バリ數ニ於テハ不足ス
 河合ヨリ臺頭ニ至ルノ五村元祿高千五百三十
 石 細見辻村百七十七石 中出村百七石 中嶋ヲ
 奥村二百四十三石 田谷村松村ヲ合ム 菟原村三
 百七十五石 下村三百三十七石 高杉村百六

丹波志

十六石 友瀨村三百四十八石(長田大内生野ヲ舎ム)
 六人部古姓ニ類 一ハ神別ニシテ火明命五世ノ
 孫武彞目命ノ後ニレテ攝津國天孫六人連ナリ同
 族ニ三富部アリ 一ハ蕃別ニシテ和泉國諸蕃六
 人部連百濟公同祖酒王ノ後ナリ 此ノ姓氏ノ起
 因ハ此ノ地名ヨリスト云フ記ニテ以テ後案ニ備
 ノ 毎年六月三十日六人部居住西京進篠等ノ文
 古史ニ見エ是ハ節折ノ式行ハセラル、時具ノ竹
 條ヲ上ルナリ節折ハ天皇ノ御丈ヲ量ルノ典禮ニ
 テ明詔ニ至リ再興セラレ是又六人部姓ト聞スル
 所アラシ
 大字 長田 小字 上松 下道端 奥 駒場

下六人部村

元祿高千石餘 寛政改高千三百六十三石五斗
 當時民家二百戸穢多八戸
 稻荷神社 二所 高倉神社
 正蓮寺 真宗 太平山願來寺 真言
 古時大嘗祭行ハセラル供御田アリ 総論ヲ参
 看セヨ 爾つゆもめくもあぢねき時トーあぢね長田乃屋ま
 子あぢねまぢ 兼仲 神代まぢのたぢまやあぢね
 ち田乃わねのまぢあぢねまぢ 兼光 節まぢまぢ乃
 まぢあぢねまぢのまぢあぢねまぢまぢまぢまぢまぢ
 まぢあぢねまぢのまぢあぢねまぢまぢまぢまぢまぢ
 夫本集古今集ニ出デタルカ右等祝意ヲ表シテな
 かゞヲ詠メルモノおさだヲ詠ノルニアラズ文字
 ノ同キヨリ混淆ニタルカト思ヒ其ノあぢねナル

地ヲ丹波ニ求メテ得ズ因テ又思フ此ノ地元来在
 ガトナリシヲ中古おさだト讀ミ換ヘタルモノ乎
 ナド再ニ考慮シタルガ次ニ示ス養老水詞ヲ據ト
 シ暫ク此所ト假定ス(多紀郡ノ卷首ヲ參看ス)
 小宇深谷ニ一湧泉アリ種々ノ俚説ヲ傳フ曰ハク
 神水ナリ曰ハク靈泉ナリ蓋綾部地方ヨリ地下ノ
 沙石ヲ滲過シ来ルモノ鎮主朽木綱貞養老水ト命
 名ス之ヲ發見シタルハ今明治四十年ヨリ百三十年前
 ナリ道傍ニ路アリ草萊コレヲ掩ヒ松栢其ノ上ニ
 アリ一方ハ山ニシテ一方ハ下ル下ル丁六町七町
 モアラン平極メテ送フ見ル所圖ノ如シ誰ガ設ケ
 タル浅槽或所一ハ高ク一ハ低シ土人曰ハク夏日

燒クカ如キ時タリ此ノ一槽ヲ一周スル者無シ
 ト著者試ニ盥漱スルニ冷ハ即チ冷ナルモ土人ノ
 言或ハ誇大ナラント裳ヲ褰ゲ一槽ノ一隅ニ足ヲ
 容レ其ノ内側ニ由リテ一周ス寒冷骨ニ砒シ全身
 麻痺セントスルモノ、如ク脚部ノ水ニ浸サレタ
 ル所ハ潮紅セリ水洩ナレド旨シ茶ヲ携ヘガルト
 恨メリ碑文ハ漢文ニシテ漫漶シ連讀スル能ハズ
 由リテ左ニ詞文ヲ出カス

養老水詞

天田郡長田乃里ハ昔壽永元年大嘗會主基方稻舂
 歌ニ丹波國長田村を推中納言兼光卿歌人うて神
 世よりくらのたてり名村に長田村のしむむむ

下人部村

丹波志

下六人部村



ハ
碑
文
ニ
テ
細
負
ノ
立
テ
タル
ナル
ベシ

下六人部村

長田
 野大野ニシテ堅一里横十四五町許ノ原野ナリ明
 治初年地方官ノ手ヲ離レ陸軍省ノ管理ニ歸シ東
 方丘上ヲ以テ演習要地トシ千五百メートルノ距
 離アルヲ以テ山砲ノ射的ニ充宜シトス又一中隊
 ヲ蔭蔽ニ得ルノ丘陵モアリ其ノ初メ長田村ヨリ
 六萬坪ヲ献納シタルニ更ニ又三萬坪ノ買上ケテ
 爲シ一里十八町ニ十八町ノ縱横トナリ大阪鎮臺



碑



養老水園
 碑石園

上

下

下六人部村

右ノ標示アル所ヨリ僅ニ登レバ名ニシオノ長田
野大野ニシテ堅一里横十四五町許ノ原野ナリ明
治初年地方官ノ手ヲ離レ陸軍者ノ管理ニ歸シ東
方丘上ヲ以テ演習要地トシ千五百メートルノ距
離アルヲ以テ山砲ノ射的ニ充宜シトス又一中隊
ヲ蔭蔽ニ得ルノ丘陵モアリ其ノ初メ長田村ヨリ
六萬坪ヲ献納シタルニ更ニ又三萬坪ノ買上ケテ
爲シ一里十八町ニ十八町ノ縦横トナリ大阪鎮臺

長田野 即 大野

陸軍射的通行道



養老水園
碑石園

コリモ毎々演習ニ来リ
 此ノ原野ヲ以テ牛馬ノ牧養ヲ爲セリ
 建テ綱ヲ長クシテ牛馬ヲ維ク
 綱ノ上ニ臥ス行人具ノ側ヲ過カレバ見テ起キ或ハ嘶ク之ヲ遠望スレバ具ノ綱ヲ見ザルカ故ニ放牧スルカ如シ
 永上郡竹田村ヨリ長田村ヲ過キ此ノ野ヲ横切リテ丹後舞鶴ニ達スル一線路アリ之ヲ播州街道トス
 此ノ野ノ東部ニ一簇ノ人家アリ明治初年福知山藩士塩見傳内ガ藩主ニ請ヒ開拓ニ従事セシモノニテ當時巨多ノ人夫ヲ役レ或ハ犯罪人ヲ役シテ

之ニ従事セシノシニ明治十六年此ノ地ニ没セリ
 其ノ事業ニ與セシモノ近郷ヨリ居テ移シテ一小部落ヲナシタルナリ
 其ノ家ニ震スルニヨリ前ヨリ令シテ長田ニ避ケシム其ノ都度人口ヲ量リテ陸軍ヨリ米銭ヲ給セリ
 野中ニ青塚ノ平ト云フ所アリ三個ノ石塚アリ長田多保市岩間三村ノ立會ニテ之ヲ改ムルノ舊慣習アリキ
 毫根寺故址アリ

下六入部村

下六入部村

下久部村



本尊	基衆尊	永ト云	真言ノ	清苑ノ	後青ノ	小淺ノ	一軒ノ	杉山号	近此ノ	ノ	覺寺址
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----

丹
江
言

京都府立総合資料館所蔵

下
久
部
村



本	基	永	真	下	後	小	一	山	此	之	臺
尊	來	卜	言	清	青	溪	跡	号	此	無	臺
寺	寺	云	ノ	苑		ノ	ノ	号	ノ	址	址

京都府立総合資料館所蔵



出雲寺山 法林寺 真宗 東本願寺末 本尊
 阿彌陀如来 本願寺二代覺如上人作 開基兼專
 法師 法師ノ父ハ長田村主兄ヲ和泉守盛永ト云
 法師幼ニシテ家ヲ出テ佛造トナリ天台真言ノ
 教義ヲ極ノ博學多文ノ聞エアリ朝旨アリテ清範
 法師ノ稱ヲ賜フ後醍醐天皇ノ敵信殊ニ深ク後青
 庵ノ額面下賜アリ 此ノ時ノ宸翰攝津國小濱ノ
 毫撰寺ニ入ル此ノ寺モ毫撰寺ト号シニ寺一跡ノ
 姿ナリシガ中古山城國愛宕郡出雲村ニ移ル山号
 ノ由リテ起ル所以ナリ後又撰津小濱ニ遷ル此ノ
 須長田ノ毫撰寺址ニ明覺寺ヲ創設シ幾ハクモ無
 ク福知山ニ移ル特昌ナル僧長田ハ来リ明覺寺址

下六人部村

ヲ道場トシ終ニ法林寺トナレ共ニ門徒宗ナリ

大野山善光寺址 柵松ノ裏ノ野ニアリ善光寺屋

敷ト呼ブ地コレナリ

大字 岩間 高二百八十七石 文久同 民家六十

六戸 小字小野五戸 福知山藩領 寛政度

天神々社 荒神々社 若宮神社 山神々社

安居山高澤寺 曹洞宗 開山雲覺 創始元和八

年一説正徳年中

古城 吉良兵衛居址天正年中落去

孝女 嶋村たね 父ヲ八右衛門ト言テ目ニ一丁

字無ク交ル所多クハ郷黨ノ無頼漢ナルヲ以テ何

日シカ其ノ惡感化ヲ受テ往々村人ノ忌憚指避ス

ル所トナルヲ慶ハ妻コレヲ嘆キ諫章スルモ聴カ

レ不之ガ爲ニ常ニ神心ヲ惱マセシガ一年病ヲ抱

キ遂ニ起テ能ハズ愛スル所ノ一女たねヲ遺シ

テ歸ラヌ旅路ハ辿リタル之ヲたねガ七歳ノ時ノ

事トスハ右衛門後妻ヲ入レシガ間モ無ク出デハ

美濃ニ居ルたね之ヲ實母ノ如クニ視テ事ハ之ニ

孝養スルヲ以テ生母ニ孝養スルモノトシ居タル

ニ今又此ノ索居ノ不幸ニ遇ヒ是モ継女ノ已アル

故ト思ハバ後母ノ心ヲ慰メズニハ平然トシテ居

ル能ハズ行キテ逢ハント乞ヘドモ父許サズ一念

徹シテ一計出テ先祖代々信仰セル身延山參詣ヲ

乞フテ許サル便々茶摘養蚕緇繅繰繰ニテ獲タル

下六人部村

所ヲ路費トシテ東行シ十二年目ニ相遇テ悲歡
交ク到ルノ情ハ實母子ノ如クアリトカヤ爾後
昔信ヲ密送スル丁年アリ具ノ死訃ヲ聽クヤ數日
啼泣シテ父ニ怪ミ責ラルセ回忌辰ニ相當ルヤ又
前ノ如クニ旅費ヲ調ヘ身延詣テニ托シテ之ニ赴
キ金圓ヲ投ジ墓標ヲ建テ、歸ル明治十七年ニハ
右衛門刑ニ觸レテ警察ニ拘留セラルたね身ヲ投
シテ警官ニ請ヒ父ノ刑ニ代ラントテ乞ヒ啼哭己
マズ警吏之ガ爲ニ迷惑セリ父ハ平素賭博ヲ好ミ
シ故ソノ嫌疑ヲ受ケタルナリキ自後之カ爲ニ感
化セラレ又能ク其ノ身ヲ慎ミ行ヲ改メタリ京都
府ヨリ賞狀ヲ與ヘタリ其ノ文ニ云ハク

平素温厚ニシテ父ニ事ハ孝養怠ラズ貧窶ノ中
ニアリテ晝夜家業ニ勉勵シ毫モ父母ノ意ニ背
カズ保養至ラザル無ク七年間志操ヲ廢セザル段
洵ニ奇特トス仍テ爲具賞金壹圓五十錢下賜候
事

吉良たつハ吉良久吉ノ妻ナリニ十六歳ニシテ來
嫁シ其ノ翌年ヨリ夫ハ喘息ノ疾ニ罹リ業ヲ營ム
能ハズたつ晝夜其ノ肩ヲ操ミ背摩リ幼兒ヲ養ヒ
シテ豆腐ヲ擔ギ近村ニ賣リ廻ハリ醫藥衣食ヲ營
求ス三子アリテ夫死ス家終ニ四壁立ツノミ而ル
ニ子ハ學校ニ通學セシメ其ノ生長ヲ樂メリ京都
府ヨリ左ノ褒賞ヲ下セリ

下六人部村

下六人部村
支
志

夫、罹病後ハ貧困ノ中ニ在リ能ク貞節ヲ守リ看
護怠ラズ傍ラ子女ヲ撫育シ其ノ志操十餘年間
一日ノ如シ洵ニ奇特トス依テ爲其賞金壹圓五
十錢下賜候事

大字 多保市 高四百五十一石五斗 文久同
民家六十八戸 福知山藩領 寛政改 小字山田
寛政度改民家六戸 明治初年十戸
天神々社 祭神國常立尊 末社六個 一團狹土
尊 二豊斟野尊 三湊煮尊 沙土煮尊 四大戸
之道尊 大岩邊尊 五面足尊 惶根尊 六伊勢諾
尊 伊勢野尊 別ニ一小社アリ菅原神ヲ祭ル
境内方百間許 神田一段八畝廿五歩 年貢村除

下六人部村

七天神ト稱スルハ 此ノ天神社ニ草山ノ天神社
大内ノ天神社田野ノ天神社生野ノ天神社岩間ノ
天神社 岩間小野ノ天神社ニテ 春秋ノ彼岸ニ巡
拜ス又祈願アレハ巡拜祈願ス
右七天神社ハ用明天皇ノ皇子麻呂子親王ノ創建
ト云フ或ハ和銅ト云ヒ或ハ天文ト云ヒ詳ニスベ
カラズ菅原道真ヲ祭ル所ヲ天神社ト唱ヘタルハ
京都北野ニ大古天神社アリタルヨリ道真ヲ北野
ニ祭リテカラモ之ヲ天神社ト唱ヘタルニ起ルト
カヤ此ノ天神社モ他ノ六天神社モ誤ラレテ道真
ヲ祭リタルモノト誤解スルヤ久ミ殊ニ當社ニハ
菅原神ヲ祭ル小祀アレバ混全スルモ理ナリ 麻

呂子親王ガ丹後國ノ鬼退治ノ一條ハ龜岡町ノ東
 ナル篠村ノ馬場以下所々ニ出デタルモノナルガ
 此ノ七天神ニモ亦各ノ話アリテ曰ハク此ノ七
 天神ニ祈願ヲ込メ玉ヒ多保市ニ二個ノ大石ヲ立
 ラ七天神ヲ祭り玉ヘリナド傳フ此ノ石ハ大槻
 屋敷ト云フ所ニ二個アリ一ハ高サ七尺一ハ五尺
 許ナリ
 祭禮七月十六日酉ノ刻即チ夕景ヨリ始マル竹葉
 ヲ手々ニ持チ唯ス相撲ヲモ興行ス
 厄神々社
 八幡神社
 大野山善光寺 曹洞宗 本尊釈迦如來 弘仁二

下六人部村

年長田ノ裏野ニ七堂ノ伽藍ヲ建ツ弘法ノ開基ナ
 リ天正七年焼失 元和元年再建 實嚴和尚中興
 又焼失 寛政十年今ノ地ニ移シテ建立 弘法作
 地藏ノ像 狩野守信ノ十六羅漢 郡内東部ノ名
 刹
 船山 北境ニアリ大野ガ原ヨリハ東北ニ當ル
 諸山ナリ 湯船トモ呼ブ
 古城 市越大池ノ奥ニアリ城主大槻阿多之助ハ
 頼朝ノ射手ニテ近江坂本ヨリ移住セリトカヤ
 蛸蟲話 日本全國ニ於ケル蛸蟲國ハ丹波ニテ其ノ
 内ノ蛸蟲郡ハ天田郡ニシテ其ノ蛸蟲村ハ下六人部ト

丹波志

云々モ証言ナラサル可シ

大正十一年度健康診断ノ決果學生二百人中百八十
九人マデ此ノ患症アルコトガ糞便検査ニ由リテ知ラ
レタリ内ニ卵塊所有者百八十九人即八十四ハセン
トニテ捨テ置ク可ラサルヲ以テ爾來毎月十日ト
二十五日トニかつと海人草ヲ低學年ハ一人充テ
二尾乃至三尾ヲ五勺乃至七勺ノ湯ニ煎ジ出シ晝食
尾乃至四尾ヲ七勺乃至八勺ノ湯ニ煎ジ出シ晝食
前小學校教室ニテ一齊ニ服用セシメタリ經費ハ一
ヶ月一人前四錢

中六人部村 大字 宮 大内 田野

上六人部村ハ東位ニアリ下六人部村ハ西位ニア
リ而シテ東南ニ細見村アリ西岸ニ氷上郡界アリ
岸北共ニ尖角ヲ為シ西ニ土師川ノ上流アリ北ニ
大久保川ノ下流アリ氷上船井ニ郡ノ水ヲ受ケ宮
ノ傍コレガ合流ノ所トナル細見村ノ界ニ一山系
アリ岸北ニ丘陵アレドモ平野田廬ニ富ム古ハ六
人部莊ト曰ヒ又六人部郷ト曰ヘリ
大字 宮 古昔三輪明神ノ宮アリテ一ノ宮トモ呼
ビ郡中ノ名社トシテ名高カ、リシヨリ遂ニ宮モ
テ村ノ名トセリ此ノ如キハ伊勢ヲ始メ所々ニ之
アリ小字岩埼仁田嶋田野間アリ岩埼七十五尺ヲ

中六人部村

中六人部村
岩埼
七十五尺

合セラ寛政度ニ民家百七十戸高五百三十四石五
斗六升内岩埼ニ百石ヲ出ス産物瓜類ヲ上等トス
宮村瓜ト呼バ
小字丸山面積五十坪許明治四十一年掘リ出シ夕
ルモノアリ瑪瑙勾玉一個唐金製鈴十五個琥珀切
玉一個土製平瓶三個地金銅銀着七環七個青玉管
石三個土器二個唐一箇刀身一本孰レモ古色揃ハ
ベキモノニテ其ノ中ニ就キ新シキモ三百年ヲ経
タルモノニテ古キハ知り得バカラズ
宮ハ古時非常ナル勢力アリタルモノニテ社前ヲ
往来スルニ馬上ヲ許サズ故ニ士人ノ江戸ニ參觀
スルモノ頗苦ミタルヲ以テ ^{ヒツ}上ノ山上ヨリ今ノ

所ニ移シ道路ヨリ隔離セリト云フ境内八十間四
方アリ舊曆九月十四日ニ祭式アリ大内ノ囃シガ
嶽ニ旅所アリ古ハ大内ノ上ノ軒下ノ軒ト唱フル
程ノ人家アリテ皆此ノ社神ヲ以テ産土神トセリ
古城 仁田和泉守ノ居所 民家所在ヨリ二十町
許隔タリタル山上ニアリ和泉守ハ長田村ノ高橋
ナルモノニ討タレテ死シ妻女ハ大内ニ逃ト是モ
辨天社ノ側ニテ討タレ一片ノ墓碑ヲ止ム
古時此ノ所ニ塩見嶋太ト云フ地侍アリ又池田村
(上六人部村)ニ池田ヲ名乗ル士アリテ智舅ノ間柄ナ
ルガ二人相談ノ上ニテ宮村ノ田地ニ灌漑シ良田
ヲ造ラントテ池田ノ川流ニ堰ヲ設ケ向テ池田ノ

京都府立総合資料館所蔵

岩ガ端ヨリ六町許ノ長キ溝ヲ掘リ幅ハ四尺許ナ
 ル川トナリ水モ善ク流レ来リ大ニ便利ヲ得タリ
 堰ノ名ヲモ宮井ト呼ビ宮村ハ川末ナルニ却ツテ
 之ヲ水元トシテ溝敷ノ出資ヲモ爲サズシテ己ガ
 田用ニ供セシムルトセリ
 大字 田野 高三百五十一石 文久改四百九十
 一石四斗一升九合五勺 民家百戸 柏原藩領
 寛政度調
 天神々社 湫土煮神 沙土煮神 祭禮六月廿五
 日 九月廿五日 舊曆
 神明神社
 土師川竹田川此ノ所ト下六人部村トノ間ニテ合

流ス土師川ハ觀音峠以西ノ諸流ヲ合セラ以テ本
 郡ニ入ルモノ而シテ竹田流域ハ本郡ノ細見川合
 ノ諸流ヨリ成ルモノトス
 ウノキノ山路ニ境塚アリ氷上郡石原ニ接ス 郡
 落ニ 樂々場 五十戸 山田 二十戸 而シテ田野 百二十戸
 合高百石前示村高ノ内
 古城 イノギトモウノギ氏云フ菟ノ木縫殿助ノ居
 所ト云ヒ或ハ小野木縫殿助ノモノナルヨリ誤テ
 呼バレルモノト云フ其ノ菩提所ト云フが大内ノ後
 青寺
 御居間屋敷ハ本在迹ナラント云フ今ハ畑地トナ
 レルガ四方ニ堀アリ巽一方平地ニテ宇野木ガ丘

文
 志

神代卷

ト云フ本丸迹ヨリ南方一町半許ナル氷上郡下竹
田村ノ内石原分ノ山中ニ二十間許ノ堀アリ此ノ
城ニ属セルモノト知ラル

大字 大内 元禄高五百二十七石二斗七升 氏

家百三十戸 文久高五百四十三石四斗二升四合

綾部藩領 小部落山田 長千谷間ニ三十戸連ナ

リ立ツ

天神々社 祭神豊斟野神 祭日 三月廿五日

六月廿五日

八幡神社 祭神應神天皇 祭日 八月十五日

遊源山洞樂寺 竹田村石像寺末曹洞宗

出雲路山後青寺址 境内九十五間四方 本尊藥

師如来 天正年間退轉シ後青菴ノ一字ヲ残ス後

醍醐天皇ヨリ衆專和尚ニ賜ハリシ勅許ノ額アリ

衆專ハ長田村高橋氏ヨリ出ゲタル者ニシテ後ニ

ハ一向宗ニ入り舊里ニ歸リ出雲山庵撰寺ヲ建立

セリ今ノ法林寺コレナリ

古城 堀上経進貞次ノ居所 本庄西脇ノ宇鉤屋

リノ南方矢倉ノ字アリニノ丸ハ四町上リ二十町

ニノ丸十町ニシテ本丸ソコヨリ東ノ山麓マデ平地

ニ町許代ノ方ニ竹田川アリ午ノ方ニ的場アリ代

ノ方ナル坂下ニ金谷田アリ甲ノ方ニ玉谷アリ其

ノ向ノニ平野アリ

天神社ノ奥ニ田區アリ高世七石定免ニツ五歩開

神代卷

拓者宮村七郎兵衛二百餘年前ノ人子孫具ノ澤ニ
露ヲ六月之ヲ耕ス 鹿ノマタ場アリ大又タバナ
リ 産物小豆

下豊富村 大字 荒河 岩井 厚 新庄 奥野
邊 和久寺 羊田 室 今安 拜師 大門

正明寺 市寺 笹尾

北ニ庵我村西ニ下川口上川口金谷寺ニ上豊富ア
リ而シテ東ニ福知山ヲ扣ハ南方東ニ向テ突出
シ氷上郡ノ竹田蘆田ニ村ニ交ハル此ノ處兩郡凸
凹ス
姫髪山村西ニ聳正和久山相連ナリ神幸山郡界ニ
峰嶽トシテ南方ニ塚畦ニ茶臼山福知山ノ曾我丹
ト相界スル所ニ屹立ス
和久川西方上豊富村ヨリ流レ下リテ村内ヲ通過
シ福知川ニ合流ス

下豊富村

下豊富村
下豊富村
下豊富村

此ノ邊リ古ノ和久郷ナルヲ以テ山ニ川ニ地ニ名
ヅク庵我村方面一帶平野アリ 川流ニ中斷セラ
レ新在平田拜師笹尾正明寺室厚市寺等ハ摩ニア
リ和久寺奥野邊荒河岩井今安大門等ハ北ニアリ
川幅十四間村人徒涉シテ往來セリ
道路ハ但馬街道永上街道アリテ一ハ西ヨリシ一
ハ南ヨリシ拜師ニテ相合ヒ以テ東向シ福知山ニ
赴クベシ
大字 荒河 高五百七十石二斗九升 福知山藩
領ナリヤ 文久同 産物米質良好ニシテ豊富ナリ
豊富米ノ名ヲ得タリ田野多シ 上荒河ハ和久郷
岩井ト相並ヒ田畑ノ入組アリ

武神社 素盞尊ヲ祭ル 祭禮舊曆九月十五日
丈六山相壽菴 臨濟宗 本尊 觀世音菩薩 開
基 播州三木城主別所豊後守ニテ創建ハ天正年
中開山了徹和尚 寛永年中長安寺四世ノ僧住持
ニ長安寺ノ末寺トセリ
興福山蓮正寺 真宗 本尊 阿彌陀佛 開基
釋義孝 創建寛延二年三月 朽木出羽守綱負ノ
筆宗祖見真大師ノ畫像アリ
寶珠山常照寺址アリ舊境内除地ナリシ
古城 大木山ニアリ山吹將監高信居守シタルヲ
所ノ住人荒河伊右衛門逆意ヲ起シテ之ヲ亡ボシ
益々暴威ヲ振ヒ厚村ノ茶臼山ヲモ責落シ城主村

丹波
洲
志

上氏ヲ逐テ此ノ所一帯ヲ占領セリ 福知山城
主ノ塩見大膳モ枝城ヲ此所ニ置ケリ
福山安右衛門翁小傳

翁ハ青年ヨリ農事ニ勉勵シ各種ノ公職ニモ就キ
地方農産業ノ改善發達ノ爲ニ力ヲ悉シ府會議員
郡會町會組合會等ノ議員ニ舉ゲラレ去ル四十一
年京都市ニテ開カレタル毅徳大講演會ニ於テ篤
志家トシテ推舉セラレ夙ニ一郷ノ敬慕スル所ト
ナリシガ不幸ニモ同年八月病歿セリ今テ其ノ建
碑式ヲ其ノ墓所ニ行フ表面ニハ福山安右衛門翁
之碑ト題シ右側ニ左ノ文ヲ彫ル
翁氏福山名安右衛門天田郡豊富村荒河人醇厚

篤實最力農業注心於公益整精於村治歷村長郡農
會長等諸職政々勵精勤躬匪懈數十年如一日譽望
益隆賞賜相繼實可謂良農矣明治四十一年八月十
八日病歿年六十六人皆悼惜建碑表之請予一言予
嘗感翁行實爲書碑陰以傳功績於不朽云

明治四十三年八月十八日 京都府知事正三位勲一等大森鐘一

表面ハ郡長荒川氏ノ書トス式ハ其ノ日午前九時
ニ始マリ發起人ノ祝詞僧侶ノ讀經郡長ノ祭文列
賓遺族者ノ告辞参拜アリ午後ニハ追善農談會ヲ
開キ郡長檀寺住職技師等ノ講話アリテ閉會セリ
大字 厚 ツ字安尾 高二百七十七石ニテ 文久同
福知山藩領ナリキ 此所モ和久郷ト云ヒレ

福知山藩領ナリキ
此所モ和久郷ト云ヒレ

葉王山東光寺 曹洞宗 寺地一段除地外二十
 步村ノ除地 開山道花 慶長十七年開創 明治
 二十九年洪水ノ爲ニ破壊シ今ハ茶臼山ノ麓ニ移
 リ厄僧住持ス
 古城 茶臼山 一名中伏山トハ形ヲ以テ名ツケ
 ラレヌ天文ノ頃村上勳解由居住シ良位ニアル地
 藏ガ鼻ニ家臣行春ヲ置キタルガ荒河ノ伊達右衛
 門ニ亡ホカレ村上ハ伊勢ニ逃レ後ニ塩見政信ノ
 有ニ歸ス政信ハ清和天皇二十六世ノ裔ニシテ録
 倉ヨリ和久ノ庄ヲ賜ハリテ此ノ城ニ居レリ
 和久長利 本姓ヲ小笠原トス又塩見トモ云フ和
 久庄ヲ領シテヨリ氏ヲ改ム永祿三年四月十七日

鬼ヶ城ヲ攻メ内藤備前守ヲ破ル和久左近大功アリ
 ○長利 小笠原將監 利明 和久考五郎 伊織守ニ改ム 利政 和久近太夫
 信勝 和久又左衛門 利氏 明智ノ攻落サレ花倉村ニ逃ル 長勝 和久五郎右衛門
 中山城至ハ光秀ノ軍ナル木下小市郎林半四郎等
 ニ攻メラレテ神戸ニ遁ル塩見播磨守火ヲ放テ討
 ツテ出デ川北マデ落込ビタルヲ林半四郎ニ追ハ
 レ山カ市ニテ討タレタリ其ノ夫人ハ親元ナル波
 ヲ伯部ニ投ゼントレテ三坂峠マデ落込ビタルヲ
 亦討タレテ死ス山ガ市ニ城主ノ墓トテ之アリ
 大字 正明寺 古高三百十四石八升六合 寛政
 改高百十一石三斗六升 文久同 室市寺新田等ハ

和久長利
 和久長利

此ノ村ノ小字ナリレガ新田ハ別高トナリシナリ
天和年中近江國高島ノ者来リテ新田ヲ作り出シ
タル故トゾ其ノ地ノ六ヶ村ニ涉ルヲ以テ領主ヨ
リ給スル免狀九ノ如シ

室 市寺 正明寺 小野脇 笹尾 岡

右新開地免之事以來三ツ取延寶年極也委細別
紙書付一覽其上頭役人等可和裏書旨下知畢新
田之百姓共可存石之趣者也

天和二壬戌年六月廿三日 朽木昌綱 書判

正明寺迹詳ナラズレ其ノ名ノニ村トナリ字ト
ナル市寺アリノ墓地ハ蓋ソレ半小字富野ニ塚
穴アリ齋籠ノ類ヲ出ス事歴詳ナラズ

正明寺 高室市寺ヲ合セテ百十一石三斗内市寺
八十九石九斗三升

室 百十二石八斗五升 新田 五十八石一斗
一升一合三勺 此ノ高ハ六ヶ取分ナリ

稻荷神社 秋葉神社 等アリ 威幢寺址 寺屋
敷ニアリ

雲龍山大興寺 臨濟宗 本尊 阿彌陀佛 開基
不詳

大字 笹尾 高六百十五石 古來正明寺室市寺
今安小野取鴨谷ノ高ヲ籠メテ唱へ来リ領主福知
山藩モ亦其ノ例ヲ襲ヘリ 小字半合野々端等ア
リ半合ニ陰陽師筋ノモノ住ス 経塚 上人塚等

ノ古迹アリ由緒詳ナラス 太田社址 薬師堂址
 ナドモアリ
 熊野神社 加茂神社等アリ 真宗ノ成願寺アリ
 九尾山圓應寺 曹洞宗 本尊 馬頭観音 行基
 ノ作 開山同人 一説道花
 聖武天皇天平年間行基此ノ地ヲ巡遊シ辨戔天女
 ノ夢告ニ逢フ曰ハク此ノ地南方補陀洛山ノ洋土
 ニ接ス大悲ノ尊像ヲ安置スベキ靈瑞ナリト依リ
 ラ一カニ三禮ニテ観音ヲ刺シ且薬師辨天ト粟嶋明
 神ヲモ祭り鎮守トシテ熊野権現ヲ祀リ紀州ノ
 那智ニ擬シテ丹波那智ト呼ブ郡西國渡禮札所ニ
 當山ヲ以テ第一番ニ置キタル所以ハ是レニ因ル

トゾ數回ノ大災ヲ経テ今ノ堂ハ明治二十三年ノ
 建立ニ係ル
 大字 岩井 高三百七十七石ニテ福知山藩領ナ
 リキ 文久同
 八柱神社 稻荷神社 山神々社 三柱神社
 大字 新莊 高四百三十二石内十三石三斗四升
 織多高 福知山藩領
 栗嶋神社
 和久山常福寺址 縦三十間横三十間除地ニテ長
 安寺山ノ下ニアリシ
 大字 和久寺 古高百三十一石 文久百五十二石九
 斗ニ升七合 福知山藩領ナリシ

和久寺
 福知山藩領ナリシ

鹿嶋神社

願成寺 真宗

正平年中ノ戦地タリ其ノ十七年山名時氏カ其ノ
將小林重長ヲシテ丹波ヲ畧取セシムルヤ守護仁
木義尹此ノ地ニ拒戦ス小林ノ勢強キヲ以テ足利
將軍義詮ヨリ石橋和義今川貞世ヲシテ来リ助ケ
シム二人畏レテ進マズ小林糧竭クルヲ以テ退ク
菅野井村記事参考

大字 羊田 高五百八十石ニテ福知山藩領ナリ

シ

阿光神社

勝賢寺 明光寺 其ニ真宗

大字 奥野邊 元高四百三十石 文久同 福知

山藩領

御土路神社 山神々社等アリ

長安寺山ニ長安寺アリ醫王山ノ號アリテ臨濟宗
ナリ前ノ福知山城主杉原七郎左衛門尉平家次ノ
墓アリ高廿六尺ノ五輪塔ヲ安ク法名心光院殿養
室兼安大居士ト云フ其ノ側ニ三輪塔四基アリ殉
死者ノ墓ト云フ家次ノ遺物トシテ二間柄ノ槍及
ビ青貝ノ鏡アリ鏡ニハ酸漿ノ紋章ヲ打フ野辨當
モアリ 杉原一ニ楳原ニ作ル系譜ヲ按ルニ太
政大臣平清盛ノ子正三位中將維盛ノ三世楳原伯
耆守光平四男楳原四郎忠綱其ノ子主計頭親綱々

史記

々ノ子左近將監時細々ノ子伯耆守光房々々ノ
子朱正伯耆守直光々々四郎左衛門満平々々ノ子
伯耆守光親々々ノ子七郎家光ニテ家次ハ其ノ子
ナリ其ノ尾張ニ生レ秀吉ト親戚タルヲ以テ天正
中羽柴ノ軍ニ從ヒ播磨ヲ伐テ功ヲ立テ三木城代
トナル備中高松城陥ルヤ秀吉ノ命ヲ以テ城主ト
ナル山崎ノ一戰ニ光秀亡ブルヤ山崎ノ處守トナ
リ天正十一年近江坂本城ニ移リ京都ノ政令ヲ掌
ル尋テ丹波ニ封セラレ福知山城ニ居リニ萬石ヲ
食ム同十二年九月九日卒ス年五十四法名津菴一
子アリ長房ト云フ豊後杵築ニ移ル
長安寺山ハ絶景ノ地ナルヲ以テ開山眼光禪師ガ

撰撰シテ創建シタル所ニテ醍醐ト共ニ郡内ニ名
高シ醍醐寺ハ庭杖
村ニテリ春着ヨリ頂上ヲ姫上山ト呼ブ寺アリ姫上
山善光寺ト呼バリ昔時姫ノ髪ヲ埋メタル歴史ア
リテ姫髪山ト云ハリシヲ誤リテ髪ヲ上トシタル
ナリト 末寺相壽庵荒河ニアリ福聚寺拜師ニア
リ大興寺正明寺ニアリ觀音寺池部ニアリ柘林寺
於ニアリ觀興寺樽水ニアリ
泰運公瘞齒碑 此處ニ立ッ泰運ハ朽木土佐守細
方ノ法名ニシテ第十代目ノ君ナリ
福知山所ノ紀事
ヲ考者セヨ公此ノ地ヲ愛シ在邑ノ日ニハ時々來リ
遊ブ齒ノ脱スルニ過ラ感スル所アリ之ヲ茲所ニ
埋メシメ幕府ノ儒官佐藤一齋ヲシテ文ヲ作ラシ

丹波
史
志

ノ之ヲ石ニ刻レテ立ツ

泰運公瘞齒碑

泰運公之未致也隔年休暇就封於福知山每愛封內長安寺之
勝概時々登臨有瑕丘之意山在城數里東望樓櫓夾壇佳區也
既而公致任養病於江都大窪別墅殆二十年髮已三毛齒亦動
搖夢寐此山耳至客歲季秋之望壯齒墜脫公曰齒亦齡也我將
瘞之長安寺山以樹一碑屬記於垣而未果不圖公今春二月遽
甬以病逝嗚呼痛何可言頃者今侯從其治命促垣記之不敢復也
乃略述其由

天保九年歲次夏六月中澣

江都佐藤垣撰文

淡海閣研書並題額

大字 今安 舊高元録六百五十石寛政年度改メ
 五百四十四石七斗二升五合ニ減セラル 文久同
 此ノ地ハ福知山ヨリ奥榎原ノ往還ナリ 小字
 小野原
 小字湯ノ谷ハ古ノ温泉場ニテ薬師堂ノ遺址アリ
 處ニヨリテハ雪氷ノ早ク融解スルヲ見ルトゾ
 小野塚トテニ間四方アリ石壇ヲ四方ニ設ク松樹
 数株アリ 近傍ニ町許ノ所ニ鬼田谷ト呼ブ地アリ
 リテ小野池ヲ存ス又小野屋敷ト云フモアリ桂山
 ノ下ニシテ小野塚ノ西ニ當リ四町許ヲ距ル 此
 所ノ温泉ハ小野小野モ入浴セリト云ヒ薬師如來
 ヲ歌懸ノ俤ト呼ビ小野ニ縁田アルト傳フ升ハ小

小野
 史記
 志

野脇ト云ハル地名ニヨリ附會セシモノカ同名異
人ノ小町アリシニヤ 古老ノ曰ハク昔今安ノモ
ノガ山田ヲ開クノ折柄第一ニ瀧山ノ麓ニテ小野
ヲ拓キテ小町田ヲ造リ後又小野ノ脇ニ出作シテ
假住所トシ小野殿ノ字モ出来タルナレバ小野小
町ナル話モ出来タルナルベシ 小野神社アリ
熊野神社アリ 三柱神社アリ而シテ天照神社ア
リ 天照神社 本名天照玉神社ハ式内神社ニシ
ラ天照國照彦大明命ヲ祭ル
古社ニ付キテハ多少判然セザル點アルモ此ノ御
社ハ殊ニ具ノ點ヲ多クセリ升ハ天照ノニ字アル
ニ由ル古來ノ傳説ヲ概示スレバ饒速日命ヲ祭ル

ト云ヒ天照日子明命ト云ヒ丹波道主命ノ遺蹟ト
云ヒ天照太神ヲ丹後ヨリ伊勢ニ移シ奉ルノ御宿
地ト云ヒ少彦命ヲ祭ルト云フナド人ヲシテ適
從スル所ヲ知ラザラシム而シテ今其ノ信不ベキ
モノトシテハ天照玉命トス

當社奉持品中金帖一枚アリ銅製ニテ文字ヲ彫刻
セリ其ノ文ニ曰ハク

天照縁起

延喜式神名

丹波國天田郡天照玉命神社

丹波國天田郡今安鄉 此棟札、表也
天照皇太神宮 福知山城王松平主殿頭

承應二年癸巳仲冬穀且修造之 志房敬白

其ノ書ニ曰ハク

丹州天田郡今安鄉太神宮者往昔自丹後國余
佐郡遷座於伊勢國之時宿御於此地由是崇建
神宮村翁走祭祀國人致敬信自爾以來茲經歲
霜變破扉摧既成壞宮於是郡太守松平氏主殿
守忠房感嘆靈社之敗壞重修造之運成風之斧
鐘楚杖之美餘野之巧武運長久子孫繁榮不期
之然者也

洛陽講習堂人昌易謹記

寄附書

丹陽天田郡今安鄉天照宮神領之事

高四石 宮内森林居屋敷所
目錄別紙有

夫天照皇大神宮者本朝第一之宗廟也自往昔當
所雖御鎮座其以前依無神領歷年宮殿悉及大破
因茲万治中奉修造之再破之時為修補開新規令
所附畢是為天下安全且武運長久也仍寄進狀如
件

寬文七丁未曆六月十六日

主殿判
當社人

天照宮社領閑地及畝之事

宮前 中田三畝廿四步 社人

同 中田十八步 同

同 中田二畝十二步 同

同 中田三畝十五步 同

同 中田十步 同

同 中田三畝十五步 同

同 中田壹畝廿四步 同

×壹段八畝七步

此石高貳石九斗七升貳合 及石六斗三升代

宮前 中田壹段十五步 社人

同 中田三畝十七步 同

同 中田三畝步 同

居屋敷 中田貳畝步 同

同 中田廿五步 同

同 中田十六步 同

×壹段貳畝三步

此高壹石貳斗八合 及九斗代

合高四石也

郡奉行

寛文七丁未六月十五日 小久江六郎左衛門判

同断

梅村加左衛門判

足立源太左殿

志

願書

維寬文八曆戊申七月廿八日乙丑吉日良辰於擇
美定尼掛卷毛畏支天照大神乃御廟乃廣前仁從五
位源忠房恐美恐美申殿夫尊神者日域第一乃宗
廟也今年早懸而萬民苦年故仁尊神不威力波不
能雨下志給布事於願設三日三夜之中仁而於降
志五穀於潤成熟志給比萬民乃愁疾潤美給惠納
受於嘉玉奉尼寶殿仁神益於獻奉流此狀於平少
安少聞食止夜乃守日乃守護幸比賜止申壽
五十鈴 戸帳 簾 神鏡 幣帛 繪馬 等
獻上之

棟札

從五位下伴豫守源姓佐々木李綱 副建

天照玉命

天田郡 今安御

拜殿上棟

延寶四年丙辰四月九日

神社行事

中目植共衛 盛治 瀬川平共衛 善次

管作行事

土家藤右衛門 次修 菅谷共左衛門 親次

大工 松本四郎共衛 五重

寄附狀

延寶元年十月十五日

朽木伴豫守源季綱 判

正徳四庚午年二月廿日

朽木辰部少輔源植元 判

享保十三戊申年二月三日

朽木土佐守源植治 判

同 十五庚戌年八月

朽木土佐守源玄綱 判

明和九年辰年

朽木出羽守源綱貞 判

御供田ハ今廻少ト云フ本社ニ所許成ノ方ニ當
レリ

丹波志

杉上 二本木ノ杉大風ノ時倒レテ其ノ木ノ上
 リヲ杉上ト云フ本社ヨリ四町許坤ノ方
 御油田 鴨谷村ノ中ニアリ本社ヨリ四五町午
 未ノ方
 掃除田 鴨谷村ノ奥ノ南方本社ヨリ六町
 洗米田 本社前ヨリ一町巽ノ方 官前ト云フ
 神戸田 本社ヨリ六町許東ノ方
 土畚田 半田村ニアリ本社ヨリ四町寅ノ方
 鍛冶屋敷 中古宗清ト云フ鍛工當社ニ奉仕シテ
 神劍ヲ作レリ未ノ方ニ當リ川ヲ隔リ其ノ址
 ナリ其ノ居宅ノ址ヲ鍛冶尻ト云フ本社ノ午
 ノ方ニテ社地ニ接續ス

宗清田 鍛冶工ニ附與セラレタル田ニシテ本
 社ヨリ三町半亥ノ方
 六月田 今安ト半田トノ界ニアリ六月十九日
 ノ祭資ニ供スル所 本社ヨリ四町辰ノ方
 以上ハ彼ノ金帖ナルモノニ記シタルモノ
 境内 森平地 鳥居前ニ小川アリ 社後ニハ和
 久川アリ 寶藏一字アリ
 本殿鳥居ハ領主ノ修繕ニテアリシ
 舊曆八朔 相撲 六月十九日 寶物蟲干
 雲祭 旱魃ノ時之ヲ行フ 大雨乞ニハ氏子十三
 夕村ヨリ屋臺ヲ引キ出シ練込午踊ナドヲ興行ス
 十三村トハ今安半田新庄岩井奥野邊和久寺大

丹波志

門。厚。笹尾。南。四ヶ。明寺。新田。正。拜師。榎原。石場。

丹波。小。あ。ま。つ。乃。社。丹波。忠。茂。知。臣

あ。ま。つ。乃。の。跡。乃。た。ま。を。ぬ。あ。ま。つ。乃。神。も。あ。ま。つ。乃。也。ん

本社祭神ハ丹波國造ノ祖ナルヲ以テ丹波姓ノモ
ノ其ノ後裔トレテ之ヲ祭ルハ當然ナレドモ丹波
忠茂ハ錦山路家ニテ漢帝ノ子孫ナレバ本社ヲ以
テ始社トスルハ如何ニヤ龜岡ノ部矢田ノ所考因ニ記ス大同
類聚方ニ保賀世藥丹波國天田郡天照玉命神社之
丹波直人足之家次也トアリ
現今祭禮ヲ執行スル氏子村名ハ舊村名小野脇
新庄 半田 奥野壘 岩井 和久寺 大門 石
場 榎原 室 市寺 新田 笹尾 拜師

俗歌 ちのほろふ天照のまはれ初久乃天照のちのほ

大字 大門 高四百三十石 領主同
八大荒神社 境内山林トモ除地社田畑等ハ村ノ
除地ナリキ 産靈ハ喘天満ノ三社モアリ 吉祥
院 長安寺山麓ニアリテ南面ナリ 朽木家ノ祈願
所ナリキ
大字 拜師 高九百八十三石ニテ同領ナリキ
此ノ邊ハ古ノ拜師郷ニテ谷間ノ名ヲ豊富ト云ヒ
今ヨリ 四十二年 二百四五十年前ニハ此ノ谷ノ奥ニ
豊富ト呼ベル一村存在セリ今ノ上豊富村トナレ
ルモノ是ナリトカヤ 小字ニ宿毛塚山崎等アリ
武神社 賀茂神社 山國神社 山神々社 稻荷

丹波志

神社

大慈山福聚寺 寺地長二十間横九間除地

小字 野田第四番地ノ石垣崩レ古劔一振田玉一

個金環三個ヲ發掘セリ此ノ地ハ元来冢域ニシテ

直径三間半餘中央ニ高サ五尺幅亦五尺奥行二間

半ノ石垣アリタルナリ又近傍ニ高サ一尺許ノ冢

アリテ是ニモ石垣アリ高サ五尺奥行三間ノ内

ニ墜道トナリタルナド頼奇ナルモノアリ考古家

ノ材料トモナリヌベシ右發掘ハ明治三十二年八

月廿八日正明寺人ニヨリテ爲サレタリ辨師ノ名

ヤ奇ニシテ字モ亦同ジク奇ナリ殊ニ古冢ナドノ

多キ点ヨリ視ルモ何カ宗教ノケル由緒モヤト想

ハル、ガ果シテ左ノ話ヲ得タリ曰ハク辨師ハ生

石ナリ古時此ノ所ニ一個ノ佛堂アリタルガ石ノ

土ニ埋モル、丁恰モ生ハタルガ如シ而シテ其ノ

地上ニ出デタル部分ニハ多聞天ノ像ヲ彫リ其ノ

上ニ堂ヲ建テ之ヲ生石ト名ヅケタリト云フ 此

ノ地モ平氏ニ由ツテ開カレタル丁榎原ニ同ジト

云フ上豊富村榎原ノ下ヲ着ヨ

大字 市寺 文久八十九石九斗三分 福知山鎮

千歳山 南方ニアル高嶺ナリ天名宗吉祥院アリ

初代領主ノ歌アリ

大門吉祥院 植昌

ちきりおきく築城く又せ名一しる子年乃山すのひふ糸

又乃年山おぬ系一入をうや

つらうりまくれしを知らぬまをてま年の山のおまふ

熊野神社アリ

大字 室 文久高百十二石八斗九升 福知山領

正明寺ノ部内ナリシヲ領主及び高等正明寺ノ下

ニ出セリ

八幡神社 藤取神社 須賀神社 武神社

上豊富村 大字 小牧 樽水 北山 談 畑中

石塙 榎原

此ノ村ハ東北ニ下豊富村アリ西北ニ金谷村アリ
西方ニ下夜久野村アリ而シテ南方一帯氷上郡ニ
界ス 村名ハ下豊富村大字拜師ノ谷奥ニ豊富ト
呼バル最古土人居所ノ地名ヲ取リタルナリ拜師
ノ條文ヲ参着セヨ

鳥帽子山氷上郡界ニ聳エ下豊富村ノ茶臼山系迄
迄トシテ一起一伏以テ此ノ村ノ東岸ヲ包括シ加
フルニ中央亦山アリ紅アリテ耕種ノ地ヲ塞ガ塩
久埴ノ一路氷上郡ニ通ル
一水中夜久野村ノ奥小倉山間ヨリ下流スル溪川

村内奥榎原山間ヨリ湧キ来ル榎原小川ヲ容レ村
北ニ於テ和久川トナリ福知川ニ落ツ
文政元年十月十一日主基方丹波國御屏風六帖和
歌十八首

豊富村黎民嘉樂

石少辨五位下

藤原隆光

あはれなるもみ村乃名もろく路ふ民乃新もやゆ

右ハ大嘗會ノ丁ナレバ総論及ビ牽桑田郡並河村
其他所々参考スベシ

地勢北方ハ板生川一名牧川ニ泓ト南方氷上郡ニ
界ス山溪ノ諸水ヲ併セ和久川ナリ荒川ニテ福
知川ニ入ル
大字 小牧 高四百八十五石ニ斗六升三合ニテ

福知山藩領タリシナリ 文久三百六十五石三升五合

八幡神社 譽田別天皇ヲ祀リ毎年舊曆九月廿五

日ヲ以テ祭禮ヲ行ヘリ

武神社ハ 素盞雄尊ヲ祭ル十一月八日祭式アリ

烏帽子山ハ形ヲ以テ名ツケタリトハ云ハ遠方ヨ

リ眺メバ鋒ヲ伏セタルガ如シ字下左ト云フ

山ノ高サ十二三町ニシテ嶮ニ登リ口兩所ニアリ

上方平面ナリ牽西ハ氷上郡山垣トス

城址 此ノ山上ニアリ 赤井窓右衛門ノ持城ナ

リキ

古鏡山圓住寺 菅洞宗 本尊聖觀音 關山道華

先達 創建寛文三年四月 嘉永二年三月再建

六世大千ハ三河ノ人ニテ織田信長ノ裔ト云フ
 明治二十二年八月山崩アリテ諸堂大破シ修繕中
 ニ火災アリ遂ニ福知山久昌寺、合併ス
 戦時紀念學林 此ノ經營ハ政府ノ獎勵ニ因リ起
 ル日支戦争ノ役終ルヤ賅債ノ増祭ハ事業ノ乱興
 ラ促シ民間ノ經濟ヲ誤リ倒産破産到ル處ニ續祭
 シタル殷鑒ヲ印象シタル日本ハ官私舉リテ慎重
 ノ態度ヲ取リ賅債ヲ有益ノ事業ニ用ヒントシ先
 ツ殖産ノ方ニ投資スルトトハナレリ是ニ於テ乎
 此ノ村ハ率先シテ休業ノ經營ニ着手シ各部落ヨ
 リ戸數ヲ標準トシ村ニ寄附スルトト爲シ山林ヲ
 所有セザル部落ハ新ニ購入シテ寄附シ具ノ面積

三町一段五畝歩ニシテ之ヲ實測スルニ於テハ之
 ニ數倍スルト云フ
 大字 榎原 小字 口榎ノ原 奥榎ノ原 中路
 下路 高九百石 文久同 福知山藩領 口榎ノ原
 二百二十戸 奥榎ノ原 二百十戸 寛政度調査ニヨリハ
二百三十戸
 大牟稻荷天満琴平榎原ノ五神社アリ而シテ榎原
 神社ヲ土産神トス具ノ故ヲ繹ヌレバ堀河天皇ノ
 御宇長治元年二月平親盛ナルモ此ノ處ニ藝居
 シテ此ノ地ヲ開キ居村トナシタリ云々今ノ榎原
 氏多クハ此ノ裔孫ト云フ 大牟神社ハ稲田姫ヲ
 祭ル社田一畝十歩高二斗二分五合除地ナリシ
 穴ノ裏峠ヲ經テ水上郡蘆田村ニ達スル一路アリ

榎原
 志

福知山街道ナリ

瀧山(一字山号) 觀瀧寺 觀音院 真言宗 本尊千手觀

音 郡西國十一番札所 開基法道仙人 中興

慶長年間成遍大徳 創建ハ養老年間 再建嘉永

元年 同年七月落雷燒失 安政三年三月堂宇復

建 觀音堂ハ慶長ノ物

養老年中法道仙人來リ瀧山ノ嶺ニ鉦鼓ノ音アル

ヲ以テ之ヲ探ラントテ登レバ白湊ノ瀧アリ尚登

レバ嵯峨タル岩上ニ榎木アリテ光明ヲ放ツテ鉦

鼓ノ本モ茲ニアリ仙人禮拜シ晝ハ誦經ニ夜ハ坐

禪スルト一週ソノ結願ノ夜大悲千手觀世音出現

シテ告ガル吾レ汝ヲ待テリ汝コノ木ヲ以テ吾ガ

像ヲ作り堂宇ヲ築キテ衆生ヲ濟度セヨト仙人ソ

ノ言ノ如クシ其ノ山ヲ鉦鼓山ト呼ビ寺ヲ瀧山觀

瀧寺ト呼フ後寶龜元年光仁天皇ノ敕聞ニ達ニ勅

願寺トナシ玉上寺領百石ヲ下サレタリ山上ニ本

坊尾崎長尾坊ナドアリ麓ニハ尼寺モアリタルガ

天正十三年兵燹ニ罹リ寺坊悉皆燒燬セラレタル

ニ本尊ノミ全キヲ得タレバ時ノ大徳成遍上人之

ヲ奉ジテ宇谷ノ奥ニ下リ此所ニ堂宇ヲ建テタリ

今モ觀音谷ト云フ慶長中再令ノ所ニ遷セリ

榎原重右衛門 明治二十二年區長トナリ區有山

野ノ整理ニ着手シ入會區域ヲ制限シテ造林ヲ經

營シ榮林ヲ造リ金融會社ヲ興シテ殖産興業ニ資

丹波 志

シ銅山坑開カレテヨリ風紀ノ頓敗スルヲ救ハン
 トテ青年會婦人會ヲ起ス等其ノ部度反對者アル
 ニ関ハラズ断行シテ其ノ志ヲ遂ゲ他部落ノ模範
 トナルニ至ルモ自以テ功トセズ勤儉力行スルニ
 怠ラズ今四十三年郡ノ功勞者旌表ノ隨一タルモ
 宜ナリ
 大字 畑中(ハタケナカ) 古ノ豊福村ニテ高五百九十
 九石一升三合 文久同内三十石穢多高 氏家九十六
石 寛政年 石場村ト畑中村トハ中古二分シタル
 ガ古ハ豊福村トテ一佃村ナリシ 徳川幕府ノ時
 ニハ數度ノ變革アリテ最後ハ福知山藩領トナリ
 維新ニ至ル

神社數三ノ曰ハク三柱曰ハク八幡宮曰ハク島田
 島田神社 祭神ヲ埴安命(ヌニヤサノミコト)ト云
 フ 境内登二十六間幅十八間ト山林アリ社田三
 畝ニ歩高四斗七升七合コレヲ村ノ除地トス 祭
 神ハ紀伊ノ熊野ヨリ勧請セシモノニテ熊野十二
 所權親ノ第八番ニ當ルモノト傳フ 一説ニハ天
 照大神ト云フ
 大河山雲龍寺 登十一間幅五間ノ境内ニテ鎮主
 ヨリ除地トス
 會社貸附ト公債金銀地金ノ賣買及兩替 資本金
 壹萬二千圓百二十株 三十一年一月十七日開業
 鳥嘴子山 形ヲ以テ名附ケタリ郡中名山ノ一也

鳥嘴子山
 形ヲ以テ名附ケタリ郡中名山ノ一也

り 小牧考卷

同城址 赤井悪石衛門居住ノ地

小路山花臺寺址 本尊十一面観音 郡西園十四

番

大川山寶満院雲龍寺 真言宗 本尊阿彌陀 開

山 空也上人

小笠原大膳塚一名伊豫塚 小字岡安 城址大川

山ニアリ小笠原ノ所居ト云フ

大字 樽水 古時此ノ所ニ豊富村ノ別稱アリ

小字甘栗ト云フ小部落アリ合シテ高五百三十石

六斗一升三合文久一合ニテ福知山領ナリキ 打

籠一名二十三代ト云フ部落ニ陰陽師三人居メリ

寛政調査

首塚 开籠ニアリ蘆田二十三名割腹ノ迹ナリ具

ノ首ヲ埋ノタル所ト云フ

大竹周リ一尺五六寸ノモノ往々之レアリ産地ハ

小字 下戸

日栗山観興寺 善期山トモ云フ 臨濟宗 本尊十一面

観音 開山覺雪 元ハ真言道場 退轉ノ後 禪

寺トナル 六坊ノ故址アリ 本坊遍照院仁王門

塔頭ノ址アリ

大字 北山高二百三十七石一斗八合 文久同 福

知山藩鎧

大字 談 (ダン) 高五百六石一斗一升三合 文久五石

志

ニテ福知山着領ナリキ
 小字ニ法用アリ
 三柱神社 山神々社 須賀神社 稻荷神社等ア
 リ 熊野荒神ノ諸社モアリタリ
 櫻ノ木峠ハ此所ヨリ永上郡佐治村ノ有河内ハ越エ
 ル路ナルガ樓原ナル地名ハ是ニヨルカ 梨ノ木峠
 ハ遠坂ハ行クモノトス
 法用山松林寺 臨濟宗 本尊釈迦 脇立 文珠
 善賢 往古真言宗ノ道場ナリレガ寛永七年善公
 首座ガ禪寺ニ改メ長安寺ニ世壽山ヲ請シテ開山
 トセリ 郡西國痕禮十三番ノ札所
 大字 石場 元高二百石 文久二百六石 福知山
 藩領ナリシ 畑中ト共ニ古ノ豊富ナリシ 小字堂

角 山林四筆保身林トナル土砂留工事ノ爲ノナリ
 大正元年八月制定
 貞婦ノ表彰 石坪伴ハノ妻ハ本年五十二歳
 七月十二日附ヲ以テ賞勲局ヨリ京都府廳ヲ經テ
 緑綬章ノ下賜アリ 大森知事ハハシニ對シ府廳正
 廳ニ於テ傳達式ヲ執行セリ
 ハハ夫ヲ婿養子トシテ今日迄二十七年ニ亘レ
 ルカ夫伴ハハ入家以後ニ箇年ニシテ棲麻室斯ニ
 罹リ病勢次第ニ重リ五年ノ後ニハ全身不墮トナ
 リ食事ヨリ大小便ニ至ル迄人手ヲ換ラガレバ爲
 シ能ハガルノ病者トナレリハハ之ニ對シ亦シ
 モ倦厭ノ色ナクカヲ竭シテ看護ニ従事シ傍ラ妹

夫婦ト共ニ家事ヲ勵ミ一町ニ及ノ田地ト三棟ノ
家屋ヲ所有スル迄ニ至リ病夫ヲシテ少シモ家事
ヲ憂ヘガラシメ弟妹ニ對シテハ慈愛ニ富ミ親族
其ノ他ノ人々ニ對シテモ温厚ニシテ信實ナレバ
村民一同感賞シテ措カズ曩ニ天田郡長及ビ真言
宗高野山管長ヨリ賞状ヲ贈ラレシガ今回又左ノ
賞状ヲ與ヘラレタルナリ

天田郡上豊原村 石坪いし

資性温厚良齡二十七夫ヲ此ハ後幾モ無ク夫不
治ノ病ニ罹リ壽デ全身不隨ニ陥リ家計ヲ見ル
能ハリルニ至ル乃專心湯藥ヲ進メ看護懇到百
方慰安ニ務メ傍ヲ農事ヲ勵ミ家計ヲ支持シ且

ヲ母ニ孝養ヲ盡スリ二十有七年毫モ倦怠ノ色
無ク終始具ノ志操ヲ渝ヘズ洵ニ奇特トス依テ
明治十四年十二月勅定ノ綠綬章ヲ賜ヒ具ノ善
行ヲ表彰セラル

石場九番ハ 安政二年四月三日生 明治五年火
災ニ罹リ家財ヲ蕩盡ス 同六年九月父伴兵衛歿
ス 夫伴ハハ同村字談足立磯助ノ次男
足立賀太歳ハ明治四十四年十二月左記ノ如ク善
行ヲ表彰セラル 興風會第八回表彰會ヨリ

京都府天田郡上豊原村字石場

模範在郷軍人 孝子 足立賀太歳

明治二十五年五月生

氏性質温厚篤實父母ニ事ヘテ至孝四十一年十
二月丁年入營ノ身トナルヤ爾未克ク長官ノ命
令ニ股從シ兵士タルノ本分ヲ盡ス且勤儉ニシ
テ平素支給セラル、給料ハ決シテ浪費セズ之
ヲ蓄積シテ老母ノ許ニ送り保養ノ資ニ充テ屢
々書ヲ發シテ寒暑ヲ慰問スル等孝養怠無シ四
十三年十一月歸休ノ恩命ヲ受ケテ歸郷スルヤ
日夜孜々トシテ家業ニ勉メ且老母ニ重ヘテ孝
養ヲ盡クスコト昔日ニ倍ス其ノ效空シカラズ
前日家兄ノ謀盡セシ財産モ今ヤ殆ント挽回シ
現ニ田地并ニ屋敷地等ヲ買戻シ尚漸次幸運ニ
向フ殊ニ歎リウウ女ハ他家ニ嫁シ前後四回破

鏡ノ不幸ニ遭フテ今ハ家ニアルモ少シモ嫌厭
ノ状ナク却テ其ノ不運ヲ慰メ勵マシ居レリ加
之郷黨ニ在リテハ能ク父老ヲ敬ヒ明友ニ信ナ
ルヲ以テ比隣ノ信用極メテ篤ク郷黨譽リテ贊
嘆ニ在郷軍人ノ模範ト稱セラル洵ニ奇持トス
仍テ輿風會々則第一條ニ依リ紀念品ヲ贈リ其
ノ善行ヲ表彰ス

母
殿
志

下川口村

下川口村 大字 上天津 下天津 牧 一ノ尾

瘤ノ木 漆ヶ端

村位ハ大川ノ丹後ニ流下スル所ノ川口ニアリ古
ノ川口御川口莊其ノ所ナリ東隣庵我村ト斜緩凹
形ヲ爲シ丹後ノ國與謝郡ニ界ス牧川村内ヲ横断
スルヲ以テ漆ヶ畑離レテ川岸ニ孤立ス下天津ハ
川流ヲ間テ、庵我村ノ安井皆巻ト相對ス
冬季積雪數ニ及ブ

大字 上天津ハ官津街道ノ古驛ニテ古時旅人往
還多カリキ 北行スルノ一路ハ山間ヲ取り長尾
行積天座ヲ經テ丹後與謝郡雲原ニ出テ中郡峰山
ニ連ス 雲原福知山間行程六里 上夜久野ヨリ

丹波志

流下スル牧川此ノ所ニテ由良川ニ會シ且ツ三嶽
 山ヨリ流下スル境川モ亦會流シテ丹後ニ向フ
 小字 勅使 平使 波江 石元 高九百二十三
 石ニ斗五升内ニ十石ニ斗三升穢多高福知山領
 天神社 菅公ヲ祭ル 縱横十間ニ八間除地 社
 地十五間ニ十二間除地
 奥寺址 小字平使 開基 阿彌陀堂址仁王田及
 礎ナド存ス
 大字 下天津 高二百四十一石六斗三升五合
 福知山領 文久同シ 道路南北ニ通不宮津街道ナリ
 是社大明神社 登八間幅四間社地免稅ナリキ
 社名ノ奇ナルヲ以テ往々之ヲ聞キタガル人アリ

其ノ由緒ヲ繹ヌレバ左ノ如シ人皇三十七世孝徳
 天皇ノ皇子ニ共采親王ト申スカ御咥セシ又有間
 親王トモ呼バリ此ノ皇子ハ次ノ皇ナル齊明天皇
 ノ時ニ至リ謀及シ給フニヨリ白雉五甲寅ノ三月
 當國ハ流罪セラレ給ヒ又但馬國ハ送ラレ給フ時
 天津姫アリテ皇子ト契リ深カリシカバ其ノ別レ
 ヲ嗟キ玉フ此ノ姫ハ糠手子大連公(大織冠錄)是ノ伯
 父ノ御子ニテ雲ノ上ニ育テラレ給フモノカラ足
 弱ナルヲ強ラコ、マテ跡ヲ慕ヒ来マセシガ遂ニ
 疾ニ罹リ里人ノ介抱ニテ色々心ヲ配リ醫藥ヲモ
 進メ参ラセタルガ具ノ甲斐ナク此所ニ身退リ給
 ヒタルヲ里人等之ヲ便ナキトニ思ヒ是社ト崇メ

祭レリトゾ 村名モ此ノ姫君ヨリカ呼ビ初メケ
 ルト云フ
 大谷山大谷寺(山跡寺跡同ジ)ノ故址ニ七福神祠アリ
 丹後境川迄十三町五十間平地園境杭迄八町杭ノ
 西方山並尾通りニ界アリ東方園境杭ノ所ヨリ一
 望スバシ大川アリ 金谷口ト云フ所ニ民家アリ
 大字 牧 古名牧村 部落九ヶ所 佐原 市場
 馬場 見分 中筋 岩田 坂津 平石 上ヶ
 石高七百四十六石 新高七百四十八石 民家百
 四十戸 福知山藩領
 一宮神社 祭禮 舊曆九月九日 祭神大山祇神

昔日祭神ヲ駿河國富士郡一宮ヨリ勧請スト云フ
 荒神社 吉備神社 愛宕神社 巖島神社アリ
 村名ノ起原ハ鎌倉右大將ノ臣ナル牧勘右衛門カ
 領セシヨリトゾ 建久四年五月頼朝富士野ニ狩
 スルノ序デ大小名着到ノ帳場ニ於テ園郡ノ吟味
 アリケルニ丹波ハ平家ノ領國ニテ着到セ不産不
 テ使者ヲ以テ吟味セシメタル所川口ノ庄川口平
 内左衛門カ宗盛ノ小姓ヲ園ニ平家ノ殘黨ヲ語ラ
 と聊ノ化ヲ撮フト聞コヘケレバ右大將之ヲ伐キ
 七サレトシ駿河國ノ牧勘右衛門ヲ撰ミ其ノ一黨
 ト討キニ差シ向ケラル勅右衛門竊ニ此ノ園ニ入
 リ夜半ニ化ノ外ヲ取り卷キ數多ノ高張提燈ヲ一

度ニ掲ケ門ヲ破リ平内左衛門ニニニト聲々
ニ呼バ、リケレバ允ノ者狼狽シテ驅ケ出ツル所
ヲ片端ヨリ打取リ一人ニ残リ不平ゲ遠ニ此ノ地
ヲ鎧シ己ガ苗字モテ村名トシ社ヲモ駿河ナル故
國ヨリ勸請セリトゾ

觀音堂址 堂屋敷ト呼ブ所ナリ 小山ニシテ七
八町ヲ登ル所ニアリ 大呂村ト爭論アリシ時大
呂ヨリ鐵ニ其ノ堂宇ヲ破壊シケレバ牧村ノモノ
其ノ古杖ヲ負ヒ運ビ之ヲ大谷ニ安置セシヲ何日
ノ間ニケ若狹ノ盜ニ持テ行カレシトナシ
光春山永明寺 曹洞宗 開山 大極梅 楊析山
大谷寺西方院 真言宗

大字 一ノ尾古桶花倉 高六十六石ニテ福知山
藩領ナリキ 文久保科彈正忠領

丹後國日蘇村、五町餘の場炸國界迄四町
八幡神社 譽田別天皇ヲ祭ル 祭式 舊曆八月
十五日

大字 瘡ノ木 元ハ大呂村ノ内ナリ高二十八石
一斗八升 文久三十八石一斗八升 保科越前守
領同十石六斗ハ天寧寺領ナリ 十石除地アリ
民家ノ西ハ一帯ノ山ニテ其ノ山裏ハ大呂ナリ路
ハ無し
瘡ノ木谷ヨリ丹後峰山街道ノ分岐アリシガ今ハ
舊道トナル

山神々社 祭神大山祇神
 大字 添ヶ端 古ハ上天津ノ内ナリシ 福知山
 藩領ニテ高百四十五石三斗一升五合
 愛宕神社

上川口村 大字 立原十二上大内下大内大呂野花
 事上小田下小田

村ハ福知山所ノ西北ニ在リ東北ニ下川口村アリ斜
 ニ北シテ金山村ヲ控ヘ西ニ三嶽村アリ斜ニ南シテ
 金谷村ニ接ハリ東方ハ下豊富村ニ隣ル
 姫島山巽ノ方ニ亘リテ麓ヲ引キ西方ニ三嶽村ニ延ブ
 此ノ山下ヲ除ケバ土地大率平葦ニシテ耕耘ニ適ス
 但馬街道ハ福知山所ヨリ來リ夜久野村ニ向テ進
 ム
 牧川ハ上夜久野村ノ直見ヨリ下夜久野村金谷村等
 ヲ貫通シテ來リ村中ヲ斷流シテ下川口村ノ牧ニ下
 レ故ニ此ノ川ノ名アリ

上川口村

丹波志

立原

上小田ト十二ハ川南ニアリ餘ノ七大字ハ川北ニ在
リ
大字立原ハ今ノ大字ナル十二村ノ支部ナリレテ慶
長年中宿驛ニ定メラレテ獨立村驛トナリ西方諸國
往來ノ要路タルヲ以テ有馬氏ノ福知山城主タルノ
時ニ諸役免除ノ特典ヲ與ヘ賦役ヲ課セザルノ代リ
ニ宿驛ノ義務タル人馬繼立テノ事ヲ受ケ負ハシメ
街衢ヲ正シクシ問屋人足溜リ等ヲ設ケシノ問屋役
人ヲ定メテ右等ノ事ニ當ラシメタリ是ニ於テ但
馬ノ出石ヘ行ク商賈ヤ但馬ノ豊岡ヨリ京都方面ヘ
向テ旅人ノ通行スル一舊ニ比スレバ幾層倍トハナ
レリ其ノ免狀ノ文ニ曰ハク

天田郡立原村高百拾石之處後等除來り由
先規之狀六通令披見之委細達
御身處慶長七年中依土木之功ニ成
御許容ハ立原所庄屋等亘存其趣者也

寛文十二年七月十九日

多田助左衛門

朽木為左衛門

古賀三郎兵衛

飯田嘉右衛門

右書中ノ六通ハ傳ハテズ宿驛トナリタルヲ以テ所
ト為ルナリ部落内ニ在ル古塚ハ其ノ文書ヲ保存ノ
為ニ納メタル所ト云フ福知山藩領

上川口村

上川口村志

上大内
下大内

大字 十二ハ古時高千石ノ大村ナリシガ分離シテ
 川南ニ獨立シ高二百四十石トナリ福知山藩領ナリ
 上下大内モ此ノ村内ノニ部ナリシナリ
 大字上大内ト下大内合高三百十二石五斗七升九合
 内百三石七斗五升四合ハ武田越前守知行二百八石
 八斗二升五合ハ保科彈正忠知行十二村ノ内ナリ
 三吉神社 上大内
 蛭子神社 下大内
 足立傳兵衛ハ上大内ノ農民ナリ幼少ヨリ家業ニ勤
 ノ年長ジテ蠶業ニ從事シ桑樹ノ根刈及ビ栽植改良
 等ニ得ル所アリテ具ノ急務ナルヲ既キ地方人ヲシ
 テ得ル所アリテシメ福岡縣ノ老農林遠里ニ就キ米穀

改良方法ヲ習ヒ郡ノ米作改良巡回教師ニ舉ゲテレ
 専心一意ソノ務ニ服シ郡民ヲシテ舊習ニ泥ムノ不
 可ヲ知テシメテ成績ヲ顯ハセシカバ明治四十四年
 二月十一日郡長荒川真造コレヲ表彰シ銀盃ヲ賞賜
 シタルガ惜ム可シ既ニ其ノ死シテ此ノ恩典ヲ見ル
 丁能ハガリシヲ
 大字 大呂 高三百十二石九斗九升五合 武田氏
 知行所 古ノ神戸郷ハ此ノ邊ニ當タルト云フ
 眞谷即古ノ桐村谷ヨリ大田和峠ヲ越エ三嶽村ノ一
 ノ宮ニ達スベシ
 上谷ヲ越エ中村ヲ經テ戸倉峠ニ及ビ一ノ宮戸倉ニ
 至ルベシ中村ハ三嶽村字喜多ノ小字ナリ

丹波志

鹿嶋神社

天満神社

福王神社

古城ト將監塚ハ桐谷ニ在リ桐村將監高信ノ舊住城郭及ニ具ノ墓所ト云フ没落戦死ハ天正年間ニ在リトスレバ光秀軍ニ敗殺シタルナラシ其ノ子孫ハ瘠ノ木ニ存在ス口碑ニ傳フ桐村氏ハ元田郡曾我井庄ノ地頭ニテ同地ノ横山城主塩見大膳正曾我井ノ部等参看アノ使者トシテ來レル桐村甚右衛門此ノ地ニ居住シ金山氏ト戦々金山輝實ヲ攻殺ス

金山某常陸國那珂郡其村ヨリ來リ住々系圖ハ

一代金山如意麻呂大中臣那珂彌三郎宗經 二代

金山大膳大夫那珂宗養法名宗呼大因宗呼公禪定門 三代備中守實宗法名威光嚴選禪定門 四代氏實 五代持實法名宗壽 六代元實 七代政實 八代存實 九代晴實 十代輝實

紫金山天寧寺 禪宗臨濟派 本山格 本尊釋迦如來 境内高十石六斗餘除稅地 開基大檀越宗養大因宗呼公前示開山ハ教賜佛徳大通禪師周及愚中貞治四年創立 中興萬休和尚 一書ニハ延文四年乙巳南禪寺派ノ人靈仲全英和尚住持タリシ時ニ佛通禪師ヲ請待シテ開祖トセリ

一世佛通 二世一笑 三世春浦 四世萬休 中興 十一世休巖安永六年二月朔日全燒 白英入寺シテ

上川口村

丹波志

佛殿庫裏ヲ再造ス 十二世樵堂佛殿改造開山堂再
建 十四世千雄觀音堂寶藏山門再建 佛殿ノ襖ハ
原在中畫 山門額ハ朝鮮人南湖書燒 佛殿ノ額ハ足利
將軍義持書 國寶李龍眠筆十六羅漢圖寄附者ハ前
示ノ桐村甚石衛門法名子英全雄禪定門ノ位牌ヲ存
ス 天正七己卯年七月廿四日ト刻ス 金山城主寄附
狀沙彌威光(前示)判トアリテ假名ニテ書ス 黃檗世
代ノ書是ノ數葉ハ開山禪師ノ持歸リタル所 佛印
禪師自畫贊 白雲深劇怪來鳥 霜濕輕包露濕衣
細川右京大夫勝元以下代々ノ下附狀
丹波國金山天寧寺奉為祈願寺可致精誠之狀
如件

寛正三年四月五日

左京大臣源朝臣判

當時住職

丹波國金山天寧寺并末寺臣唱寺領田畑山林等
目錄在別紙 奉任當知行之旨寺家領掌不可有相
違之狀如件

大夫

寛正三年四月廿日

右京臣源朝臣判

板額

禁制

第一 不許一切女人入寺中事

第二 不許一切酒入寺中事

第三 不許年少沙喝畜之事

應永十三年九月廿七日 住持走比丘周及書

上川口村

檀那 沙彌威光

きーん尸天寧寺をヤリ的事

たんばの玉さくび下山口り愛カチとーき長尾
むらの中つつもりざいさむんむのり同山林
右件のちりやうハ宗呼重代相傳日私領ちり然
るもてんぬいドに寄進尸所しちるり永代御知
行相違あるべりらず此寺をこりさヤいし
りハ先祖の菩提もとむるもんが為又ーそんま
んーヤうのためそりとし去そんこしてひさ
りもわづらむも... たりくふけ
ふのりニして宗呼があとも... ちり
てきーんーやうくちんのこと

かゝあへん二年壬寅二月三日 宗呼判

たんむの國や、き下山のりーのちとーき長
尾村内... 田代六貫文ニ忍いたい
りり尸物そりさいよ、くう山の下ニてキ
田ニおいてハ、そんくニいたるすていら
んちつらむあへんべりす也よりてほりのちめ
状ぬ件

應永九年三月のへ ちま十二月二十八日

沙彌威光 判

後小松天皇宸翰

敕 晦迹韜光以安心空門是道人之本心立踰易名
以褒寵旌異是王者之良規丹州路金山愚中和

上川村

尚者慶靈山單傳正音得少室密付的旨雖寄身於林壑而名喧于宇宙其道甚尊顯心切慕之謚曰佛德大通禪師

應永十六年九月十四日

丹波國金山天寧寺事可為祈願之狀如件

應永廿七年七月廿日

義持之印

住持

丹波國金山天寧寺門前敷地并向山限西師殿桐村合之本屋敷登南尾大道限東大津坤分事當寺領掌不可有相違之狀如件

應永廿七年七月廿日 從一位朝臣判

禁制 丹波國金山天寧寺

一 寺家為代々御祈願所之間甲乙人等不可致亂入狼籍事

附殺生之事

一 寺領百姓等臨時課役可令停止事

附檢斷之事

於國中彼門下寺菴位侶之僧自然以無實之儀或弄非法之仁於其檀那及村在地不可成違亂但罪科歷然之時者自本寺堅可令糾明事右條々自今以後堅可守制札旨若於違犯之輩者可被處罪科之由被仰出訖仍下知如件

寶德四年卯月廿八日 管領元貞判

以下數通大同小異故畧ス

横山城主二代塩見大膳位牌 前示

表面 子英全雄禪定門

裏面 此位牌塩見大膳七十六羅漢寄附者

藥師堂 天井ノ繪ハ原在中致遠ノ筆

福知山城主有馬玄蕃頭其ノ父ヲ葬ル墓面ニ

梅林寺殿前刑部卿法印劔南宗知大居士

右ニ付寄附地高十石ヲリ 時ハ慶長七年壬寅七月二

十八日

開山禪師畧歴

元亨三年癸亥岐阜ニ生マル建武二年乙亥十三歳僧
クテシテ一ヲ乞フ父母許サズ其ノ寢食ヲ廢スルヲ以

上川口村

テ遂ニ許ス正覺國師ニ就キ臨川寺ニ於テ剃髮シ周

及テ名トス曆應四年辛巳建仁寺ニ入り禪規ヲ習フ

一日疑義ヲ長老ニ亂スニ叶ハズ奮然トシテ渡元ニ

志ス天龍寺ヨリ藏經ヲ元國ニ求ムルノ便アリ之レ

ニ托シテ至正二年壬午明州ニ渡リ月江禪師ニ謁ス

月江其ノ志ヲ嘉シ孳教ス時ニ年二十同三年癸未金

山即休和尚ニ投ズ十年庚寅即休病ニ訣別シ日本ニ

歸テシム此ノ年ハ禪師ガ母ニ約シテ歸省スベキ十

年月ニ當ケレバ師命ニ從テ東歸ハ即休ノ文詩ヲ

リ曰ハク日東周及藏主自持香典教至居間皆得以代

昏耄檢閱之勞可嘉也今其歸里偈以勸進

契了即休

丹波志

裴寺相親閱幾秋左探右索出時流機輪三轉輪元
淨定慧雙詮慧匪修睡虎耽々拋故穴遊龍矯々奮
靈湫好翻一滴長江水漲起東方廣海洲

愚中將歸本國偈以留之 同

雞聲唱徹炎天曉已向聲前契祖機揚子江流東入
海臨流未可買船歸

吹二示又所ノ四首ハ其ノ同會下ノ僧ナル可シ

賀愚中充東藏職 正印

金烏玉兔如梭急八駿如何追得及滔々揚子大江
流夜半穿靴水上立龍宮海藏盡豁開赤手揮得摩
尼來萬仞龍門一躍過不假霹靂轟春雷者回重入
德雲室不用參尋經七日金鰲背上掉臂行盡得真

人好消息

與周及 同

拙而且古直而方誦帚忘苦帚亦忘紫氣無端出峰
頂勞他賢者到岩房

贈周及遊方 同

贈君一滴曹漢水漲起西江十八灘八十四人艸菓
裡齒牙交下鬪體寒

寄愚中 梵碕

信得及時明得破無邊海藏盡掀翻休翁古佛呵々
笑鎮海明珠只一九

同十一年辛卯四月歸朝七月母ヲ省ス年二十九九月
正覺國師遷化ニ會衆散去ス師乃心喪三年臨川寺ニ

上川口村

丹波志

留マレ延文四年乙巳師年四十三天寧寺檀那那珂宗
泰ノ乞ヲ容レ丹波ニ來リ住ス横山特峰ノ勸誘ニ由
リ雲初群至ス師之レヲ厭ヒ山ヲ出テントス檀那之
レヲ憂ヒ菴ヲ焚キ僧ヲ逐フ然レ元來初絶エマ師寺
門ヲ閉テ已ムヲ得ザル者ノミヲ容レ交友トシテ相
接ス永和二年丙辰師五十四歳普明國師丹後ヨリ師
ヲ招請シ其ノ去就ヲ視ント欲ス偈ヲ送り謝ス
今日明朝月又年病身匍々涉近延大虚一片磨秦鏡
方才何勞開口宣
康應元年己巳六十七歳同志四五輩ト遁ガレ去ル留
別ノ擬古壹首アリ曰ハク
昨日寒谷氷今日東流水笑而將出門有憂亦有喜

土佐國五台山ニ入り菴ヲ結ビ居ル一ク海上惡風起
コリ波浪大ニ起エル師出テ海上ヲ見ルニ一舟ノ
今ニモ覆没セントスルアリ乃之レヲ救ハントテ香
ヲ燒キ呪ヲ誦ス俄ニシテ風止ミ舟到ル是レゾ金山
大檀那父子ノ迎ヒニ來レルニテ強請シテ復金山ニ
歸ラシム明德二年辛未大檀那ノ家ニ大逆罪アルヲ
師ノ道カコレヲ未前ニ防キ得タリ細川右京大夫丹
波ノ守護ニ命ジ師ヲ金山ニ墜ク留メシム自後諸國
ニ出行スルモ丹波ニ歸住ス十四年足利將軍義滿ノ
請ニ應ジ勸發文ヲ述ベテ答フ十五年戊子八十六歳
將軍室町第ニ請ガ師曰ハク拙衲都門ニ入ラザルノ
誓アリ乃伏見ノ藏光菴ニ於テ參禮アリ十六年將軍

上川口村

ヨリ紫衣ヲ授ケテ且速ニ金山歸住ヲ勸ム師ノ倡
マリ曰ハク

償却趙州行脚債自携藤杖在途中因於來命皇丘
嶽又向丹金投无蒙

將軍大ニ喜ブ八月十五日山ニ登リ葬所ヲ定ム十七
日臥シ遺偈ヲ示ス曰ハク

出行得好日快馬痛着鞭萬回瞻其後雲門堂幸先
趺跣シテ逝ク年八十七天寧佛通西寺ニ分骨埋葬ス
九月十三日諡ヲ佛徳大通禪師ト勅賜セラレ
應仁天正ノ亂ニ遺迹亡滅シ獨立本山タル能ハズ維
新ノ改革ニ妙心寺ノ籍ニ入ル本山ハ待スルニ客寺
ノ稱ヲ以テ優遇ス

夷

上川口村

加藤源之丞ハ横山大膳正正或ハ亮ニ部参考ルノ遺臣ナ
リ君家ノ亡滅ヲ慨キ先君ノ遺子ヲ尋ネテ末子信之

ヲ得コレヲ乳母ニ抱カシメ大坂ニ送り已ハ此ノ地
ニ隠レ其ノ機ヲ窺ヒ事ヲ舉グルノ志アリシニ疾ニ

遇ヒ忠憤ヲ抱キテ死ス其ノ家系今尚存
大字 夷ハ古ノ神戸郷ニシテ中古野花村ノ一部ヲ

リ高百九十二石二斗福知山領一時旗下士保科彈正
忠ノ支配ナリキ

宇徳三社大明神社 祭神八幡太郎義家加茂次郎義
綱新羅三郎義光

天神々社
妙高山 大信寺 臨濟宗本尊地藏菩薩 開基玉山

野花

藥師堂開基 申中 除地四間四面

大字野花 野端 高三百五十石八斗保科氏知行 天保

聖神社 大川森神社

上小田

大字上小田 大躬 小部落野笹小山宮地古ノ小田村ニ

高六百五十二石内廿四石三斗四升四合九勺穢郷

熊野社三柱社八幡社アリ

下小田

大字下小田 高四百十八石

氣比神社 祭神仲哀天皇祭日九月十一日 舊曆

高木

稻荷社幸神社三柱社アリ

長命寺 真宗

赦念寺 同

金山村 大字 長尾 行積 上野條 下野條

天座

村位ハ本郡ノ最西北ニアリ南方ニ三嶽村アリ巽位ニ上川口村アリ東位ニ下川口村アリ而シテ北方ハ丹後國加佐郡ニ西方ハ同國與謝郡ニ界ス山嶽丹後國疆ニ産疊連亘シ以テ北方西方ヲ梗塞ス與謝郡界ノ大江山雲際ニ兀立シ山脈流シテ村界ニ遍ス尚又村中ニ一山アリテ南方三嶽村ノ山嶽山ト相起伏シテ村内ヲ横絶ス 下川口上川口ノ二村ヲ合セテ古ノ川口郷トス 一水丹後界ナル三國山ヨリ流シ来ルモノ村内ヲ通過シテ下川口村ニ入ル他ニ川流トシテ見ルベ

金山村

キヌノ無シ

道路ハ北行シテ丹後ノ加悦町ニ至ルベク東南行
シテ下川口村ニ出デ福知山町ニ赴クベシ孰レモ
平易ナラズ旅人行キ易カラズ

金山郷ト呼ビリシ地ハ三嶽東西ノ山村ヲ総稱セ

シガ中古ハ天座行積長尾一尾今ハ下河村大呂(上川村)ニ屬ス

嶺ノ本(下川村)北村 日ノ尾(三嶽村)上野條トナリ明

治新政所村制施行前嶽東ニテ此ノ稱稱ヲ存スル

トトナレリ 産物柳千八百五十二圓 明治四十二年

此ノ地ヤ郡中極北ニ位シ且大江山ノ麓ニアリテ

山嶽縱横ニ流レ往々所トシテ丘陵ナラザル莫ク

長尾峠黒神峠俵峠加納峠山谷峠ノ十數嶮アリテ

終ニ丹後ノ通路ヲ開ケリ之ヲ福知山ト丹後トノ

一路トス往々所ハ逕ノ屈曲蛇行スルモノナリ

人口一千八百五十九 戸數三百六十 地域四百

三十一町四畝二十歩 地價五萬四千九百五十圓

三十二錢二厘

大字 長尾 高百五十七石ニシテ保科越前守領

ナリシ元禄マデハ高百十七石ナリシガ増額シタ

ルナリ 古驛路ニテ天津ヨリシテ丹後ニ入ルノ

舊形ヲ存ス 長尾峠ニ國疆アリ路程八町

住吉明神社アリ 氏神ナリ

大嘗祭 主基方 法人乃ささくひく道ハ長尾山まきり

まきりまきりけり

夫木集

丹波志

天正六年東將明智光秀大兵ヲ率ヒテ鬼ヶ城ヲ攻
 メ自身ハ高見保月ヲ巡視シテ金山ニ宿ス時ニ十
 月此ノ地北海ノ風ヲ受ケテ寒氣烈シク加フルニ
 白雪膝ニ及ブ東人ノ深雪ニ慣レガルニ衆シ赤井
 宗夏同宗重等共奔ラシテ橋ニ架ラシメ窓ニ来リ
 テ其ノ不備ヲ襲フ光秀ノ軍拒カ能ハズ倉皇雪ヲ
 踏シテ篠山街道ヲ取ル殺傷セララル、多シ
 大字 行積 高二百六十七石ニテ領主前ニ同ジ
 産物中煙草ヲ佳品トス
 丹後國小田原ノ二十八町四十間 黒神原峠園境
 マデ十七町
 六所権現社 神併混淆ノ時ニハ大江山鬼退治ノ

神トシテ源頼光以下六人ノ靈ヲ祭リシガ今ハ改
 稱シテ六社神社トス人猶ホ舊号ヲ呼ブ外ニ
 名草神社 八幡神社アリ
 大字 上野條 元祿高五百四十石 寛政改五百
 四石四斗六升五合 領主保科 下野條ノ分支ニ
 シテ獨立村ナリシ 文久高寛政ニ同シ
 三吉神社
 大字 下野條 元祿高五百五十五石三斗三升四
 合 文久五百五十五石五斗三升四合 領主同上
 頼光神社 愛宕神社 琴平神社
 大字 天座 古ハ廿座ト書ケリ高六百十石 保
 科越前守領ナリキ 小字平尾 登尾 クレ谷

二ノネ等アリ本郡ノ極北ニシテ大江山ノ麓ニア
 ル俾邑ナリタレヤ谷人家十戸國境山下峠ノ北
 方ニアリ登尾ハ源賴光カ大江山兇賊退治ノ時
 ニ分ケ上リシ所ト云フ丹後國橋谷迄廿四町俵
 峠ニ國境アリ十七町ニシテ達ス加納峠國境ハ
 十五町ツレヨリ丹後ノ北原ノ數町山下マデ三十
 四町
 大江山 國境ニ聳ツ 小字湯上谷ハ湯泉アリシ
 所ト云フ 産物串柳
 八神明神社長サ五尺幅四尺ノ免除地 四社明神
 社 亦同シ 大歳大明神社ハ大年神ヲ祭ル正月
 三日九月八日ノ舊曆ニテ祭式アリ 五尺四方除

地 尾崎神社ノ外ニ有徳爰宕須賀八柱ノ四社アリ
 大日山普光寺 臨濟宗 本尊正觀音 元ハ大日
 如来ナリシガ今ハ之ヲ別ニ安置ス
 開基 源賴光 中興一笑 創建一條天皇正曆元
 年庚寅ニテ真言宗ナリシヲ應永十一年三月再建
 シテ改宗ス 今ノ堂宇ハ天保年中ノ改造ニ係ル
 大江山兇賊退治ノ際賴光等ノ一行此所ニ忍ビ山
 中ノ情况ヲ窺フ岡佐右衛門ナルモノ之ヲ宥セシ
 ノ且ツソノ便宜ヲ與ヘタリトノ口碑存ス正曆元
 年八月十日賴光等ノ一行ハ二瀬川ヲ涉リテ賊窟
 ニ入り其ノ功ヲ奏セリ後ニ賴光等ハ大般若經ヲ



賴光郷道ヲ得テ
大江山窟ニ登ル

手寫シテ當寺ニ寄附ス今尚存ス保元建武等數次
ノ災ニ逢ヒ故記ノ徴スバキナシ

攝津源朝臣
此度當國大江山を夷賊
追討米
劫奪義向亂速祈
觀音大士之權護所
可被抽丹誠条解
寛仁元三月廿日 啓
後相寺 宸政

山上四時風烈シク只篠ノミ生ヒ茂リ樹木生長セ
不 岩窟ノ口ハ巨岩自然ノ門ヲ爲ヌ上下左右皆
岩石一岩四五間一石六七尺一方口洞口高サ一丈
許 奥尚ホ廣カルベシ 天光漏レ光線通ルナル
ベシハ許見ルヲ得 丹後ノ加悦ヨリモ道アリ其
處此處ニ岩窟洞コアリ相通ルニヤ 大窟三個
クロキノ岩屋イト物凄シ 宇鬼屋敷アリ 千丈
ヶ嶽ハ大山ノ西部ナリ 天田郡ヨリハサソ坂ヲ
越エテ其ノ麓ニ到ル 千丈ヶ瀧ハ僅々三間許ノ
小瀑 内宮外宮ハ出グルニ瀬川ノ源 血沙川ハ
千丈ヶ瀧ノ下流 京嬪カ血衣ヲ洗ハル所 鬼嶽
明神ノ主神ハ稻荷ヲ祭ル毎年四五ノ交ニ賽集

アリ鬼茶屋内宮ノ奥ニアリ此ノ家ニ鬼退治ノ繪
巻物一卷アリ鬼退治ノ繪アリ七枚大襖ニ張ル大
江山由来記ヲ賣ル地丹後ニ屬ス 参考庵村鬼
ヶ城ノ部 船井郡東本梅村頼光ノ遺品 多紀郡
日置村ノ六本榊 何鹿郡物部村高倉神社紀事等
岩子腰ヲ頼光ノ徒、しう邪 蕪村
宮ニ文かゝる日子のみ鬼あろし
大江丸
酒店到ル處ニ銘酒鬼殺シヲ賣ル
丹後國室谷ノ明王院ニ頼光ガ鬼退治行装遺品ヲ
藏テリ 南栗田郡保津村ヨリ山城へ越エルノ山
中峯堂ノ絶頂ニ五六基ノ石塔アリ酒頼童子ノ塚
塚ト呼ブ 同郡篠村峠ノ首塚ハ童子ノ首ヲ埋メ

タル所ト云フ
朱雀天皇ノ御宇ニ當リ政躰ノ解弛ソノ極ニ達シ
純友南海ニ起コリ將門關東ニ起コリ加ッルニ出
羽ニ賊群ノ萌起スルアリ大賊漸ニビテ小賊方ニ
興コル群盜蟻竊ソノ數ヲ知ラズ輦轂ノ下且然リ
僻取遠鄙ソノ幾許ナルヲ知ラズ茲ニ酒頼童子ア
リ坂木童子アリ茲本アリ今其ノ一ニ人口ニ膾炙
シ丹波ニ形迹アルモノヲ取捨シテ聊ソノ顛末ヲ
記セント欲ス
丹後ノ國ナル大江ノ山ニ穴賊アリ人家ヲ襲ヒ行
旅ヲ害シ遠ニハ遠ク都ニマテ其ノ部類ヲ差シ登
レ美女ヲ奪ヒ之ヲ山窟ニ携ヘ其ノ太甚キ宮城ニ

丹波志

あり鬼茶屋内宮ノ奥ニアリ此ノ家ニ鬼退治ノ繪
 卷物一卷アリ鬼退治ノ繪アリ七枚大襖ニ張ル大
 江山由来記ヲ賣ル地丹後ニ属ス 参看庵我村鬼
 ケ城ノ部 船井郡東本梅村頼光ノ遺品 多紀郡
 日置村ノ六本榊 何鹿郡物部村高倉神社紀事等
 岩子腰いしこしれ頼光の徒、ししらら 蕪村
 聖せいニ文ぶんかかるる日ひののめめ鬼おにふふりり 大江丸
 酒店到ル處ニ銘酒鬼殺シヲ賣ル
 丹後園室谷ノ明王院ニ頼光ガ鬼退治行装遺品ヲ
 藏セリ 南粟田郡保津村ヨリ山城へ越エルノ山
 中峯堂ノ絶頂ニ五六基ノ石塔アリ酒頼童子ノ塚
 塚ト呼ブ 同郡篠村峠ノ首塚ハ童子ノ首ヲ埋メ

タル所ト云フ
 朱雀天皇ノ御宇ニ當リ政躰ノ解弛ソノ極ニ達シ
 統友南海ニ起コリ將門關東ニ起コリ加フルニ出
 羽ニ賊群ノ萌起スルアリ大賊漸ニビテ小賊方ニ
 興おこルる群ぐん盜とう鼠そ竊せつソノ數ヲ知ラズ輦けん轂こくノ下且然リ
 僻取邊鄙へきとノ幾許ナルヲ知ラズ茲ニ酒頼童子ア
 リ坂木童子アリ坂本アリ今其ノ一ニ人口ニ膾炙
 シ丹波ニ形迹アルモノヲ取捨シテ聊聊々ノ頼末ヲ
 記セント歎ス
 丹後ノ國ナル大江ノ山ニ穴賊アリ人家ヲ襲ヒ行
 旅ヲ害シ遠ニハ遠ク都ニマデ具ノ部類ヲ差シ登
 々美女ヲ奪ヒ之ヲ山窟ニ携ヘ其ノ太甚キ官城ニ

丹波志

入り官女ヲ勾引シテ去リ御寶ヲ盗ム等捨テ置ク
ベクミアラストテ正暦元年正月廿五日涼賴光ニ
敷シテ之ヲ討罰セシメラレヌ賴光ノ時ハ摂津
多田ノ邸ニアリシガ救宣ヲ受ケ密ニ無根坂ヲ出
テ福知ニ至リ從者三十餘人ヲ解キ歸ラシメ只五
人ヲゾ隨ヘタリ一草菴ヲ看テ之ニ入り一宿シ翌
朝調度取出シ兼ネテ設ケタル蓆ノ衣ニ篋ヲ掛ケ
頭中燒中ニ眉半バニセメ單皮脚半ニカ杖ツキ都方
ノ山伏ガ伯耆ノ大山詣ノ體ニ身ヲ名シ年長ジタ
ルヲ先達ニセシトス賴光三十七細三十八年武四
十一公時三十六貞光三十七保昌五十八年長者タ
ルヲ以テ先達トナリ三月廿五日丹後境ニテ一ハ

社ニ詣テ社掌ニ問ヘバ一ノ官ト云フテ去ラント
スルヲ賴光引止メ爰ノ様ヲ細々ト聞クニ社掌云
師曰フ平常ハ日暮レヌ間ニ燈明ヲ奉ルニ今日ハ
事ノ多クテ斯クハ夜ニ入りヌ此ノ邊怨念ナレバ
トテ急ギ罷ラントス賴光言フ予等コノ神社ハ一
紙ノ願文ヲ奉ラント思フ枉ケテ暫シガ程待チタ
マヘトテ細シテ願文ヲ草セシム細願テ矢立ト疊
紙ナド篋ヨリ出シ左ノ文ヲ奉ル

歸命頂禮當社権現者住吉大明神之變座而國家
鎮衛之寶社怨敵降伏之靈神臣等適詣于此瑞籙
影殊有所禱之旨趣何者明神化現之昔者佐於皇
后香推而任三韓之夷賊在跡之今者命臣父端仲

而誅九頭之毒蛇所仰不違百世鎮護之神約速退
於朝廷之敵所願以爲累代渴仰之值過遍齊家運
之肩爰頃年丹州前後之間有魔道成軌之者徒惱
人民恣亂國家其幻術自在或變隱其形此消彼見
或忽分其身千變萬化非人力之所能及無不恐怖
者賴光苟生於弓馬之家適應於朝廷之撰方赴于
丈大惡鬼之巖窟忽拜於四所和光之社壇機感之
純熟既與關戰之勝利何疑偏酬曩日之歸依且憐
今時之丹精神社社稷廻於擁護之聯明王大龍垂
於降魔之手勝決一時怨退四方若滅之過期者國
爲鬼魔之國帝業永衰道爲波旬之道朝政竟廢神
明併陀去於天上日月星辰墮於地下豈可不哀乎

懇誠早酬感應遂至登莊嚴於社頭奉供米於寶前
施神德於四海傳王道於萬世丹祈有誠冥慮勿誤
仍所請如件敬白

正曆元年三月廿五日

鞆負府 曰井貞光

主馬佐 酒田公時

勘解由判官 卜部季武

瀧口内舍人 渡邊細

右京權大夫 藤原保昌

左馬權頭 源賴光朝臣

法師コレヲ受取り拍掌彈指シテ寶殿ニ納ムレバ
引出物若干ヲ與ヘ各自祈念シ一夜ヲ此ノ社殿ニ
送ル是レヨリ此ノ宮ヲ籠モリ堂トハ呼做セリ時

丹波志

二頼光ハ正四位下保昌モ亦正四位下丹後守タリ
而シテ其ノ頼光母方ノ叔父タルヲ以テ朝廷ニ乞
ヒ丹後ニ赴クノ嚮道トナセシナリ 源氏ハ経基
満仲以來士人ヲ東國ニ得テ其ノ臣隸トスル者百
千ヲ以テ數フル中ニ右ノ四人ヲ特選シタルハ勇
氣任耐兼ネテ又文道ニモ志ス者ヲ舉用シタルナ
リ保昌ハ明敏忍耐ナルヲ以テ頼光ノ信任ヲ得テ
リ袴垂保輔ニ對スル舉動以テ其ノ全斑ヲ知ルベ
ク綱ト負光ハ武藏國ノ住人ニシテ世々源氏ノ催
促ニ應ヒテ征討ニ從事シタルモノ公時ハ信濃國
南安曇郡八坂村上菰ノ産ニシテ新ニ源氏ノ属臣
トナレルモノニシテ靱負府ニ入り主馬佐トナル

季武ハ幼少ヨリ雄武不群ナルヲ以テ人呼ビテ荒
次郎トハ綽稱セリ季武幼字六郎亦幕下ニ在リテ
剛勇ノ福アリ
扱大江山ノ兇賊トハ何物ガ酒^顔童子ト具ノ黨與
ナリ抑童子ノ謂ハレヲ尋ヌルニ出生地ハ越後國
西蒲原郡嶋上村大字沙子塚ニシテ母ノ胎内ニ在
ルヲ十六ヶ月母死シテ生マル産湯川ニ於テ洗フ
其ノ迹今存ス生レテ歩ニ三四歳ノ兒ノ如ク柔媚
婦女ノ如シ父コレヲ養育セシニ具ノ遊戯尋常ナ
ラズ北陸ノ習慣ニ正月ノ餅ハ具ノ食餘ヲ絲ニ繫
ギ之ヲ梁上ニ干ス童子深夜ニ起テ梁上ニ攀テ登
リ之ヲ竊ニ喰フ父コレヲ患ヒ同郡和納村ノ櫻嚴

丹波志

寺住僧ニ謀リ入レテ小僧トス川魚ヲ捕ヘ酒ヲ竊
ミ之ヲ飲食ス酒呑童子ト綽号セラル住僧コレヲ
苦ミ其ノ父ハ暹ハス父大ニ苦ミ一日携ヘテ深山
出谷ノ中ヲ還ミ村里遠キ所ニ之ヲ棄テ置キテ歸
ル山居溪住木實ヲ食ヒ溪水ヲ飲ミテ露ノ命ヲ持
テ時々村家ヲ襲フテ衣類ヲ盗ミ之ヲ着又酒ヲ
奪ヒ之ヲ呑ム其ノ丈七八尺容貌少年ノ時ト變ハ
リ緒顔黒筋身杖魁偉近傍村人ノ恐怖スル所トナ
ル山居數年ニシテ近江ニ渡リ伊吹嶽ニ止マリ山
城ニ入り貴船ニ宿シ遂ニ丹波ニ入り茲ニ大江山
ノ要處ヲ見出シ以テ本據トシ鬼ヶ嶽ヲ支據トシ
惡黨ヲ招徠シ誘拐スル所ノモノヲ手下難卒トシ

テ其ノ勢數ナトテ聞コエシ
頼光ノ一行ハ行積地方ヨリ山路ニ分ケ入りタル
ガ屢次逕路ニ迷ヒ之ヲ問フニ何レモ怪ミ畏レテ
避ケ匿ケルモノカラ數人ヲ捕ラヘ引出物ヲ取
ラセ之ヲ尋ヌルニ其ノ樵父ヲシキモノ、云フニ
ハ童子ハ前年マデ愛宕山ニ住居シタルニ其ノ京
都ニ近キヲ以テ心安カラズトテ此ノ山ニ移レリ
世ニ傳フルカ如キ神變不思議アルニ非ズ只怪力
早業アルノミ性来酒ヲ好ミ人肉ヲ嗜ム故此ノ山
下ノ者ハ村中ノ夜行モセズ外出スルニハ斯ク多
人數相連レテ往來スルナリ近頃ハ京都ノ美女官
女ヲモ誘拐シテ彼ノ岩窟内ニ置ケル由ト云ヒ避

ク行キヌ一行ハ其ノ樵夫ノ教エタル路ヲ辿リ一
石門ヲ認メテ互ニ相顧ミ相語リテ之ヲ叩ク傍ノ
小窟戸ヨリ一徒出デ来リ訴リ問フ保昌進ミ出デ
答フ吾々ハ見ラル、通りノ山伏ナルガ途ニ迷
ヒ此處ニ到ル哀レ一夜ノ宿リヲ許サレヨ彼ノ者
入りテ又来リ大將ノ許シヲ得タレバ入りタマヘ
ト云フ乃チ岩窟ヲ下ル數室ヲ過ギ大童子ノ居室
ニ達ス見ルモ恐ロレキ大童ニテ酒氣ヲ帯ビ顔色
左チカラ朱ノ如シ一列進ミ拜スレバ童子問フ様
方々ハ何處ノ者ニテ何處ハ渉ルカ保昌謹ミテ答
フ是レハ都方ノ山伏ナルガ伯耆ノ大山ハ始メテ
詣グル者供ナルガ思ハズモ路ニ踏ミ迷ヒヌ哀レ

憐ヲ垂レ一夜ヲ明カサセ玉ヘ童子疑念暗レヤラ
ヌ様ナルヲ看テ頼光ハ役ノ行者ノ素性ヨリ其ノ
靈現ノリヤチエナルト山伏ノ法則ナド演ベ立テ
童子ヲレテ疑念ヲ散ゼシメントス童子が何故汝
ヲハ劔ヲ佩ブルヤノ問ニ對シテハ併添擁護ノ戒
ヲナリト答ヘ笈ヨリ酒取り出シテ勸ムレバ山伏
ガ酒飲ム方ヤアルト訝ル保昌答ヘテ併世尊モ太
子ノ爲メニハ飲酒戒ヲ解キ玉ヘバ煩悩ニ陥ラザ
ル限り飲酒喫肉何シノ害カアラント云フテ携ヘ
来レル大盃ニ注ギ又試飲シテ童子ノ疑心ヲ解ク
是ニ於テ童子幾分不安ノ念ヲ去リ幾盃ヲ傾ケ侍
女ヲ召シ興ヲ助ケシム六人飲シテハ勸メ々々テ

丹波志

ハ吞ミ献酬アマタ、ビニシテ童子大ニ醉ヒ侍坐
スル奴賊モ皆露醉シ杯盤狼藉新聲漸起コル頼光
キツト目クバセスルヤ公時一番ニ起キ揚ガリケ
レバ今迄寐タル姿醉ヒタル體ヲ装ヘル面々各々
立キ揚ガリ童子ヲ目懸ケテ近寄ル頼光大喝一聲
太刀振りカガシ如何ニヤ酒頼トヤラ率土ノ内ニ
在リナガラ王命ヲ蔑ニシ國人ヲ惱マス其ノ罪輕
カラズ源頼光救命ヲ奉リテ誅戮セシムルナリト
云ヒ此終ラズ童子ガ驚キ劍ヲ擧ラントスル所ヲ
スカサズ一刀又一刀胸元サレテ衝キ洞ス手鎌ト
名刀何カハ以テタマルベキ大地モ崩ル、計リノ
息ノ音發ル、響ニ充徒ハ出テ来ラントスル所ヲ

四人シテ防戦苦闘シ挾サハセマシ一人進メバ一
人ヲ切り二人来レバ二人ヲ仆ス其ノ内ニ頼光ハ
金時ヲシテ童子ノ首ヲ刎ネシメ源家ノ重寶ナル
鬼瓦ヲ銘カノ切先ニ貫キ一同凱歌ヲ擧ケタレ
バ小賊共ハ肝ヲ冷マシ降伏ス斬殺セラレタル童
子股肱ノ充徒ハ名難人二十人洞内ニ具ノ屍ヲ横
タヘヌ小賊ニ命シ松燃ヤサセ遍ク洞内ヲ點檢ス
ルニサセル物品トテハ無シ虜掠シタル婦女ハ之
ヲ具ノ郷里ニ送り歸サシムルノ命ヲ出シ勾引
セテ居タル者ト共ニソレノ處分ヲ了シ元
ト来ニ路ヲ尋ヌルニ萱生ヒ茂リ小篠深ク鎖シテ
歩ムベキ様モ無シ殊ニ最ト大ナル充賊ノ首ヲ持

子歸ルトテ藤ノ蔓フタヒ松ノ根トリツキ千萬
 辛苦ノ後漸ク小路ヲ得テ麓ハコソハ出デ来ル斯
 カル難路ヲ如何ニシテ昨日ハ攀テ登ルト出来夕
 ルニヤ全ク神明ノ加護ニ依ルナルベシト疲レタ
 ル身ヲ勵マシツ、降り来レバ源家ヨリ参ラセタ
 ル近兵數十百人ニ逢ヒ即チ早馬ヲ立テ使ヲ以テ
 京都ハ注進奏聞セシメ丹後ノ國日丹波ノ國司ハ
 ハ特使モテ注進セシメタレバ丹後ノ守藤原経教
 檢視トシテ来リ後ノ處分ニ着手シ茲ニ多年ノ大
 害巨禍ノ迹熄ミヌ日出度シ酒顛童子ノ忌日八月
 十五日土ノ傳説
 童子ノ二副 狛熊 茨木 越後ノ豪士河井継之

助曰ハク我が北越ノ豪傑トシテ指ヲ屈スベキモ
 ノハ上杉謙信ト良寛上人ト酒顛童子ノ三人ノミ
 ト

大江山の雲



大江山探險隊の登山 (上圖)



政事畧云丹波國有強盜涉險跨谿登樓大江山中具
黨甚多矣常被赤毛於首浸丹朱於面偽鬼形借事於
妖術為劫盜民人為之苦焉天子敕賴光討之賴光與
四天王等為行者伺彼之柵洞遂誅主賊藤原保昌亦
與賴光同入大江山斬妖賊

保昌者武智麻呂之後裔也以武畧名于世又秀歌林
與源賴信平惟衡平致賴齊名其妻曰和泉式部俗以
保昌為賴光之家臣者非也

俗傳田村將軍討鈴鹿山之鬼源滿仲斬信州戶隱山
之妖鬼平維茂亦殺戶隱山之鬼如此之類皆強盜骨
長而自身為鬼業人以為鬼且後人褒其武勇而飾佐
異而已

丹波志

菟原村

菟原村 大字 菟原中 菟原下 大身 友洲

高杉

郡ノ最東部ニアル村ナリ北西ニハ川合村アリ南
西ニハ細見村アリ南方多紀郡草山村ニ界ス
山脈到ル處ニアリ多紀郡界ヲ最多トス東方寶祚
峠アリ一村三路具ノニハ以テ船井ニ入ルベク其
ノ一ハ以テ多紀郡ニ入ルベシ
舊村名ニモ菟原中及ビ下ニ村アリテ菟原上村ナ
ルモノ無シ高杉友洲ヲ上村トシタルモノカトノ
説アリ 古時倉廩ニテモアリシモノニヤ鹿ノ倉
小ノ倉猪ノ倉ノ三小字アリ
共有山林ハ夙ニ整理セラレタリ近村ノ模範トナ

丹波志

スニ足レリ
 水流 多紀郡ヨリ来ルモノト船井郡ヨリ来ル大
 久保川ト合流スル所ニ一橋ヲ架ス長サ十四間ア
 リ
 大字 菟原中 舊高三百七十五石五斗一升六合
 氏家百戸 寛政度ノ調査ナリ 文久度改高四百
 六十五石四斗七升二合七勺 内二百八十六石九斗
 三升九合三勺ハ旗下士水野壺岐守知行 百七十
 八石五斗二升三合四勺ハ同小宮山織部正知行
 産物 炭 葛 石灰 薪
 郵便局 旅人宿 小賣店等アリ
 生野、一里三十町 大身谷ヨリ船井郡大久保ハ

達スルハ本道ニシテ菟原岨ヨリスルヲ間道トス
 ハ幡 山神 稻荷 水無月等ノ神社アリ 水無
 月ノ森一名神明ノ森ト云フ不勤ノ小瀧アリ三十
 間四方除地ナリシ
 城址アリ水野某ノ故居ト云フ文史傳ハラズ
 金昌山瀧源寺 曹洞宗 本尊聖觀世音 開山龍
 札和尚 一町四方ノ寺地ト高六斗ノ田地アリシ
 モ無税ナリシ 安永八年二月廿五日夜焼失舊記
 モ亦亡失シ事蹟尋マ可ラズ天明元丑年再建セラ
 レタリ
 寶作山圓通庵 寶祚岨ニアリ 本尊阿彌陀如來
 眼立百鉢ノ觀音 瀧源寺ノ末寺 天保十一年子

丹波志

三月十七日建劄 圓通良英和尚ヲ開基トス
大字 大身 高二百三十八石一斗九升 氏家百
三十七戸アリテ綾部藩領ナリキ元ハ大身郷ト呼
ビ大身村トモ云ヘリ菟原中ノ北東谷中ニアリ西
ニ鏡岩峠アリ三十町ニシテ下河合ニ出ヅ 多紀
郡界アリ船井郡界アリ
大身川 多紀郡草山村ノ内ナル川坂山ノ谷間ヨ
リ又船井郡小野谷ヨリ来リ合フ
大身郷訴 今^{明治四十二年}ヨリ大凡五十年前ニ起コリ夕
ル百姓一揆ナルカ普通ノ百姓一揆ナレバ減租ノ
願ヲ腕カニ訴ヘントカ救助ノ強願的ニナスモノ
ナルカ首唱者ナル 横田甚六ノ救助請願ガ性質ヲ

憂ビテ大屋崩レ酒屋潰シトナリ雷同者ノ乱妨ト
ナリ了シヌ
元來此ノ邊ハ租税極メテ輕ク收穫十分ノ一ヲ納
ル、ニ過ギズシテ俗ニ豫實免ト稱ヘタリ并ハ豫
實カ穀中ニ只一顆アルノミナルヲ形容シ免一ツ
ノ意ヲ云フナリ一石ヨリ四斗ヲ取レバ免四ツト
云ヒ三斗五升ヲ取レバ三ツ半ノ免ト云フガ如シ
當時大身ハ二百二十三石高ニシテ新田高三十四石
ニ斗九合ト注セラレタルガ年々中作以下ニテ新
田ノ如キモ正租ヲ負擔スル能ハズ銀納ニセント
スルモ金錢ナキ徒輩ノミナレバ人口囂々トシテ
穩ナラズ甲議乙論ノ結果コレヲ名主ノ横田甚六

大身郷志

ニ謀ル甚六ハ相應ニ學識アリ財産アルモノ即チ
出デ、嘆願數度ニ及ビタルニ代官具ノ訴願ヲ容
レザルヨリ甚六遂ニ其ノ魁首トナリ竹槍席旗ヲ
押登テタルニ雷同附和スルモノ一朝ニシテ數百
人ニ登リ訴願ノ主義ハ度ジテ酒屋潰シトナリ豪
家崩シトナリテ到ル處米金ヲ奪ヒ酒漿ヲ盜ミ呼
喚醉狂シテ一時ノ快ヲ貪リ垢衣ヲ脱キ錦袴ヲ服
スルナド言語ニ絶スル情況ニ陥レリ暴徒四方ニ
散進シ劫奪レ休マサルヲ以テ其ノ難ヲ避ケ逃ゲ
ルモノ属々途ニ絶エ不中ニハ使ヲ暴徒ニ送り之
ニ目錄ヲ持タセ金何程米何程ヲ進呈スナド言ヒ
送り以テ其ノ豫防ヲ爲シタルモノモ村々ニコレ

アリ中ニハ身ニ上下ヲ着シ釣臺ヲ荷ハセテ行キ
以テ其ノ驕心ヲ賈ヒシモノモアリ是ニ於テ此ノ
注進類々領主ノ手許ニ達シ今ハ捨テ置キ難シト
テ出兵シ要處々々ヲ拒塞セシカバ暴徒モ力叶ハ
ズ漸次退縮シ之ニ加フルニ福知山藩ハ暴徒西進
ノ路ヲ逆襲スルノ勢ヲ示セシカバ烏合ノ奴輩潛
ニ脱歸スルモノ引キモ切ラズ猶ソノ獲物ヲ私ニ
爲主ニ返ヘシ罪ヲ詫ルナドノ滑稽モアリキ暴徒
ノ渠魁ハ多ク三戸野嶺ヲ越エントシテ園部藩ノ
捕吏ニ獲ラレ属々京都町奉行所へ送ラレ一散落
ヲ告ゲヌ甚六モ亦後ニ捕ニ就キ京獄ニ送ラレタ
ルモ赦サレテ歸リタルニハ人々ヲシテ一驚セシ

町
史

又流石ハ甚六サンビヤト譽ノルモノモアリ又ハ
罪ヲ人ニ負ハセテ平然タル人非人ナリト誹ルモ
ノモアリタリ渠料ハ大抵斬罪又牢死シタルガ家
ハ夫々立チ行ク様ナリ世ノ爲ニ禍ヲ引受ケタ思
人ナリトマデ稱ハラレタルニ引換ハ甚大ノ家ハ
次第ニ衰微シ遂ニ七ブ今ニ至ル迄甚六ヲ善人視
ヒテ様ヲ付ケテ呼ブモノアレバ悪人視シテ其ノ
七減ヲ當然トスルモノトアリ
廣谷神社 祭神 紀白ノ祖 祭禮 舊曆九月九
日 周圍一文餘ノ神木アリレガ明治二十九年ノ
大風雨ニ仆ル 紀忠通出雲守ト稱ス此ノ邊ニ住
シタリト云フ

與川神社 八幡神社 愛宕神社 秋葉神社
大字 菟原下 一名深瀬 高三百三十七石五斗
四升六合ノ舊高 寛政改高三百七十五石五斗一
升六合内二百八十六石九斗一升九合三勺 水野
壹岐守領 百七十一石二斗四勺 小宮山織部領
民家百戸 文久四百九十三石四斗八升一合一勺
小宮山定之助知行 小字殿ニ穢多二十戸ト一寺
アリト寛政調査
深瀬トハ古領主某ガ築ヲ掛ケテ漢獵ニタル跡ト
云フ今其ノ場ヲ築場ト呼ブ 築瀬ヲ涉リ三町ニ
シテ小字柏田アリ民家十戸之ニ住ス
細野峠ヲ四町許東ニ下リ横溝アリ之ヲ天田船井

/ 郡界トス船井郡大久保ニ下ル
 梅田神社 祭神孝元天皇 右ニ春日大神 左ニ
 重代主神 本社ハニ社造リニテ境内方五十間
 文治五年ノ草創ニテ社地ハ今ノ半ナリシヲ細見
 伊右衛門ノ先祖ガ献地シテ弘ガタルモノ當社ハ
 梅田七社ノ一二居ル友洲ノ春日神社細見ト梅
 田神社高杉ノ春日神社多紀郡草山郷ノ草山神社
 同郡神田郷大茅庄藤坂村ノ梅田神社同郡小原村
 ノ梅田神社ヲ合シテ七社トハ云フナリ 往古ハ
 當社祭禮ノ時他ノ六社ノ神輿當社ハ来リタリト
 云フ今モ菟原中村ノ内ニ松端ト云フ所ノ西ニ多
 紀郡ヨリ神幸道アリテ御幸道ト字ス

日吉神社 稻荷神社
 觀昌山福林寺 天名宗 除地二十步許アリキ
 鹿倉山太平寺 天名宗 外四個寺共廢寺トナレ
 リ
 紀忠通隱栖地 土人誤リテ紀貫之ノ住地トス
 廣谷神社ノ部參者スベシ
 北藏山長福寺 臨濟宗
 大字 友洲 高三百四十八石七斗七勺 民家五
 十七戸 内百八十三石一斗一升四合ハ水野壹岐
 守領 百六十五石五斗八升六合七勺ハ幕府直轄
 代官小堀數馬支配ナリ寛政年度改圓明山古迹六
 段六畝除地同改

梅田神社

多記郡界 民家ノ南ナル川ヲ渡リ三町計行ケバ
 高サ一文許ノ建石アリ右ナルハ天田郡ニシテ左
 ナルハ多記郡ナリ 遠方マデ六町計リ草山谷ハ
 篠山街道ナリ 南方ハ多記天田船井三郡ノ境ヲ
 爲ス 東ニクバルキ峠アリ 船井郡大久保ニ出
 ヲベシ路程半里ナリ
 東北ニアケシホ峠アリ大身ハ一里ニシテ遠スハ
 遷ナレハ篠山大原ノ往來筋トス
 萬燈山 一名城山 明知兵庫頭居住ノ遺跡 新
 萬燈山 其ノ南ニアリ士分ノモノ此所ニ住シタリ
 兵庫頭ノ福知山ニ移居スルヤ皆從ヒ行ケリ具ノ

後空城空師トナル残り住ノル士民ニ二十三石六

斗高ヲ無石トシ免稅免役マケル

明智陣址 東山ニアリ 福智山攻ノ時ニ用ニシ

モノト云フ西山ニ遠見ノ場所跡アリ

昌福寺 曹洞宗

大字 高杉高百六十六石三斗 民戸四十戸 水

野壹岐守領 寛政度改 文久局 古時大杉アリシ

ヲ以テ村名トセリ

春日神社 祭神 武甕槌神 経津主神 外一神

ヲ齋ケリ 郷社トナレリ

壹岐神社 稻荷神社 若宮神社アリ是ハ無格社

ナリ

藥師堂 本尊座像足指六個アルヲ以テ珍トス日
本三昧ノ一ト云フ傳教大師ノ作ト傳ハル 仁王
五尺許 安阿彌ノ作ト云フ

細見村 大字 細見一名細見中出又中手トモ云
フ 細見過 細見奥 千束 蘆洲 草山

菟原村東方ニアリ川合村北方ニアリ上六人部中
六人部ノニ村西方ニアリ而シテ南方ハ氷上郡界
ナリ地位ハ本郡ノ東南部ニ在リ
中央ノ山脈ハ東ニ菟原ノ山脈ヲ扣正西ニ中六人
部ノ山脈ヲ扣ハ南ニ氷上郡ノ山脈ヲ連ネ恰モ山
字形ヲ成シテ北ニ向フ 氷上郡栗原ノ高嶽村内
田窪谷ノ山南方ニ立ツ
道路ハ福知山ト園部間ノ大道アリ氷上柏原ハ赴
クベキ一線路アリ
水路ハ一線氷上ヨリ下り東ニ北ニ屈曲シテ派下

細見村

シ菟原ノ間ヲ穿テ大久保川ニ合ヒ下流土師川トナル

細見村高五百三十八石四斗五合六勺内二百三十

四石一斗五升九合六勺御代官所 三百四石二斗

四升六合綾部藩領 寛政年度改

細見過高三百三十二石二斗一升 民家八十五石

文久三百二十七石九斗八升五合五勺 小見山定

之助知行 文久年度改

八幡神社 八坂神社 稻荷神社 秋葉神社等アリ

老人物語 此ノ所ノ名ハ長谷デアリマシタ御覽

ノ通り隣村ノ菟原下カラ此所ヲ通シテ七十三町

ノ谷間デス此シナ長イ谷デア人家ノアル所ハ外ニ

アリマスマイ御領主ノ代換ハリニハ巡見ガゴガ

リマスガ是非コノ長谷ヲ通行サセマスルノジヤ

殿モ家来モ嫌ヒマスモ忬ナラデス景色モ何シニ

モ無イ所ヲ長キレウ行クノデス故ナラセカ分

カリマセヌガ不自由ナ目ニ合ハス為カモ知レマ

セヌ此シナ所ヲ見セラ人民ノ有様ヲ見セルト云

フ昔ノ仕来リカモ知レマセヌ 領主ノ方デハ谷

中ノ縦貫道ト申シタソデス 領主ト申シテモ

小宮山様デハ無イノデス九鬼様デス是レハ綾部

ノ御大名デス村高ハ両方入り組ミナノデ旗本ノ

方ハ小高デス故ソレハ勢ガゴサリマセヌケレ

ド御年夏ヲ量リマス上納ノニハ一寸モ差別ハレマ
セマ 旗本デハマサカノ時ニハ何シノ役ニモ立
チマセヌガ大名ニナリマスト急度吾々ノ助ケニ
ナリマス 例ヲ云ヘト仰ウシヤルノデスカソ
レハ私ノ小供ノ時ニ大身ノ一揆ガ起リマレタ時
デモ 菟原ノ新 旗本下デハ代官ガアリナカク百姓ヲ
見捨テ、早フ逃ゲマレタ ガ小サウテモ大名ト
ナリマスト違フタモシデ代官ガ下役許多ト所ノ
審人ヲ召シ連レテ領分界ハ出張リマス其ノ注進
ガ届クヤ否ヤ綾部カラ番頭ガ一騎ソノ下ニ士分
十人バカリ足軽五十人バカリ人足モ大分居マシ
タ ソレガ出張シテ弓銃砲銃ノ槍ナド押立テ、

固ノマスノデ 吾々ノ様ナ一揆ニ味方シマセヌ
モノハ安心致シマシタ ケレドモ御用金ヲ割リ
付ケラレマスノハ開口ガレタ
紀ノ貫之ノ配所 紀、出雲守忠通ナルモノ故アリテ
此ノ所ニ配流セラレタルヲ誤リテ貫之トシタル
由ナリ藤原保昌ガ之ヲ訪ヒ来リタル由ヲモ傳フ
左レバ正曆頃ノナラン
段屋敷トテ細川山城守ガ居住地アリ辻ヨリ奥ハ
ノ通ヒ途ニアリ細見山城守トモ云フ
小見山邸址 辻野左衛門ナルモノ此所ニ住シ細
見將監ト戦ヒ辻野敷北ヒ山ノ内莊ニ入り其ノ跡
ハ將監住シタルヲ辻野又之ヲ敗リテ是ノ地ヲ取

町
志

ル將監モ亦山ノ内へ逃レタリトガヤ此ノ邸址ハ
右兩人ノ居住地ニテ山麓ノ谷川ヨリ二町登レバ
大將堰ト云フガアリ要害ヲ構ヘタルモノニヤ
城址アリ細見將監ノ築キ上ケタルモノト思ハル
將監塚アリイマイバト呼ブ具ノ後裔ナルモノ此
ノ地ニ残り住スルガ毎年命日ニ祭祀ス
シロガタマト呼ブ城址ハ細見長助ナルモノ、居
住地ト傳フ馬吟池ト呼ブ一箇四方ノ出水アリ
大字 細見奥 古時奥村ト呼ベル所 寛政度高
二百四十二石七斗八升ニ合一勺 三部落アリ西
ノ谷ニ三十戸田ノ谷ニ四十戸松村ニ三十五戸
コレニ本部落ヲ加ヘテ百五十戸綾部領ト幕府代官

小堀數馬支配所相錯ハル
瓦梅社 字小松ニアリ陰地四十間四方 寛政度山
神八幡天瑞等ノ諸社アリ
顯龍山興雲寺 臨濟宗妙心寺末 本尊聖觀音
本作坐像長五寸 開山ハ四天法舊禪師 開基大
檀越ヲ稻葉淡路守トス墓ハ妙心寺塔中雜花院ニ
アリ山稱ハ其ノ法稱ニ采ル顯龍院殿胸雲乍晴大
居士コレナリ創建ハ寛永四年ニシテ文政年中圓
禪ノ災アリテ同十年ニ再造セラレ郡西國順禮七
番ニ位ス 本尊ハ舊領主タルノ時稻葉淡路守ガ
福知山在城ノ日ニ具ノ持佛堂ノ本尊ヲ移置シタ
ルモノト傳フ一説ニ往昔天台宗ニテ荒廢ニ歸

セルヲ嘆キ金嘉左衛門ナル者之ヲ再建シ改メテ
禪トシタルヲ稻葉氏が其ノ同宗ナルヨリ菩提所
トシタルナリト又一説ニハ稻葉氏除邑<sub>福知山ノ部
出カス</sub>ノ際ニ其ノ家臣ニシテ細見中出ニ住ミタル者カ
主家ノ菩提カ無縁トナルヲ痛ミ己ガ近所ニ一字
ヲ建テ香花ヲ供シタルニ起因スト其ノ家臣ハ兄
弟アリテ同所ニ住ミ其ノ子孫ヲ小字市谷ニ賜セ
リ
此ノ邊リヨリ千束ノ懸ケ東北ニ流ル、地勢ハ細
クシテ急ナルモ林木薪柴具ノ他栗枹茶等ノ産ニ
裕ナリ
大字 細見中出 又中手トモ書ケリ今ハ中出ト

ナル高七十七石五斗六升氏家ハ十五戸 綾部領
寛政年度調査

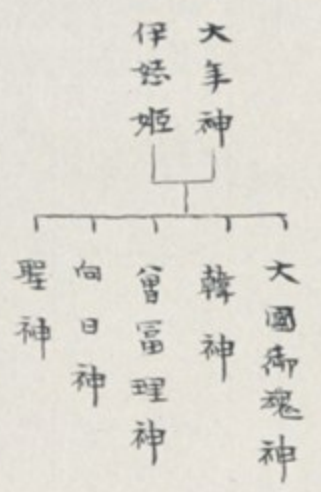
城址 城主樋口某ト云フ年代事歴不詳 河合村
日代ノ殿ニ居住スル樋口ハ其ノ家系ト云フ樋口
對馬守ノ墓ハ殿ニアリ
梅田神社 祭神紀氏ノ祖 大身廣田神社ノ部參
者 境内六殿六畝セ一歩アリテ細見中出ノ境ニア
リ社田九拾刈除地 社地ハ細見中出ニアリテ官
元ハ細見中出ニアリ此ノ社古ハ川合村ノ内梅ヶ原
ニアリシト傳フ今モ同所ニ古宮ト呼バ古址アリ
テ其ノ續地ニ古宮剝ト云フ所アリ其ノ故ヲ以テ
今茲所ヲ梅ヶ原トモ呼バナリ 中古今ノ社ヨリ

半町許西南ナル高地ニ古址アリ茶畑トナル字ヲ
丸山ト云フ北ハ下ル處ニ鳥居坂ト呼ブ地アリ又
細見ナル家アリ此ノ神裔ト傳フ
長澤與右衛門高見勝三郎長澤武右衛門細見幸左
衛等ハ細見谷開墾ノ發起者ナリ 明治四年二月
十日開通詔可アリ綾部藩廳ヨリモ吏員出張シテ
驗查ス
字大坪ヨリ寺ノ段マデ九百九十間ノ起工ハ同ニ
月廿四日同五月通水シ田地トナル水田三町五畝
餘 明治十六年溝渠ヲ増鑿シ字宮ノ上ニ至リ合
セテ壺千二百餘間ノ灌渠ヲ通ジ六町餘段歩ノ養
水トナレリ

大字 千束 寛政ノ調査ニ高百七十一石二斗三
升 民家四十戸 文久百七十八石九斗五升六合
綾部藩領ナリキ
大歳神社 祭神 大年神 祭式 舊曆九月九日
往昔ハ上六人部ノ三俣ノ生野神社ニアリテ此所
ヨリ具ノ祭祀ニ興リシカ感情ノ衝突ヨリ兩村氏
子ノ間ニ分離訖持チ揚ガリ由リテ此ノ神至チ持
歸リテ此ノ地ノ氏神トレ爾後生野神社ノ關係ヲ
断テリ此ノ神主ヲ何故ニ持歸リタルカト問ヘバ
神代ニ於テ穀物ニ奏効セラレタル神ナルヲ以テ
ナリト云フ 大年神ハ大山咋父ノ父君ト云フ
荒船神社 祭神詳ナラズ俗傳ニハ氷上郡黒井城

落去ノ際赤井悪右衛門ノ族赤井某ガ若シ赤井家
 ニシテ再ヨリ世ニ出ルナラシニハ此ノ竹繁茂ス
 之ヲ穀知スル者アリ江戶ニ

復佐之男命
 神 大市姫
 大山津見神女



一説
 大牟神
 香用姫
 御牟神
 大香山戸臣神

一説
 大牟神
 天知迦流美豆姫
 奥津日子神
 奥津姫神
 大山咋神
 一名大戸姫神

庭津日神
 阿須波神
 波比波神
 香山戸臣神
 香山戸神
 庭高津日神
 大土神

アル赤井某小祠ヲ作ラセテ江戸ヨリ多紀郡氷上
 郡等先祖ノ関係地ニ送り彼所此所ヲ歴テ此ノ地
 ニ到リ終ニ祭リテ神トシタルナリト赤井家亡滅
 レテ其ノ裔ナル某ガ江戸ニ入り旗下士トナレリ
 ト云ハバ或ハ某ガ送りタル社祠ニヤ
 薬師堂ヤ十二所権現堂ナドアリ 湯奥山温泉寺
 ノ故址アリ 湯ノ奥トカ風呂ノ上ナドノ地名ヲ
 存スレバ其所ニ薬師ヲ奉置セシナラン
 故老話ハ、千束ト云フ名ガ不思議デスノカハ
 、其ノ謂ハレヲ申シタテ御笑草ニナル計リデ
 スハ、ソノ御聞キデスナラ申シマレヨ
 一エ
 一ン昔ハ不自由ナモテ此ノ界隈ニハ此所ヨリ

丹波志

外ニ鍛冶屋カ無カツタノデ萩原村カラ此ノ鍛冶
屋ハ又物ヲ多ク訛ヘテ作ラセタノニ金錢ノ廻ハ
リノ悪イ時分ノトトテ具ノ又物代ガ掛ヘヌノデ
萩原ノ萩ヲ斫リ取ラセタ然ルニ其ノ萩ヲ思フ儘
刈リ取り積ミ立テタルヲ數ヘタラキ束モアワタ
ト云フノデ其ノ積ミ立テタル所ヲ千束々々ト呼
ビ習ハセタルノジヤゲナハ……ナンデモ千束橋
ト云フテ名所ニナワタ橋ガアツタ苦デスセハ
イ其ノ源デスカ永上郡ノ戸平山ノ中カラ出テ草
山ト云フ川ニナリ寺尾ヲ良ノ方ニ見テ流レテ来
ルソレガ蘆洲ヘ出テ大川ト一ツニナルノデス
今カラ二百年計リ前ノトデナンデモ真享ト云

フ時代ニイヤ二百年ヨリ餘程前デス哩私ノ
小供ノ時ニ二百年前ト隔イタノデス年取ルト矢
ツ張小供ノ時ニ立々返ルト云フガハ……二百四
五十年前デスナ——此所ノ百姓次郎吉ト云フモ
ノガ御年貢カ高イト云フノデ領主ハ高減ラシラ
願ニ出タカ聞キ届ケラレヌノデ己レ祭頭人トナリ
多クノ百姓ヲ集メテ強訴シタルガナンノ百姓
ガ地頭ニ勝テマシヨ——昔カラ泣ク子ト地頭ニ
ハ勝タレヌト申ス通り捕ヘラレテ牢ニ入り追放
ノ咎ニセラレタソ——デス其ノ強訴スル時水帳ヲ
持ツテ出テソレガ如何ニナワタカ知レマセナン
カ其所テ其ノ年カテ年貢ノ納メ方ヤ村高ヤ田

地ヤ村入費ノ下ナド スツバリ知レ又極ニナリ
 マレタガ幸ニモ萬吉ト云フモノガ其ノ以前ノ下
 マデ善ク覺エテ耳ルノデ漸クソレニ聞キ取ツテ
 村ノ帳面ヲ作ツタト申ヒマス其ノ功ヲ萬吉が庄
 屋トナルベキニ若年ナノデ細見中出ノ方カラ出
 作シテ耳ル次太夫コレヲ務メ萬吉成長ノ後ニ役
 ヲ襲ツタノデ年寄役トナリ五十七年モ役ヲ勉メ
 タト聞キマス エライ男ニ違ヒアリマセマ
 大字 草山 小字 寺尾 尾篠 杭谷 寛政度高
 四百八石四斗一升 文久四百八石六斗七升 氏
 家百九戸 内草山五十七戸 寺尾五十二戸 綾部
 藩領 草山一名千草山ノ多紀郡ノ草山村ト混

同シ易キヲ以テ千草山ト稱ヒテ區別シ易クシタ
 ルトモアリタリ元來氷上郡ヨリノ開拓地ニシテ
 人ハ皆ソノ出ルヨリ兩屬ノ姿ナルヨリ山論
 モ起コリ訴訟トナリ京都町奉行所ノ裁決ニテ氷
 上ニ屬スベク定メラル氷上ノ戸平マデ一里半許
 ノ谷續キニテ加茂郷トハ一山ヲ間ツ
 三柱神社 祭神 興津彦神 興津姫神 火結神
 二百年前草山天神社内ヨリ移シ祭ル初ハ蘆刈ノ
 束モコノ氏子ナリシ
 長溪山久松寺 天台宗 氷上郡神池寺末 開山
 福泉法印 慶長二年創建 再建慶應元年 本尊
 阿彌陀如來

觀音堂 本尊觀世音 開基 岩見藤左衛門 郡
西國巡禮六番札所

いこう、系々々々切の道々々々々引法。尾寺たうねん

藥長山寺尾寺ノ址 寺尾ニアリ 温泉地アリ湯

谷ト云フ今ハ井谷ト云フ

菩提寺ノ址 西條ヨリ西成ノ方ナル小谷ノ所ニ

アリ 菩提樹ヲ植エ寺碑トシタル其ノ遺蹟今尚

存スト云フ

中嶋 高百七石 民家四十七戸 綾部藩領ト小

堀敷馬支配ト相交ル

大字 蘆刈 高二百二十五石七斗二升文久三升

民家九十五戸 綾部藩領 寛政調査

小字 タコマ 生野神社ノ祭式ニ臨ムノ古式ア

リテ今ニ流鏑馬田ノ字ヲ存ス當所ノモノガ弓馬

式ヲ行フタルモノト由

壬午神社 祭神若年神 此ノ神ハ素盞雄尊ノ御

子ニシテ五穀ヲ作ラセ玉フ大年神ト唱ヘ奉ル文

字ニ於テハ大歳トモ書ク此ノ壬午モ亦同レ千束

ノ大年神社ニ出ケス

稻荷社

夢窓山廣雲寺 臨濟宗妙心寺末 本尊釋迦如來

開基 回天和尙 興雲寺ヲ退隱シテ此所ニ住シ

稻葉氏ノ家老黒川吉之助寄附ノ併ラ以テ本尊ト

シ祭リ遂ニ一字ノ寺トナレリ

川合村

川合村	大字	上河合	下河合	加用	臺頭
大原	坪				
郡ノ東部僻阪ニアリ南北三里餘ニ涉リ東西二里ニ亘ルノ山間ニアリテ川合谷ノ六大字ヲ含ム寛政度改高六大字ナル舊六村ヲ合セ千五百三十四石四斗ニシテ綾部藩領ナリシ明治初年人家四百五戸四十二年ニ至リ増シテ五百四十一戸人口二千九百六十一人而シテ貧民稀ナリ					
七山峠	何鹿郡界ヨリ来リテ村内ニ延キ之ニ並				
ベル一山系亦同郡ヨリ来リ南下シ西面上六人部					
村ヲ限ル					
里程	大原ヨリ綾部ハ二里十町	槍山ハ三里			

町 史 志

生野、ニ里餘 村内大字下河合、五十一町 同
川字奥山マデ五十町 村内ヲ貫穿スル路程ニシ
テ此ノ如ク百町ニ餘レリ 東南ニ郡界アリテ向
テヲ船井郡トス
此ノ邊一帶天正年中断絶セントスル苦境ニ陥リ
シヲ岬村ヨリ再興シテ漸次ニ戸數モ増スニ至レ
リ其ノ原因ハ詳ナラガレドモ想フニ遊惰ノ感染
セシニヤアラシ古ハ時々其レガ爲ニ亡村トナル
トアレバナリ故ニ古キ水帳ニ岬村ヨリ出戸シテ
川合谷六ヶ村トナレリトノ記事アリ岬ノ樋口家
ニ其ノ古帳ヲ藏セリ寺モ常樂寺ト云フカ一ツア
リレノミナルヲ村々ニ建テルトナレリトカヤ

川合ノ名稱 水源ノ船井郡石津川ノ山ヨリスル
モノト蛇ガ谷ヨリスルモノト大原神社ノ傍ニテ
相會スルニ取レリ具ノ下流ハ西下ニ壺頭ニテ諸
流ヲ合セ菟原ニテ大川ニ入ル
大字 大原 寛政度 民家九十七戸
大原ノ地形ハ狹窄シ役谷ニ人家三々此ノ溪ニ五
々ト云フ位ニ散居シ陋屋卑舍ノミ僅少ノ平面ア
レバ山側溪傍耕耘セザルハ莫シ蔬菜楡樹栗樹栲
樹ヲ裁上薬蕨玉ヲ製出ス 山葵ノ味佳シ辛味度
ニ適シ大原山葵ノ名四方ニ傳ハル他地方及ブモ
ノ少シト云フ價格百目金十二錢四十二年一谷ノ産
額金五拾圓ヨリニ三百圓ニ至ル一家ニシテ數谷

京都府立総合資料館所蔵

有ヲモノ具ノ富無盡ナリ八月分根シ谷底鼻濕
 ノ地ニ移植シ置ケバ自然蕃殖ス耕耨除草施肥ヲ
 要セズレテ此ノ巨利ヲ占ム山間ノ好經濟ナリ
 鳥居前人家一町軒ヲ並 巡查汎出所 郵便局
 社務所 旅舎 小商店アリ 上田地價五十圓
 三宮神社ニ違スル路程五十町險惡ナリ生野ニ至
 ルノ間大部分此ノ村地域ナリ 大原臺頭ノ間半
 里
 大原神社 村社ノ資格氏子百二十戸氏子ノ者銚
 ト鱒トヲ喰ハズ又赤牛ヲ飼ハズ
 伊弉册尊ヲ主神トシ左ニ天照大神ヲ右ニ月讀尊
 ヲ祭ル

末社 水門明神天兒屋根命同殿十二所神宮ハ天
 神七代地神五代ヲ合祀ス 日社一名火神 軒邊
 突知命 飛龍峰大明神 銚カ化シテ神トナレル
 モノト云フ 大河大神ハ罔象女命
 恒例神事 舊曆正月二十八日朝戸開神事 三月
 廿三日 明神遷座ノ正日トシテ神輿ヲ出ダス
 六月十日 初夏ノ神事ト云フテ一村ノ祭日トス
 九月廿八日 直指ノ最初ニヨリ神輿ヲ出ダス 四十
 二年ヨリ廿三日トナル
 舊境内三町二段一畝廿三步現今一町七段一畝一
 步 實測一町五段廿二步
 縁起ノ一節ニ云フ寶祚長久五穀能成萬民豊饒ヲ

町 史 志

守護レ玉ヲ神ニシテ萬物生育ノ神ナリ又婦人ニ
對シ安産ノ神タリ此ノ地古来難産ノモノ無シ他
村他國ノ婦女ノ羨ム所タリ社地ノ沙ヲ子安ノ沙
ト呼ビ參詣者持歸リ之ヲ家ニ祀ル 舊領主代々
尊崇シ邑祖助カセリ

文徳天皇ノ仁壽二年三月二十三日當國ハ北粟田
郡野々村ノ檜原ニ鎮座アリ後宇多天皇ノ弘安二
年九月二十八日當所ニ轉座奉齋ス後小松天皇ノ
應永四年十月十三日社殿造營アリ本社舞殿拜殿
鳥居ヲ建テ下馬牌ヲ設ク鳥居ノ扁額ハ天一位大
原大明神トアリテ異例ヲ示セリ小野道風ノ書境
致爲云築造宏壯彫刻巧緻社殿ト拜殿ト接續シ横

六間竪コレニ倍ス 御供田高三石領主綾部侯ノ
寄附ナリキ

祭式ハ檜原ヨリ来ル神官ニ由リ行ハル 境外ノ
水門社ハ賽者が身體ヲ清潔ニスベキ所トス水板
ニテ本社ニ詣賽スレバ願望成就ストカヤ 繪馬
殿ノ額中波浪若本有舊筆七福神ノ圖海北友賢門
人友仙窟似中筆鐘武者ノ圖福富七兵衛筆佐々木
高綱字沼川騎渡ノ圖ナドアリ
社外東南西道路周匝ニ北方一帶山勢重聳ス流泉
道路ニ沿フテ涼々タリ東方ノ一橋ヲ京橋ト呼ブ
俗説ニ云フ明神ハ使ハシメハ狼ナリ故ヲ以テ猪
鹿恐レテ来ラズ狐狸逃ゲテ近ヅカズ田園爲メニ

荒サレズ野菜田穀年々稔ノル是ヲ以テ山頂ニ畑
アリ溪傍ニ田アリ人民農耕ヲ樂ムト然リト至著
者晩秋ノ夜銃聲ヲ旅窓ノ下ニ聞キタルト一再ナ
ラザリシ

大原問答

私ハ嘗御社へ参詣致シタル者デムリマスガ初メ
テノトニテ一向何モ知レマセヌ故兼リタウ存ジ
テ昨夜宿ノ主ハ尋ネマシタレバ若ノ御内へ参ル
ガ可イトノトデアリマシタ故罷リ出マシタ成ル
ベクハ暫時御話シラ願ヒトウムリマスハ一宿
屋ノ主トハ播磨屋デスノカ角屋デスノカ宜シウ
ムリマス此ノ老人ガ知リテ申マス文ハ申シ上ゲ

マスマ一服召レ上ガルガ宜シ
抑々此ノ御社ハ外々ノモノト違ヒ物體無クモ神
代ノ御方様ヲ御齋キ申上ゲタル所ニテ別シテ農
家ニ取りテハ崇ノ奉ラネバナラヌ五穀守護ノ神
デムル式内デ古ノ酒治志神社ト申スハ是ジヤソ
一デムリマス式内ノ神社ハ外々ハ知リマセヌガ
丹波ニテハ一ニテ除クノ外大抵衰へサセテレマ
スルノニ此ノ御社ハ盛ニ社ナレ衰へルト申ス
トハムリマセヌ彼ノ應仁ノ乱ニハ其ノ弊ヲ受ケ
サセラレマシタ様デスガ直様此ノ様ニ成リマシ
テ諸人ノ参詣相替ラズ盛ンデムリマス一撮ノ砂
ヲ載イテ歸ツテ之ヲ田ニ播ク文デ實ノリガ可イ

ノデスレ婦人ノ産ヲ安フスルト云フ利目ガアリ
マスレ信仰次第ニテ何ニデモ御利益ガ戴ケマス
ルトハ何ント結構デハムリマセスカ舊曆デ三月
廿三日ト八月廿三日ニハ昔カラ盛大ナル神祭ノ
式ガアリマシテ諸國カラ集ヒ来ル人ハ中々デア
リマシタ今デモ十月十五日ニハ郡長ガ奉幣使ヲ
勤ノラレマス是ハ古采御救使ガ立ツタ故今デモ
幣帛ヲ朝廷カラ奉納アラセラレマスノジヤ何分
昔カラ産婦ヲ護リ下サル、ノデ當所ハ難産ノ者
ハ皆無ナノデス イヤナニ信仰ガ厚イ故安産ス
ルノ参詣ヲ怠ル故難産スルト云フデハ無イ此
ノ土地ニ居ルモノハ皆安産シマスノジヤソレデ

近村カラハ此ノ地へ嫁入サセタイトテ女子ヲ持
ワラサル親々ハ内々手蔓ヲ求メテ言ヒ入レマス
昔ハ産ヲスルノニ家ノ外デサセタイト申シマス
イヤナシノ物入小屋トカ肥料小屋ナドヲシアラ
フテバス 左様産ヲ守ワテ下サル神サシニ遠慮
スルト云フテハテト釣合ハヌ様デスガ左様シタ
ト申シマス 之ヲ御覽ナサレト云フテ取り出シ
示サレタハ嬉笑遊覧ニテ左ノ文句ノ處デアツタ
大原ハ丹波ニありあゝみ崇めまゝ神を大原右近と
申て利益ありまゝあはれまつてまゝ神子昔ハ御進あり
まゝあやや乃ちあること云ふハ京乃くはまゝ
人のまゝとき時ふありまゝ女ハ冷をみれば一花のうまを

丹波

うらふ事なる男終をあはするち致の御子もあはつて一風ある
コシナ様デ諸国村々ハ甲スニ及バズ都ニマデ参
リテ勸進ニタモト見ハマス御一新マデハ領主
ノ綾部様カラ御手ガ入りマシテ御社ニハ何一ツ
不自由ハアリマセナンダソ一テス祭禮ニマデ
奉行衆カラ世話ガアリマシテ正月ニハ新シイ御
札ヲ召サレマシテ所々ハ御張リナサレマシタノ
デスヘー御使ハシメデスカソレハ狼デス其ノ
狼ハ害ヲスル所デハムリマセマ田畑ノ害ヲスル
悪獸ヲ取り除イテ呉レマシタノデス近頃デス
カ近來ハソシナナラ餘リ申シマセマソレデハ

是カラ御参詣ナサリマスカアノ水門社ハ先ノ御
参拜ナサリマセ身淨メノ爲ニナリマス左様ナ
ラ
大原問答 下 前問答後數年再探ノ時ノ分ニテ
前段ト多少ノ相違アリ 御神體ハ古代ノ老人ガ
束髮ノ如クニシテ冠ナク馬ニ騎ル所而シテ馬ノ
前ニ足ヲ折リ肩メ後足ニテ立ツ所 木像ニテ名
作 衣服モ古代ノ常服ニ似タリニ尺位 今ハ神
庫ニ在リ
額面アリ天一大原大明神トアリ竪三尺横一尺道
風ノ書ト言ニ傳アレドモ當社ノ起原ヨリ先ノ人
ナレバ年代合ハズ書體ハ隷格ナリ繪馬モ見ルベ

丹波志

キモノ六セアリ 産婦ノ話ハ社下四戸丈ハ圖中
産舎ノ行キ産ム其ノ他ハ自家ノ庭又ハ小屋ニテ
産ム難産ハ古来是レ無シ故産醫モナケレバ産婆
モ無シ 參詣人ハ古ニ比スレバ三分ノ一モ無シ
昔ハ此ノ御札ニテ虫害ヲ防ギシモ今ハ驅除方ニ
依リテ虫害ヲ去ルヲ以テ自然神助ヲ假ラガルト
トハナレリ
或ル人ノ話ニ小野道風ハ延喜朝ノ人ナリ延喜以
前ニ一位ヲ授ケラレタル神社ハ數ハテ知ルベシ
サレバ正從ヲ誤リテ天トセシニモ非ズ又一位ヲ
授ケラレシ神社ノ名ハ神名帳ニ載セラレサルニ
キニ非ズ役是ヲ考ヘ合セバ其ノ誣妄ナルヲ論ヲ

待タズ之ヲ北村継元ノ説ト云フ前示鳥居ノ額參
者ノ下
當社ニハ王子ノ辨ト云フアリ社家相傳ノ神秘
ナルヲ以テ縁起ニモ載セズト云フ
俗傳ニ當社ノ山ヲ鮭魚數千年前ヨリ鎮セリ大神
遷座ノ時ニ天兒屋命宮地ヲ尋ネ巡リ此ノ山麓ヲ
流ル、水門ノ瀨ニ留マリテ眺メ玉フ時水底ヨリ
鮭魚浮ビ出デ、申ヌヤウ吾レ此ノ水底ニ住ミテ
此ノ山ヲ守ルコト數千年此ノ山嶺ニ白和帶青和
帶アリテ常ニ光ヲ放ツ實ニ天神ノ鎮マリ玉フニ
キ靈地ナリト又河水清淨ニシテ不滓ヲ濯ガコト
上ノ瀨下ノ瀨ノ如ク相合フ故ニ此ノ所ヲ河合ト云フ

京都府立総合資料館所蔵

云々サレバ此ノ地ニ悪事アレバ此ノ刹ニ鱈現レ
不淨アレバ鱈浮ビ出グ是レ自然ノ事ナリ鱈ハ末
社ニ祀リ飛龍崎明神ト云フ氏子カ鱈鱈ヲ喰ハヌ
ハ此ノ故トゾ

大原神社五穀豊饒守護

大原大御神

蝗虫 昆虫 除守 函玉

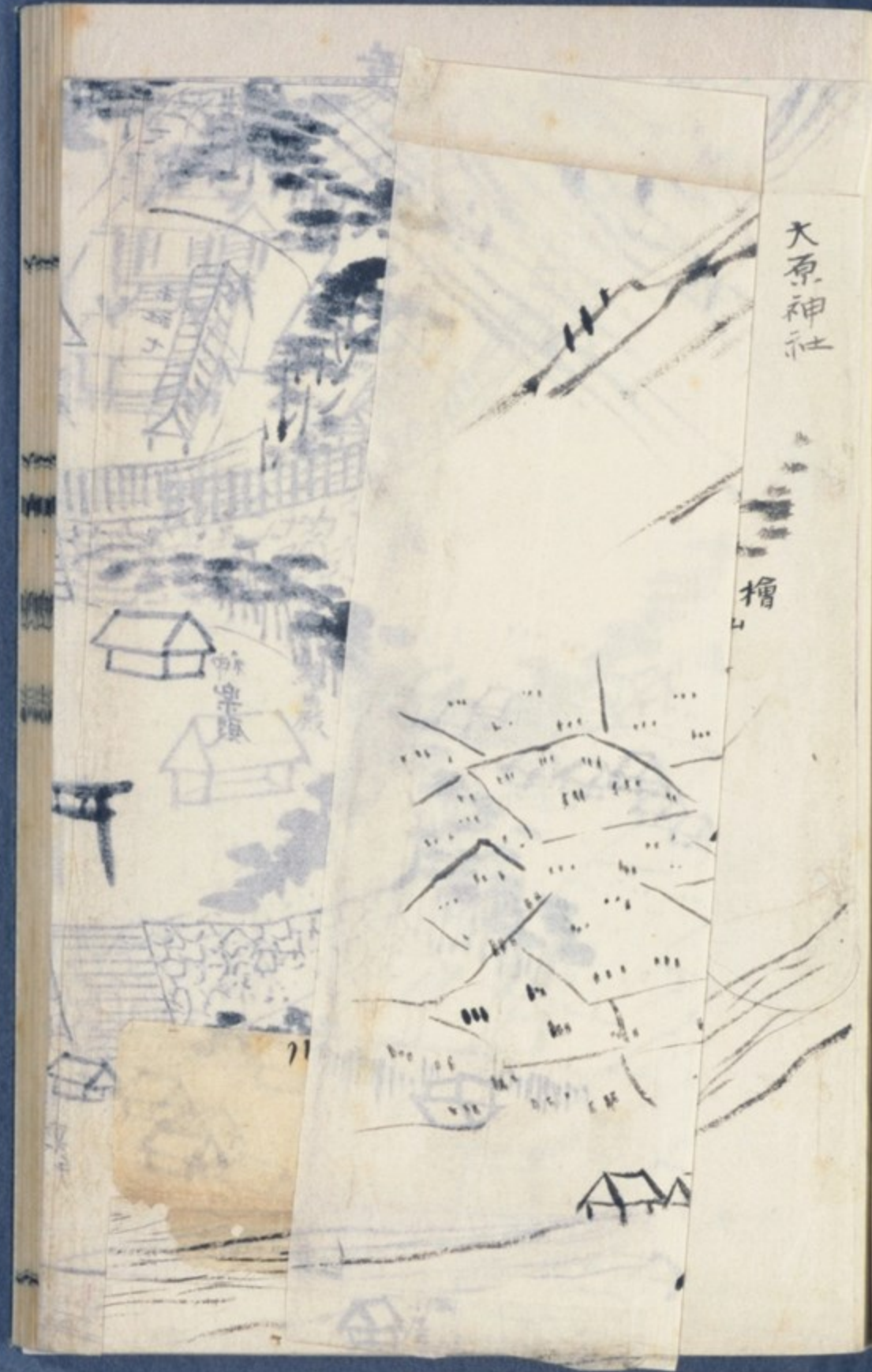
大原

大神



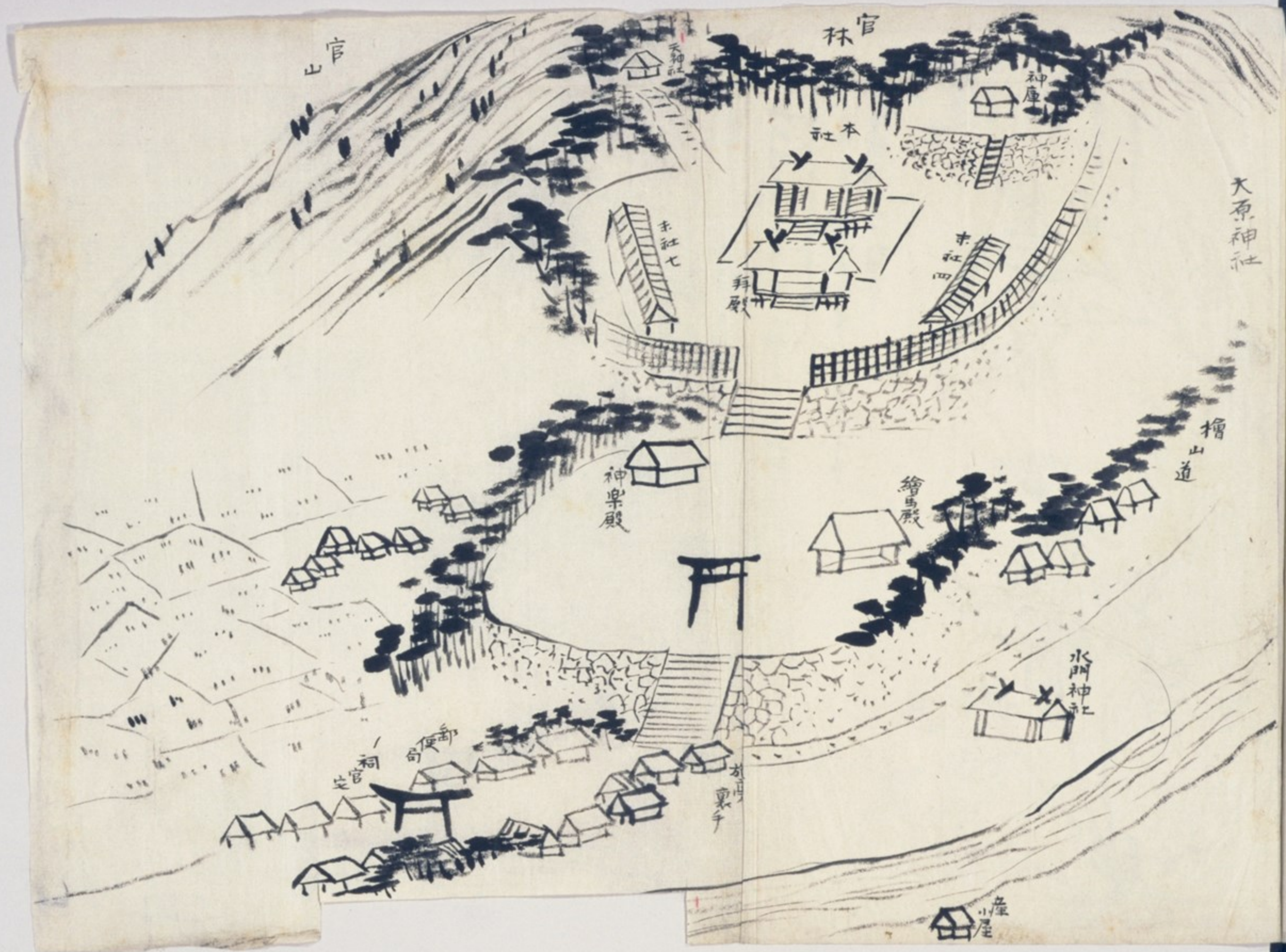
出城ノ跡 小字 日向ニアリ山頂ナリ其ノ麓ニ
 カミツボネシモツボネノ屋敷ト云フ址アリ出城
 ノ土居ノ高ヤ二間許大土居東西三十間南北一
 木形ニ又十五間許アリ兩方平地ナリ 經ケ端
 堂ガ市山 不立ノ城 岬 等ニモ之レアリ 堂
 ガ市山ノ西方ナル谷ヲ今殿ノ奥ト云フ此所ニ基
 地アリ子孫五戸アリ右ノ寨ニハ樋口次郎光盛樋
 口加賀樋口左近樋口對馬守等入レ置カレタリト
 云フ
 天正ノ頃カトヨ今ノ上六人部村トナレル大字三
 俣ノ浅木山ノ城主八木備前守ハ何鹿郡ニ攻メ入
 リ山家城ヲ圍メルニ一夜大雨降り出セシカバ其

丹波志



所此處ノ御士共山家城主谷氏ニ和舞シ八木方ハ
 夜討ヲ爲サレト先ヅ忍術ニ長ジタルモノヲ入
 レ弓絃ヲ絶テ錢砲ニハ水ヲ入レ置キシ故防グベ
 キ様モナク一戦ニ敗北シ大原ノ北ナル三郡ガ嶽
 マデ引キ討死ス
 小字・岬 九神々社
 全 全 滋谷神社 祭禮 舊式九月節句 土
 佐坊ノ靈ヲ祭ル
 岬ハウリト訓スル字ニシテ各詮自稱トヤ云ハン
 山路ノ屈曲上下スルヲウリト謂フテ可ナリ之ヲ
 氏トスル家アリ 寛政度改四十七戸アリキ
 光熙山常樂寺 曹洞宗 船井郡胡麻郷村龍澤寺

京都府立総合資料館所蔵



氏トスル家アリ 寛政度改四十七戸アリキ
 光熙山常樂寺 曹洞宗 船井郡胡麻郷村龍澤寺

京都府立総合資料館所蔵



山路、屈曲上下スルヲ由リト謂フテ可ナリ之ヲ
 氏トスル家アリ 寛政度改四十七戸アリキ
 光熙山常樂寺 曹洞宗 船井郡胡麻郷村龍澤寺

京都府立総合資料館所蔵

黄連

四時調天正二月花ヲ開キ瓣アリテ内ニ又細瓣アリ
 黄連葉ナリ白花モト多シ後ニ英ヲ結ブ
 花後ニ新芽ヲ結ビ大根黄色母根アリテ味苦シ
 漢醫ニ此ノ苦味ヲ利用スルアリ

大葉ノモノアリ
 長葉ノモノアリ

四時調天



ス身ヲ小作ヨリ起シ村内有数人名中ノモノトナ
 レリ此ノ地ハ元来黄連ノ産盛シナリニガ前年数
 度ノ出水ニ其ノ程ヲ失ヒ利源ヲ杜塞ニタルニ今
 ハ却テ之ニ代フルヨリ以上ノ利途ヲ楮ニ得タリ

四時開天正二月花ヲ開キ其瓣アリテ内ニ又細瓣アリ
 黄蕊朱リ白花モ多シ後ニ英ヲ結ブ
 化後ニ新芽ヲ結ビ大根黄色母根ヲクテ其味多シ味苦ト
 漢醫ニ其苦味ヲ利用スルヲ

黄連



大和郡龍仁山
 長生寺

末 本尊聖觀音 開山龍礼和尚 創建正保三丙
 成年 一説京西天龍寺ホニテ彦密國師開山足利
 尊氏建立ト常樂寺址トシテ阿彌陀堂一箇ヲ存ス
 樋口加賀守願主タリト云フ
 除地高一石八斗五升
 楮ハ當村ノ一大富源ナリハ右衛門氏早クヨリ着
 眼シ山間ニ裁エテ大利ヲ得タリ今ハ其ノ息子ナ
 ルカ箕裘ノ業トシテ數十名ヲ使役シテ之ニ従事
 ス身ヲ小作ヨリ起シ村内有數人名中ノモノトナ
 レリ此ノ地ハ元來黄連ノ産盛シナリニカ前年數
 度ノ出水ニ其ノ種ヲ失ヒ利源ヲ杜塞シタルニ今
 ハ却テ之ニ代フルヨリ以上ノ利途ヲ楮ニ得タリ

又稜糶ヲ産出ス黄連ハ黄色苦味ノ根アリテ漢藥ニ供セラレタルガ漢藥ノ勢力ヲ失フヨリ之ヲ漆料トシ稍々具ノ勢價ヲ挽回セリ然レ氏紙原ノ有利ナルニハ及ハズ

慈眼山珍釋寺 晉洞宗 本尊聖觀音 開山龍礼和尚 創建正保元寅年 弘化四年燒失嘉永三年再建 藥師堂本尊三尺一寸二分淳和天皇即位四年諸國疫病流行ス役ノ行者之ヲ鎮メントテ三刀三禮ノ式ヲ以テ日本國中ニ十二鉢ノ藥師像ヲ彫刻配置シタリ此レ具ノ一ト云フ此ノ地ノ舊名ヲ迎ハ村ト呼ベルハ村民舉リテ之ヲ迎ハタレバナリ大原神社勸進以來大原トナリテ彼ノ名ハ廢タ

ル堂ハ大原神社境内ニアリタルヲ今ノ地ニ移セ
ルナリ

大字 下河合 寛政改八十二戸 大原、五十所
馬谷神社 土佐坊昌俊使用ノ馬ヲ祭ル土佐坊死
後其ノ馬ガ祟リタルヨリ祭リテ馬ノ魂ヲ鎮メタ
リト云フ 燕谷神社ノ記事及ビ上河合箱葉ノ記事
ヲ看ヨ 祭式童陽節句

岩神々社 箱荷神社 金神々社 進雄神社アリ

安昌山心福寺 晉洞宗 本尊地藏 開基孤嶽柱
峻寛文中ノ人 再建元治元年

大字 臺頭 六十戸 寛政改 京都元標 十八里
七町五十二間二分

丹波
志

雁掛神社 祭神牛頭天王 須知峠ハ天田何鹿ノ

郡界ニシテ綾部街道ナリ

大塔山蓮華寺自性院 真言宗 本尊十一面觀世

音座像七尺 行基ノ作ト云フ開基濟道仙人 延

喜年間草創再建元和年間現今ノモノハ安政年間

轉地移住シタルナリ

大字 上河合 寛政度八十戸 文久高千五百三

十四石 綾部領

稻荷神社 山神社 武口神社アリ

小字稻葉ノ長左衛門ハ土佐坊ノ槍刀ヲ藏ス土佐

坊ト曰ベハ堀川ノ館夜討ノ昌俊ナラシノ想像ア

ラシモ彼レカ此ノ處ニ於ケル縁由ナカラシ敵山

法師カ山伏ノ類ナラメ

大字 加用 寛政度改 三十戸

勝田神社 祭禮舊曆九月九日

丹波 論

上六人部村

上六人部村 大字 岩崎 池田 三俣 堀越
 極室 正後寺 生野 上野 萩原
 此ノ村ハ本郡ノ東部ニ在リテ東方ニハ河合村細
 見村アリ西南ニ中六人部村アリ西方ニ下六人部
 村アリ北方ヨリ長方形ヲ以テ降り下半部ニ至リ
 テ少シク膨脹シ最下部ハ角度ヲ成シテ細見中六
 人部ニ村ニ突入ス而シテ北方ハ何鹿郡綾部ニ接
 ス生野川流レテ村中ヲ横断ス此ノ川系ハ源ヲ舩
 井郡ト氷上郡トニ發シテ下リ福知川ニ向テモノ
 トス此方ニ於テ下六人部村ト相接スル角尖ノ地
 ニ舟山アリ山系延キテ村内ニ蛇塚ス道路三又シ
 綾部ニ園部ニ福知山ニ向テ分カル山陰道線ニ

丹波志

丹波志

一 丹波 誌
 一 廣し長し福知山へ二里せ六町
 大字 生野 古名生野ノ庄 寛政度高三十五石六
 斗五升 文久同 民家四十戸 綾部藩領ナリキ
 明治初年ニハ三俣村 本村 上安場 平石 下
 村ヲ合セ高五百八十七石六斗七升トス 民家合百
 四十戸アリテ同領ナリ 當時平石ニハ廿二戸アリ
 其ノ内ノ藤谷ニ四戸アリ 上安場ニ十戸アリ
 古来北方有名ノ所トシテ區域モ廣ク今ノ三俣池
 田堀越上野攻室正後寺萩原ヲモ合ハセ緝ヘテ歌
 ニモ咏マレ人口ニモ膾炙セラレタリ 郵便局
 小學校 警察分署 旅人宿 諸商店アリテ四町
 計ノ街衢ヲ爲シ廓舗相錯ハリ近村ノ需要ヲ充テ

上六人部村

シツ、アリ具ノ西側ヲ上野村ノ出戸トシ東側ヲ
 萩原ノ出戸トス土地ハ比較上平面ニシテ耕作ニ
 適ス然ルニ古来村高ノ僅々三十餘石ナルハ當時
 田少ク畑多キニ由ル貞享三年新開地ノ一ニヨリ
 千束村ヨリ強訴シテ祭頭人数名追放ノ罰ニ處セ
 ラレ具ノ者等ノ納租出来ガルヲ以テ生野ヨリ田
 地一作分ノ償納ヲ爲シタルガ故領主コレヲ賞シ
 上野村ノ地ト萩原村トノ地ニ於ケル開墾高二十
 五石六斗ヲ無役ニテ給與セラレタリ 慶安三年
 檢地アリシ時生野ニ山林ナキヲ以テ萩原上野ノ
 山林ニ采撫伐木上ノ公事アリ其ノ判決ニ毎月一
 日ヨリ十五日マデハ萩原ノ山林ハ入込ニ十六日

ヨリ月中ハ上野村ノ山林ハ入込ムビントテ定マ
 ル 古来町並正シク西側トモ毎戸表ヨリ裏ハ奥
 行ニ十五間ト定マル 此部落ニハ所有財産無キ
 ヲ以テ末文ニ示セル統一圈内ニ入ルヲ得ズ
 和泉式部保昌ニ具して丹後國ニ侍リける比都ニ
 歌合(歌ノ勝負スル會)有けりニ小式部(和泉式部ノ
 女乃内侍(女官ノ名ニテ小式部ノ官名)うらみみ
 とられて侍りけるを中納言定頼局(女官ノ居ル所)
 乃方へまゐてあそび歌ハいふ、せうせたまふ丹後
 ハハ人造モ一けんや(母親ノ許へ歌直シニ遣ハセ
 シヤノ意)使ハまゐて來むやいふ心もとあふた
 けすらんと戯以て言ひけりを引とりて

小式部内侍

大江いこの道乃遠ざれむさふみと云はるたて

と咏ミ出でけりみそ空頼の卿もまろひニ帝る
 其ノ歌ノ旨趣ニ丹後ハ大江山ト云フ大キナ山ヤ
 イクノト云フ廣キ野ヲ過ギテ行ク遠方ノ故
 カノ國ハ行キマシタカラハマダ一度ノ文モ見マ
 セヌトナリ マダ踏シテ見タコトナキトマダ文
 モミズトヨソヘテ咏ミタルナリ古来名歌トシテ
 人口ニ贈答スルゾむナレ

刑部卿範兼

大江いこの道乃遠ざれむさふみと云はるたて

小侍後

上六人部村

駒あきて生野乃其の人里よとゆけりやるしるらん

無名 夫木集

丹波駒の大沼乃山のむらうちたご心の我里をくろくみ
誰もふかあふぬ名あはれは山原といふの方をきりあて

田 名不方自抄

里をといふの未を足さるるみよみよ久末をのい田成

西園寺入道

くれぬてくれとせうとやうとらんまの未を遊人のあき

丹波駒は侍りける時お徳とひさる女のととよみ又人の

とのまいたるゆかりてきしけり

よみ部とくし 夫木

まももやんらうとて癒えよんまの里乃夏引のいと

丹波焼 一名煎餅焼ハ

古丹波ニテ上作ヲ

興五郎ト呼ブ

是モ上々作品

ナリ松平出羽守

ノ弟松平三助ノ

所有トテ維新前

茶人仲間ニ寶玉視セラレタルモノ 銘ヲ生野ト

云フ産地ヲ以テ呼バレタリト傳フ 高三寸四厘

胴一寸九分五厘 口九分 底一寸 蓋一文字

撮椎形 此ノ茶壺ニ添フ所ノ僧江月ノ書ニ曰

上六人壽村



生野小臺初お見屋上之漸考文字 女伸子
法原芳茶生野急住名後古之由及以之は謂野矣
口直從後考尋再我

社地ヨリ世間許前一一段高キ所アリ古鳥居ノア
リ址ニテ石場ナド残レリ

同所ヨリ西へ六十間許ノ畠ニ二間ノ塚アリ古ノ
旅所

此ノ社古ハ山上ニアリシヲ中古今ノ所ニ移シタ
リ山上ニアリシ頃ハ往来ノ武士ニ崇リアリキ今

モ旅立スルモノ參詣ス道中守護ノ爲ト云フ三月
ニハ太々神樂ノ奉納アリ

式内 生野神社 祭神 天鈿女命

上六人部村

案内者ハ其ノ村ノ故老ニシテ昔ハ其ノ地ノ由緒
アルモノ今ハ落魄シ息子ハ記者ノ車ヲ引キ諸所
ヲ廻ハル 故老曰ハク去来御案内仕リマシヨウ
私モ役場へ出テ居リマシタ時ニ此ノ神社ノ調査
ニ從事致シマシテ其ノ時ノ神官カラ聞取り書取
リマシタガ此ノ二冊ノ書類ヲゴザリマス 是ガ
生野神社ヲ此ノ西北一面ヲ包ンデアリマス森ガ
袂ノ森ヲ昔ハ何故カ勝地テアツタト記シテアリ
マス今ハ天神ノ宮ガアルガケテ森ハ廣サガ十町
餘歩ヨリアリマセヌガ昔ハ生野神社ノ社地ヲア
ツタトゴザリマス今ハ森ノ中ニ此ノ天神ノ宮ア
ルバカリテスガ御覽ノ通り五抱以上ノ木カ澤山

生野神社

ガガリマス古ハ十抱以上ノモノデ満テテ丹タノ
 デス又此ノ森モ今ヨリハ幾倍カノ廣サデアツタ
 ノヲ四方カラ耕地ニシテ狹ノ夕様子デス乱世ニ
 ハ腕カ沙汰デス故強イモノガ勝手ニ神地デモ寺
 地デモ横領シタノソリデス 生野神社ノ祭りハ
 昔カラ六月ノ十六日ト九月ノ十八日ト兩度行ヒ
 マス是ガ珍イノデス二度モ仕マスノカ 天鈿女
 ナシテ於多福ヲ祭ルノモ珍デス元祿以來ハ正一
 位御幣神社ト申シマシタ 字ハ三保デス 生野
 ト申ス譯ハ君(記者ヲ指ス)ノ方ニ篠村ト申ス所カ
 コガリマシヨウ其所ニ昔大蛇ガ住シテ丹テ人ヲ
 害シマシテ大ナル苦痛ヲ人ニ與ヘマシタガ之ヲ

退治スル者ガ無イノデ豪傑ヲ探シ出シ之ニ依頼
 シマシタガトウ(其ノ蛇ヲ斬リ殺シマシタ併
 シ其ノ毒ニ當テラレ精神ヲ失ヒマシタガ此所マ
 デ来マシタテ其ノ者ガ生き返ワタノテ生野ト附
 ケタトゴサリマス 左様其ノ豪傑ガ斯處ノモノ
 カ斯所ヨリ奥ノモノデ歸リ途ニテ生き返ワタノ
 カハ書イテアリマセ又故申レ上げ兼ネマス 御
 話ガ辰リマスガ其ノ鈿女ヲ祭ル理由ハコウナン
 デス天津瓊々杵尊ガ天降りサマラレマスル時ニ
 鼻ノ長サ七尺モアラフト云フ大男ガ途ヲ塞イデ
 丹マスノデ群神ニ勅アツテ尋ネサセ玉フニ誰一
 人行クモノガ無イノテ此ノ鈿女ニ行ケト宣ヒタ

南田郡篠村ノ池
 大蛇トテ勇士コレヲ
 退治セントテ行キ却
 テ谷マシタリ勇士持
 所ノ小刀ニテ蛇ノ腹ヲ
 切リ開キ出ブルヲ得
 面色程々如ク血ニ
 染マル勇士ノ僕尋
 采リ野中ニテ逢フ
 得テ何處ニ往キ玉
 シヤト尋ネタレバ云
 去レド御身ノ生キ
 玉フノ禱シヤト
 此所ヲハ生野ト呼ビ

土六人部村

ル時鈿女其ノ胸ノ乳ヲ露ハレ裳ノ帯ヲ臍ノ下ニ
 垂ヒ笑ヒツ、問ヒマシタレバ答ヘテ申スニ我ハ
 猿田彦ト申スモノナルカ天孫ノ天降りマスト聞
 キ御案内申サレトテ此ノ所ニアリト天孫コレヲ
 聞給ヒ此ノ二神ヲ御導ニシテ筑紫ノ日向ナル高
 千穂嶽ニ天降りマシタトゴザリマス因テ於多福
 デモ御祭り申ス理由カアルノテ又女神ナノテ女
 ノ参詣カ多カワタ等テ祭禮ニハ三俣ヲ始メト
 致シ池田堀越上野坂室萩原正後寺カ加ハリ
 マスノテシタカ何日ノ程ヨリカハ村思ヒニナ
 リ氏神ヲ建テ、居マス三俣ニモ二社池田ニ一社
 堀越ニ一社上野ニ二社生野ニ一社坂室ニ一社萩

上六人部村

原ニ一社正後寺ニ二社アリマスノテ所心ノ生野
 神社ハ式内テアリナカラ衰ヘガルト得マセ又次
 第テス此ノ通りノ大破テス故維持カ附キマセ又
 村々モ今テハ合祀ノ布告モアルトテ色々勘考
 中ノ様子テスナド云フテ丹ル内ニ宿ヘ着キ猶暫
 時對話レ謝義ヲ與ヘ再會ヲ期シテ別ル
 大字 萩原 古コノ所ニ野生ノ萩多カリシヨリ
 呼バル名トコソハ聞キアル具足師弓師矢師弦師
 ナド呼バル所アレバ中古世ノ乱レツル頃ニ斯カ
 ヲナリワヒスルモノ、住ミケルニヤ 茲ヨリ上
 野ヘ向テ一面ノ平野ヲ上野軒ノ所ト呼ベリ字シ
 テ雲田ト云フコマダト訓ム之ヲ雲田千軒ト云フ

上六人部村
 堀越
 志

土人カ懐舊シテ口ニ登ス語ナリ天神森ノ北十間
許ニアリ上古天孫天降リ玉ヲ所トシテ之ヲ尊崇
ス

天地乃起スルニ由ル代有レハ雲白乃村のいねきこきつけ

寛政年間民家四十七戸高百七十四石三斗六升
文久高百八十石四斗六升二合九鬼大隅守領

城址 大槻佐渡守ノ居所トシ本丸近傍ハ近年マ
分其ノ子孫ノ外住居セズ 東南ニ川ヲ拓ヘ南方
ハ岩石十間許切立テタリ本丸ノ址ニ平地アリ長
サ二十間許横其ノ半
元禄年中高橋某コノ土地ノ荒廢ニ委テラレ人ノ
之ヲ顧ミル無キヲ嘆キ獨力ニテ起工シ水ヲ引キ

上六人部村

良田ヲ作レリ目下ノ平野コレナリ 此ノ地元來
山林ニ乏シ故ニ宿屋ヲ以テ營業シ小店ヲ開キ小
商ヲ爲ス者多カリキ幕府時代ニハ是等ニハ課税
セズ開闢行止自由ナリキ
大字 正後寺 高九十四石二斗 文久九十四石
四斗三升七合 民家十五戸 綾部藩領
大字 坂室 高三十石七斗六升 文久三十四石
二升八合 民家七戸 同領
大字 三俣 高五百八十七石六斗七升 免三ツ
文久五百八十八石八斗七升 民家百四十戸 寛
政年度調査 綾部領
下町ト云フテ三町許續々東側ハ三俣ノ出戸ニシ

町誌

西側ハ堀越ノ出戸ナリ
 東淺井岳 晴日コノ頂上ヨリ京西ノ愛宕山ヲ見
 ルベク又丹後ノ山々ヲ見ルベシ
 浅木山城址ハ四方山嶽ニ包圍セラル、故ニ輒ク
 見難シ浅木縫殿助ノ籠リシ所ト云フ浅木氏亡ビ
 テ後ニ八木備前守コレニ居リ何鹿郡山家城ヲ攻
 メレニ大雨ニ突ビテ敵ノ末リ襲フ所トナリ遂ニ
 死ス 河合村大原ノ部参考 何鹿郡山家ノ部参照
 小字 安場 古城 城主八木助之丞 邸址アリ
 四尺許ノ石塔アリ塚跡アリ
 蛭子神社 八幡神社 生野神社
 大字 堀越 高百六十石 元禄 高百十石七斗九

上六人部村

升 寛政 文久百六石 御代官所 民家四十二戸
 同
 西觀山大光寺址、礎石ノ類存ス之ヲ除ケバ崇ル
 ト云フ 方四間ノ堂アリテ釘無シノ建築ナリシ
 トカヤ
 アヲチノ清水 堀越ノ城主ガ手槍ノ柄ニテ掘リ
 タリト云フ
 大藏山高源寺址アリ
 景福山長川寺 曹洞宗 船井郡復知 王雲寺末 慶長年
 中建立 萩原源助ナルモノ漆心シテ開基ス
 大字 池田 高二百三十四石七斗八升 文久二
 百三十五石二斗八升七合 民家五十七戸 陰陽

師ニ戸字下段ニアリ 綾部藩領 寛政度 部落ニ
 向ノ池田アリ 高人戸共池田ニ組入ル
 久嶽山法聖寺来迎院 真言宗 本尊不動明王
 中興開山 祐尊 貞享三年入寂 此ノ寺ノ創建
 詳ナラズ 明暦年中祐尊カ再造シタルト云フ 祝
 融ノ災禍ニ遇ヒ明治十五年今ノ堂宇成レリ此ノ
 寺ノ近傍ニアル觀音堂ノ本尊ハ聖觀音ニテ豊公
 征韓ノ役ニ九鬼嘉隆カ寺本尊トシテ持渡リタル
 ヲ後ニ綾部藩主ノ九鬼氏ニ傳ハリ藩主ノ女カ同
 藩ノ家老深野家ニ嫁スルニ際シ携ヘ行キシヲ遂
 ニ當時ニ納マルトナリ深野ヨリ御供料トシテ
 高一石餘ノ田地ヲ寄附シ今ニ傳ハル感夢ニ依リ

上六人部村

テ此ノ寺ニ入レタリト云フ此ノ邊リ大抵定免地
 ニシテ四ツヨリ五ツニ至ル上野ニ比スレバ産シ
 麥ノ出来ル所ハ少シ
 大字 上野 高百五石八斗七分 出戸アリ上野
 山田ト云フ三戸アリ合戸三十三戸 定免三ツ
 綾部領 寛政度改 古名上野小路ナル平地アリ
 ヲ生野菽原ニ通ズ此ノ地元ハ碓礮ナリシガ井本
 某コレヲ開拓シ今日農耕ノ基資ヲ建造セリ子孫
 今尚在リ 右ノ通り新開地ナルヲ以テ定免ノ低
 廉ナル收穫ノ佳良ナル等ニ因リ概ニ人民ノ来リ
 テ耕籍スレアリ當時一作カハ出来兼ネタル地モ
 兩作スベク成リ酒一升ヲ添ヘテ熨斗ヲ附ケタル

町
 史
 志

モ實ニ人ナキ所ノ今ヤ二百圓ヲ投シテモ一畝ノ
田ヲ得ルニ難クナレリ 明治二十八年

大字 岩崎

八幡神社 譽田別尊即應神天皇 祭式舊八月十

五日

千歳山 北ニ當リテ聳ユ

此ノ邊リ領主ヲ綾部藩トス保護政策ヲ取レルト天
明頃ヨリ著ルシ其ノ以前ハ之ヲ知ルト難シ倉庫
ヲ萩原ニ置キ常ニ二三千石ノ米粟ヲ藏儲シ之ヲ
願人ニ貸與ス新政社倉澁ニ由リシモ乎其ノ方
澁タルヤ出願人アレバ綾部ヨリ出張セル役人之
ヲ貸與ス恩惠ヨリ成レルハ作人救助ノ主意ニ基

二十六人部村

ツキ之ヲ期限ニ返納セシムルト權還セシムル
トハ一切庄屋名主年寄ニ委セリ出張ノ役人ハ徒
士ノ身分ナルモノ一名ト足輕ニ名ト拵取一名交
代常住ス領主ノ意ヲ用ルヤ務メタリ 何故斯ク
マテ保護シタルヤト問ハバ左ニ一例ヲ掲ケテ古
時ノ事情ヲ報セン前示ニ謂ヘル酒添ハテサハ引
受人ナキハ惣ビテ地味ノ劣悪ニ依ル乎 不然ル
ニアラズ茲ニ一畝ノ田地アリテ之ヲ賣却セシト
假定セヨ其ノ租米ヲ低額ニスレバ買人ニ利アル
ヲ以テ其ノ租米ノ幾分ヲ賣主所有ノ屋敷ヤ田畑
ニ移シ望人ノ多カラシトテ求ム次ニ賣ル所ノ畠
地ヲモ亦斯クノ如クニシテ再三ニ及バ賣田價

高クシテ残地租重ク遂ニ残地一畝ヨリシテ四
 五及ノ租税ヲ負擔セシムルニ至ル地主ハ具ノ不
 利益ノ甚シク酒樽ヲ添ハテ進上セントテ望
 人ヲ四方ニ捜シ之無ケレバ已ムヲ得ズシテ逃亡
 離散スルニ至ル是レ領主ガ特ニ注意シ保護政策
 ヲ取リシ所以ナリ 是等殿付附キ酒樽附キノ田
 地ハ維新ノ際實地丈量シタル結果他ノ田地比較
 ヲ取リ大ニ減租セシカバ一畝ノ價四十圓臺ニ進
 三年ヲ逐フテ四十年ニ至リ四百圓臺ニ升レリ前
 所有者ハ大ニ具ノ失ヲ悔エト云フ
 村有財産統一ニ付調査上及別五百五十五町九畝
 二畝十二歩アリテ 森林 薪炭供給地 緑肥供

給地ノ三區別ヲ爲シ 緑肥薪炭ハ之レガ採取ニ
 便ナラシムヲ慮リテ成ク可ク人家近クニ具ノ箇
 所ヲ設定シ森林ハ人里ニ離レタリトテ格別ノ不
 便無キヲ以テ残地一切ヲ以テ之レニ充テ尚ホ薪
 炭ハ現今村人ガ需要シ居レル三分ノ一ヲ供給ス
 ルノ見込ニテ結局薪炭地二百十四町五段七畝七
 歩緑肥地百四十三町二段七畝十七歩森林百九十
 八町七畝十九歩ト成レリ森林地ニハ原野多キヲ
 以テ植苗ヲ開始ス

三嶽村

三嶽村 大字 一ノ宮 日尾 常願寺 喜多
 上佐々木 中佐々木 下佐々木
 地勢ハ本國ノ最西北ニ位シ本國及ビ本郡ノ乾隅
 ニ置カル東方金山村ニ界シ西方夜久野村ニ接シ
 南方上川口村ト斜面シテ下川口村ニ交ハリ西北
 山嶽ヲ以テ但馬出石郡ニ境ス
 村名ハ山名ヨリ取ル三嶽山喜多ニ倂立ス古説ア
 リ昔願光が大江山ニ向フヤ此ノ山寺ニ參籠シテ
 希願ヲ籠メ良ノ方ニ當リ目差ス賊窟ヲ見得タル
 ヲリ見立山ト呼バリシヲ後人誤リ傳ヘテ三嶽山
 トスト 人戸三百戸 中央ニ佐々木川アリ北ニ
 リ南ニ流レ些少ノ田畝ヲ養フ産物トシテハ枹實

丹波志

丹波志

薪炭アリ蠶業ハ年ヲ逐テ益ス枋實ハ明治四十
二年度ニ於テ金額千八百九圓ニ昇レリ季候ハ寒
氣酷烈新曆三月中ニ山地五尺ノ雪ヲ踏ム大正六年
守舊ノ常態ニアリテ人民舊曆ヲ準用ス 福知山
ヨリ出石ニ連スル一條ノ道路アルモ登尾峠ノ險
ニ由ラザル可ラズ行旅僅少ナリ 此ノ邊リハ古
ノ雀部ナラシ今ノ佐々木ハ雀ノ訛傳ナリトモ云
フ雀部ノ臣ハ此處ヨリ出デタル姓ハナラシ乎此
ノ姓尸ハ神八井耳命ヲ祖トス建内宿禰ノ子許勢
小柄宿禰ヲ祖トスル雀部ハ別部ナル乎
大字 一ノ宮 元ハ日ノ尾ノ内ニテ高四百六十六
石一斗 文久四百六十五石六斗五升五合 日ノ尾

入込高ヲモ加算シタルナリ 九鬼十郎左衛門知
行 笹尾峠ヨリ夜久野村ニ通ズ
一ノ宮文明神社 仁徳天皇ヲ主神トシテ祭ル 五
柱神社 天満神社
天公山瑞應寺 臨濟宗 二百五十餘年前 知行
主九鬼氏ノ建立ニテ傳公開山ハ天寧寺ノ一実禪
師ニテ開山ハ天瑞和尚トシ山勝寺稱コレヨリ取
ル九鬼大隅守ノ位牌ヲ祭ル
赤延山妙福寺 日蓮宗 開基 中路太郎左衛門
自家ヲ分割シテ建立ス延徳己酉四月八日 開山
ハ實相院日敬和尚
古城 塊山 平地アリ馬場ハ段ト呼ブ常願寺ノ

丹波
志

間ニ路アリ二町許ノ登リ路ナリ
 同 龍ヶ城 萩野出羽入道ノ遺址 下夜久野村
 字畑ノ神通寺ニ位牌アリ
 大字 日ノ尾 古水帳高千十一石四斗 綾部領
 内二百九石八斗 九鬼十郎左衛門知行 改二百
 九石六斗内百七十五石七斗 綾部領 三十三石
 九斗 九鬼十郎左衛門知行 一ノ宮ト合算シタル
 毛ノト云フ文久改三十四石三斗四升五合
 常願寺 高三百二十四石三斗 小部落新宮共
 綾部藩領
 森王神社 常願寺ノ遺跡知レカ 古城址アリ判
 明シ難シ

喜多 古稱ヲ金山郷北村トス 小字 天座行積
 上野條下野條高三百四十七石 同領
 六社神社 七王子神社 大川神社 稻荷神社
 須賀神社 熊野神社
 三嶽山十手院金光寺 真言宗 本尊大汝命 開
 基役小角 大化年ノ創立ニテ郡中ノ最古刹トス
 郡中ノ西國十九番札所 兩部神道トシテ藏玉権
 現ヲ祭リ之ヲ大汝命ト呼ブ 一説大國主命右照
 立土龍権現左照立勝手権現 本社舞殿役行者堂
 地藏堂奥院白山権現堂觀音堂不動堂藥師堂六所
 権現堂正一位権現堂等アリ惣門ヲ觀練ト名ツク
 觀練瀑直下十七條具ノ面ニ當タル九輪ノ明顯塔

町
 郡
 志

下リ金剛岩ハ不動明王ノ真影ヲ現ストカヤ 鈎
 掛ハ賽者カ樹枝ヲ折リ鈎鈎ノ状ヲレテ懸ケタル
 古習ナリト 登路十八町ニレテ本社ニ達ス又八
 町ニレテ絶頂ニ至ル丹波ヲ南ニレ丹後ヲ北ニシ
 テ聳立スル淨地ナルヲ以テ古來女人結界ノ地ト
 セリ
 大字 上佐々木 一名小野原誤リテ鬼原トナル
 高九百七十九石三升四合 内四百二十八石二斗餘
 ハ中佐々木分ナリ 文久度改上佐々木高五百六
 十五石四斗 保科越前守知行 此所ヨリ野端ニ
 至ルノ間ヲ五千石在ト呼ブ古來佐々木左ト呼ブ
 所ニテ佐々木三個トモ云ヘリ上中下佐々木ノ合

嶺ナリ 登尾峠ハ但馬道ナリ古道ヲ登レバ妙見
 堂アリ絶頂ノ八九町西北ヲ國境トス三嶽山ノ登
 路ニ鳥居建ツ
 小松大明神社 社田高六斗七升五合 除地 祭
 禮舊曆ノ九月十七日
 七王子社 除地 堅三尺五寸幅ニ尺五寸
 蓮秀寺 日蓮宗 善諸院日靜上人開山 二百餘
 年前 明治末年ヨリ
 産物ニ山葵アリ
 大字 中佐々木 高前示ノ如シ文久年改四百三
 十石一斗一升一合
 小和田神社 三嶽山ノ正面鳥居アリ登路口ナ

大字 下佐々木 上佐々木ノ一部ナルト中佐々
 木ニ同ジ 高四百二十石六升六合 文久同同領
 五柱神社 春日神社 龍宮神社
 保上山威光寺明王院 真言宗 境内除地 仁王
 ハ運慶ノ作ト云フ 郡内西園二十番札所 保上
 トハ上山保下山保ヲ惣稱シ上山保ニハ上甲下佐
 々木一ノ宮常願寺アリ下山保ニハ大呂長尾花倉
 齋ノ木アリ今ハ長尾以下ノ三小部落ハ大呂ノ内
 トナレリ

金谷村

金谷村 大字 梅谷 宮垣 田和 猪野々
 本村ハ本郡ノ中央ヨリ稍ヤ西北ニ偏シ板生川ニ
 沿ヘル平衍ノ地ニ在リ北ニ三巖村アリ東ニ下川
 口村アリ西ト南ニ中夜久野下夜久野ノ兩村アリ
 而シテ南ニ上川口村アリ 四個ノ舊獨立村ナル
 四大字ヲ保有スル郡内ノ細小村トス其ノ地位ノ
 宜シキヲ得タルヲ以テ體面ヲ維持ス
 板生川流上夜久野ノ直見ヨリ流下シ本村ヲ中斷
 シテ上下川口村ノ間ヲ縫フ之ニ由リ村ノ大部分
 ハ河北ニアリ一部ハ河南ニアリテ常ニ其ノ不便
 ヲ訴フ何ニ由リテカ駈カル不便ナル合村ヲ爲セ
 シカヲ問ハバ猪野々ガ古來河北ノ池ノ内村ヲ會有

シタル因縁ナル故トゾ
但馬出石郡界ノ為母山系東ニ流レテ一村ヲ二分
セシトス

錢道 福知山ヨリ来ルモノ西向シテ丹後ニ入ル
村中ニ於テ梅谷ヲ貫通ス

大字 猪野々 小字池ノ内ヲ合ハセ舊高免二百四
十七石 高免ニ改廢無シ 福知山藩領

熊野神社アリ龍本寺アリ 寺ヲ長澤山安養院龍
本寺ト呼ブ真言宗ニテ郡ノ二十三番札所トス本

尊十一面觀世音開基ヲ行基菩薩トシ中興ヲ盛雅
法師トス

褒賞 片山産太郎 妻以と 伴直喜 消防組

金貳百圓ツ、産太郎 産喜 五十圓 以と 五
十五圓 消防組 右ハ野村神管錢道局長ヨリ懇

篤ナル謝狀ニ添ヘ贈レル所 七月六日
右ハ大正八年六月二十六日午前一時頃上川口ト

下夜久野トノ間ノ耕地ヲ見廻ハリ大雨ノ爲ニ新
苗ノ損害如何シテ檢シ今ヤ歸路ニ就カントスル

ニ際シ錢軌上ニ山石ノ崩壊スルヲ見テ大ニ驚キ
病ニ臥セル子ノ産喜ヲ強ヒテ起タシメ妻ヲモ連

レ藁束ヲ携ヘ出デ之ヲ線路ニ積ミテ火ヲカケ以
テ危険信辨ヲナシ斗タル所へ下リ夜行汽車進ミ

至リ今ヤ岩石上ニ載リカ、ラントスルヲ看テ産
喜ハ線路内火光ノ下ニ突立テ動カズ機關手ハ驚

京都府立総合資料館所蔵

キ斯クト乗客ニ報ズ乗客一同ハ汽車ノ中途ニ止
マルヲ訴ル所ハ之ヲ聞キ車ヲ下リ救援ニ来レル
消防組ヲ助ケテ土石ヲ堤下ニ撥キ落シ二時間ニ
シテ発車スルヲ得タリ此ノ乗客中ニ大學生高等
學生アリ曰ハク片山一家ハ吾々數百名ノ命ノ親
ナレバトテ車掌ノ許可ヲ得テ乗客中ヨリ醵金シ
合計十八圓六十銭ヲ贈レリ重太郎ハ之ヲ辞シタ
レド強ヒテ與ヘヌニ名ノ軍人アリ特ニ働ケリ
大字 梅谷 高二百五十五石 福知山藩領ナリ
キ 古稱梅谷ノ庄ハ宮垣猪野々田和上小田下小
田十二野花等ヲ含有シタト云フ 上下小田十二
野花ハ上川口村ニ属ス

小字 大野ニ皇居址アリ芝原ナリ傳ヘ云フ後醍
醐天皇隱岐遷幸ノ際カ遷幸ノ時カ此ノ處ニ駐蹕
アリレ所ト云フ之ヲ古史ニ徵スルニ隱岐ノ遷幸
トモ山陽道ヨリトアレバ此ノ所ノ通御ハアリト
シモ思ホエズ天皇第四ノ宮カ但馬ハ遷サレサセ
タマヒタルヲ同國ノ守護ナル太田三郎左衛門ガ
奉ジテ以テ篠山地方ハ參會スルノ途次御旅館ヲ
此所ニ造リ參ラセ假ニ宮ノ御所ト言ヘルヲ誤リ
傳ヘタルニヤアラン乎
見瀨山寺蓮寺 真言宗 郡西國二十五番ノ札所
本尊十一面觀世音 開基 行基菩薩
大字 宮垣 小字木村岩片池ノ四 高三百四十石

寛政改 民家五十戸 同領

一宮神社 祭神大己貴神 祭日 正月四日九月

十五日

老戸山為徳寺 遺跡 郡西園二十四番 本尊千

手觀音

富岡山銀坑 具ノ發見當時ヲ詳ニセズ中古廢坑

ニ屬セルヲ廢應二年村人コレヲ再掘シ月額三百

二十匁許ヲ獲タリ

同銅坑 銀坑ト共ニ發見シ又共ニ發掘レ廢應ニ

年銀坑ト共ニ再掘シ月額壹百六十匁許ヲ獲タリ

田和銅山ト云フハ是レナリ山陰街道ノ上川口村

線ヨリ西方半里

大字 田和 高二百八十石内八石穢多高 寛政

改民家六十戸

末御前ノ社

有徳神社

誓應寺 真宗

京都府立総合資料館所蔵

下夜久野村 大字 井田 今中西 畑 額田

千原

夜久野三村鼎立シテ天田郡ノ最西ニ存在シ而シ
テ下夜久野村ハ其ノ東部タリ北方但馬出石郡ニ
界シ西ニ中夜久野村アリ東ニ金谷村アリ上豊富
村アリ其ノ最西端細長形ヲ爲シテ氷上郡遠坂ニ
接ス

板生川ハ上夜久野村ノ大字板生ニ由リテ名ヲ取
リ水源ハ同村大字直見ノ直見山牛尾山ノ溪流ヨ
リ下リ村内ヲ通過シ東流シテ牧川トナリ上天津
下天津ニ向ヒ福智川ニ會シ北海ニ注クヤナ谷ス
コウ峠爲母山小畑谷龍ヶ城等ノ多數瀉々ノ水此

下夜久野村

川流トナリ霖雨ニハ水勢頗ル迅急ナリ
 三夜野ヲ通シテ西多ク霧深ク年ノ大半陰氣ニシ
 テ冬期三月雨ナラザレバ霽々ナラザレバ雪々往
 々三四尺ニ至ル 八十八夜春霜猶凝ル
 三國嶺但馬界ニ立シ千原山ハ葎ニ葎ニ村内山
 江ヲ以テ埋ノラル
 千原峠ハ氷上郡遠坂ノ通路ナリ別ニ千原ノ深
 山ト云フ一線アリ矢取明神ノ森ヨリス 但馬ノ
 野間ヨリ来ル一道三國峠ノ嶮坂ヲ經テ中夜久野
 ヲ過ギ本村ニ入り東向シ金谷村ヨリシテ福知山
 町ニ至ルベシ鐵道亦同ジ
 産物 柿 三千二百四十圓 蒟蒻畑三十六町五

設アリ明治四十二年調査
 夜久郷産米ヲ氷上郡ノ片町、賣リ出ス古来ノ
 習慣ニテ維新ノ際ニ至ルモ變更セズ彼ノ地ニテ
 ハ之ヲ福知山千石ト稱シ其ノ着米ヲ待ツヤ毎歳
 冬初期ニ於テ然リ
 畜牛事業モ古来盛ニ行ハレ郡組合モ此ノ地ニ
 於テ開展シ糶市ヲ創始ス其ノ購買者ハ船井何鹿
 兩郡村ノモノ多ク多紀氷上丹後ノ如伍諸郡村ヨ
 リモ未集ス四十一年八月ニハ和種牝犢二十一頭
 其ノ賣價金千零一圓五十錢同牝犢百十二頭賣價
 金二千三百七十二圓五十錢雜種牝犢一頭二十一
 圓犢以外ノ和種牝一頭百十圓牝牛二頭六十七圓

斯ノ盛況ヲ得タル賣品多クハ此ノ邊ノ産出ニ係
 カリ一會ハ一會ヨリ進歩展開スルノ傾向アリ近
 来郡組合ノ管理方法ニ改良ヲ施シテヨリ全部ノ
 風氣頓ニ此ノ業ニ向ヘリ
 山中ニ四農作ノ所アリ地味既ニシテ深サ一尺餘
 ノ耕土天然ニ具ハル四作トハ蕎麥ヲ作ル間々ハ
 菜種ヲ蒔キ附ケ菜種ノ迹ハ粟ヲ作り粟ノ後ニハ
 ウラクト呼ブ所ノ小豆ヲ作ル此ノ小豆ハ細小ニ
 シテ味モ可ナラズ只收穫ノ多キニ利ス 楮柳椴
 櫛ヲモ産ス
 御勝祭トテ二十五年毎ニ行フ神事アリ神輿ヲ出
 ルニ武者行装アリ是レハ源頼光ノ大江山酒頼童

子ヲおチ平ケタル祝祭トテ田舎ニテハ大祭典ナ
 リ
 土地僻遠人民未開ニシテ村政ノ何物タルヲ解セ
 不幕政ノ習慣未除去セラレズ此ノ時ニ衆ニテ村
 治ヲ紊シ私囊ヲ膨ラセ上ヲ罔ヒ下ヲ蔽フモノアリ
 リ司訟官ノ前ニ引キ出サレ宣告ヲ受ケタル者
 左ノ如シ
 公判 公文書偽造行使詐欺横領罪明治四十四年
 六月三十日京都地方裁判所公判 村長 衣川吉
 左衛門 懲役三月未決拘留百日間通算 助役
 片山與之助 中路寅之助 懲役各一年 同白井
 直裁 懲役六月 收入役 衣川美代吉 懲役五

内 職 誌

月 以上吉左衛門ヲ除キ奥之助等四名ハ二年間
刑ノ執行ヲ猶豫ストノ宣告アリ

大字 井田 高三百四十一石四斗七合ヲ有シテ
今西ノ部落ナリシガ一村トナリタルナリ 今ハ

下夜久野村ノ一部落トナル元ハ福知山領 真言
宗観音寺址アリ

大字 十原 口中奥ノ三小字アリ高六百石福知
山藩領ナリキ 礫沙粘土ノ混濁スル肥沃田園多

ク葑蒔ニ適シ産額多量
古城址口十原ニアリ衣川下谷守ノ居所ト云フ事

迹詳ナラズ
萩神社 高木神ヲ祭ル舊曆九月二十三日ニ行フ

熱田神社ハ日本武尊ヲ祀ル

照靈山瑞光寺 曹洞宗 本尊阿彌陀如来 傳ニ

云フ聖徳太子ノ作 腋立聖観世音勢至ハ慧心ノ

作ト云フ開基ハ靈瑞照山長老山号寺号因リ出ツ

而シテ開山ハ鐵山泉鏡和尚トス天文元年靈瑞長

老ガ宇城山ニ造リシヲ具ノ城主ナル衣川下谷守

藤原往云大檀越トナリ延寶八年庚申七月今ノ地

ニ移セルナリ元禄十五年癸卯田村ノ水谷藤兵衛高

三十三石ノ田ト二十八ヶ所ノ山林ヲ寄附ス由リ

テ中興開基トシ牌シテ供養ス今ノ堂宇ハ明治十

二年ノ再造ニ係カル

大字 畑 高九百十石民家百八十戸 寛政年庚

文久同 明治四十年二百五十戸

川字 西ノ谷 金ヶ尾 稻垣 小畑 桑 杉本
 今里 中古ハ隣村三嶽庄ノ内ト稱スレド大山ヲ
 隔テ、地勢太異ナリ 畑川ノ一線諸溪流ヲ合ハ
 セテ下注シ采リ平地ヲ狭メ住民ヲシテ細長形ノ
 部落ヲ作サシメ爲メニ二里餘ニ垂ントス葎方一
 口北方ニ口中山具ノ中ヲ間カツ蓮如峰アリ併供
 機山アリ頗ル高シ爲母山ハ廣漠ニシテ木無シ
 里程福知山 四里強 但馬國界同國朝末郡矢名
 瀬 三里十九町 銀山 九里餘 巽ニ常願寺アリ
 幸ニ田和アリ良ノ一部ニ一ノ宮アリテ地境地名ト
 ス銀山街道ハ北ニ走ル加茂石官大年神明稻荷三

柱藏王八幡及ビ武ノ九社アリ

惠日山神通寺圓滿院 真言宗 本尊千手觀音ハ

行基ノ作ト云フ開基行基 創建ハ保元年間 中

興ハ阿闍梨宥賢 現時ノ本堂ハ 明治二十七年

ノ新造 應永八年己卯三月廿六日ト書ケル棟札

アリ萩野ノ遺物ヲ位牌寮嚴院殿從四位前出羽入

道自覺良性大居士ト書ス裏面ニ本堂中興大施主

在世名萩野尾張守朝忠ト書ス

龍ヶ城址 三嶽村ト云フ、萩野尾張守出羽入

道朝忠ノ居所朝忠初名彦六丹波ノ産ト云フ後醍

醐天皇遷地隱岐ヨリ出雲國ハ還幸アリ船上山ニ

在ラセラル、ト聞キ旗人ヲ集メテ勤王ノ軍ヲ起

コシ源忠頭ニ從ヒ六波羅ヲ攻ム利アラズ安達祐
 秀ト敗卒三千餘人ヲ集メテ丹波ニ還リ高山寺ニ
 據ル足利尊氏ノ人ト爲リヲ惡ミ之ト事ヲ共ニス
 ルヲ欲セズ尊氏果シテ及テ謀ル朝忠乃チ久下長
 澤波々伯部ノ族ト仁木頼章ヲ推シテ將トシ所々
 ニ轉戰ス遂ニ山名ノ軍ニ圍マレテ降リ足利氏ニ
 臣事ス尊氏コレヲ推辭シ丹波ノ守護トシ尾張守
 ニ任セラル是ヨリ初志ヲ變レ足利氏ニ忠任ス正
 平三年高師直ニ隨ヒ四條畷ニ戰フ同七年國人兵
 ヲ擧ゲ來リ討ツ朝忠敗走シ終ル所ヲ知ラズ
 大字 今中西 高三百九十三石四斗二分 福知
 山藩領ナリシ

大年稻荷三柱琴平祖靈及ヒ武ノ六社アリ
 惠日山大智寺 臨濟宗 本尊釋迦如來 朝日山
 觀音寺ノ址アリ
 大字 額田 高五百五十三石五斗二分五合内ニ
 十石穢郷 福知山藩領ナリキ
 人家軒ヲ並ベテ店舗ヲ開ク銀行アリ旅亭アリ産
 物漆蒔蕩牛
 一、菅大明神 祭神彦火々出見尊 往古但馬國ヨ
 リ移齋スト云フ社地竝十六間横十間除地 大年
 神社 大年神御年神若年神ヲ祭ル舊九月廿三日
 祭
 善照寺 真宗 本尊阿彌陀如來 寶曆元年ノ頃

京都府立総合資料館所蔵

二ハ道場ナリレヲ明治十二年六月寺拜ヲ公稱ス
 ルトナレリ
 長光山妙龍寺 日蓮宗 本尊法華經寶塔 兩股
 釋迦多寶ノ西如來
 開山本龍院日易 創建元祿元年辰年 天正五年
 九月二十日木下秀吉諸役免除ノ墨附ヲ下附ス慶
 長十九年九月三日桐村某ヨリ地券再檢ノ副書アリ
 月輪山東光寺 真言宗 本尊不動明王 開山智
 證大師 本尊ハ其ノ自作ト云フ 中興權大僧都
 慶呼 創建元慶年中 千鉢堂 觀音堂 藥師堂
 アリ 其ノ初ノ向嶋八王子ノ牽ニ在リ今以テ其

ノ地ヲ本寺ノ地トスル所以ナリ今ノ處ニ移セル
 ハ元和ノ中興時トス火災ノ爲ニ傳記ヲ失フ
 瀧高山普參寺址ニ十一面觀世音アリ 郡西園ニ
 十六番札所
 舟岡山長福寺址 尾崎坊西三坊文珠院等塔中ノ
 名ヲ残ス
 古城 且ノ上ニアリ夜久相模守コレニ居リ足利
 義輝ノ頃地方ニ跋扈シタリト云フ
 向島開拓 享保年中ニ水谷幸七百秀ナルモノアリ
 庄屋トナルヤ民利ニ心ヲ注ギ其地ノ有利ナル
 ヲ知リ同九年ニ設計シ從前企業シタル者幾多失
 敗シタルニ監ニ深ク心計ニ水谷三右衛門庄屋ノ

京都府立総合資料館所蔵

役ニアリ石田太郎兵衛城畑藩三兵衛石田次郎兵衛組頭タリコレ等坂カシテ工事ニ着手シ年ヲ経テ成リ新田野ヲ得タリ幸七八天兒屋命ノ裔孫ニシテ心膽アリタル人トカヤ

中夜久野村 大字 末 日置 高内 大油子

小倉

村形 三角形ヲ成シテ上端ハ上下兩夜久野村ニ向ヒ下端ハ氷上郡遠坂ニ界ス 山脈並行シテ但馬朝来郡ヨリ来リ其ノ間ニ諸部落散在ス之ヲ坐狗ニ譬フレバ其ノ譬ナリ終論參看

金山村三嶽村ヨリ下ル板生川ヲ受ケ之ヲ下夜久野ニ送ル

三國嶽ノ高峻ナルモ道アリ但馬ノ野間ニ連スベシ大字小倉ヨリニ十五町トス此ノ一線ハ下夜久野ノ額田ニ出デ板生川ノ北面ニ沿テ東行スレバ福知山ニ到ルベク下川口村ヨリ丹後ニ赴クベ

中夜久野村

丹波志

戸數三百七十七 人口千九百十
 山間ノ割合ニ田園ニ富ニ米穀ニ豊ナリ加フルニ
 養蚕養牛ノ術ニ習ヒ製漆ノ業ニ勵ミ薪炭ヲ輸出
 スル下夜久野ト伯仲ス一言ニシテ盡クセバ之ヲ
 民業ノ精鍊ト云ハシ歟
 大字 末 奥末口末ニ別ル又出戸アリ昔時氷上
 郡山垣村ヨリ加右衛門ナルモノ来リ開拓シテ住
 ス其ノ地深山ノ頂ニアリ 合高二百二十六石三
 斗四分ニテ文久同 福知山藩領ナリキ 小字廣
 畑ハ遠坂ノ足立某領主ノ命ニテ開拓セリ持高三

十六石 免ニツ一本免
状トハ珍ラレ
 須江神社アリ 末ノ深山トテ高山ナリ夫婦岩アリ
 大年神社 祖靈神社 四社アリ
 森光山玉照寺 曹洞宗 本尊十一面觀世音 開
 基 鐵山泉鏡和尚 慶安元年創建 延寶四年衣
 川金七再建 明治廿二年改造
 大字 小倉 奥小倉 原小倉等ノ小字アリ高二
 百六十二石 文久同 福知山藩領
 箱荷神社 三柱神社 慶宍神社 加茂神社 八
 幡神社等アリ
 原小倉ノ野ニ三ツ立石アリ此ノ石ヨリ東ハ大油

子ト高内ニテ北ノ方ハ山端ニ當リ平野奥水坂ノ
 口ナリ西ハ但馬幸モ同ジ原ハ倉ハ國境ナリ夜久
 野見渡ノ石ヨリニ國明神ノ前ヲ眺ムベシ此ノ社
 ハ但馬ノ地ニアリ奥小倉ハ此ノ異位ニアリテ距
 ルト七町其ノ坤位ニ但馬ノ朝来山アリテ氷上郡
 ニ接ス丹波ヨリハ大ジヤ山ト呼ブ
 内藤孫四郎ノ首塚ナルモノアリ元龜元年ヨリ三
 年間此ノ地ニ居リ山名兵部ニ屬シタルモノト云
 大字 大油子 高四百石ニテ 文久同 福知山
 藩領ナリシ
 喜世見神社 山神々社 太田神社 三柱神社

稻荷神社 日尾神社 熊野神社アリ
 城址 藤岡兵部ナルモノ、舊住地
 陽徳山東源寺 臨濟宗 本尊 如意輪觀世音
 開基了心契 中興元愚 創建慶長元年 元愚ノ
 木像 蓮磨ノ木像等アリ 鎮主朽木植治ノ寄附
 高野山又高油山大日寺址ニ聖觀音ヲ安置ス郡内
 噴禮世七釜ノ札所 右真言ニテ塔頭六坊アリシ
 ト云フ日置大油子平野門垣ニ田地アリシト云ハ
 バ大寺ナリレナラシ
 大遊山清海寺址 是ニモ六坊アリシト云フ後ニ
 ハ山伏ノ住持スル所トナレリトカヤ
 大字 日置 小字 上ノ 中ノ 下ノ 高五百

六十四石 文久同 福知山藩領

小字 八ヶ谷ニ銅坑アリ

稻荷 地主 若宮 高倉 三柱ニ所等ノ神社アリ

高倉神社ハ言代主神ヲ祭ル祭式舊六月晦日暨四

十五間幅三十間ノ社地ハ除地ナリ馬場アレド今

ハ山陰街道ニ中断セラレタリ

大字 高内 高二百八十三石九斗六升六合 文

久同 福知山藩領ナリシ

大年神社 加津手神社アリ

高内石ノ石杭 夜久野ノ東端ニアリ 石工四十

戸許アリ播磨ヨリ来住スルモノニテ主トシテ石

塔ヲ作ル

夜久野 東西一里南北十二町 高内ヨリ但馬境

ニ到ル所ニアリテ銀山街道ニ沿フ昔時荒漠ノ地

ナリシヲ今明治四十年ヨリ百三十餘年前天明年

間ニ行脚僧来住シテ開墾セリ野中ノ墓ナル大師

堂一名茶堂ハ此ノ僧ノ死所ニシテ墓所ナリ今ニ

詣者アリ

上夜久野村

上夜久野村 大字 平野 板生 直見
 此ノ村ハ郡ノ最西ニレテ又國ノ最西ナリ東方ハ
 中夜久野下夜久野ニ村ニ隣リ西幸ハ但馬國朝来
 郡ニ接シ而シテ北方ハ同國ノ出石郡ニ交ハル
 鑛鉆山富岡山爲母山等高ク乾位ニ簷ニ山脈流レ
 テ一派トナリ村内ヲ壓ス但馬街道ニ沿フノ地差
 平ナルノニ故ヲ以テ人家人口稀薄ナリ從テ
 テ獨立ノ實ハ得テ見ル可クモアラザリシガ良村
 長ヲ得テ村況更慶レ梅ル可ウザル様ヲ現出セリ
 三十七年統計歳入五萬二千四百二十八圓三十五
 錢九厘歳出五萬六千五百十九圓四十八錢九厘歳
 出超過四千九十一圓十三錢一厘五圓九十三錢八

上夜久野村

上夜久野村

種一人一圓十二錢一重九毛ニ當ル人家七百五十
 八戸人口三千六百四十三人トハ明治三十年頃ノ
 計上ナリキ明治三十二年以來或ル勤儉ニ由リ村
 民舉リ専心一意村是ニ從事シ舊染汚俗ヲ一洗シ
 タル結果ニテ其ノ方タル村長カ農會長ト信心戮
 カシ第一着ニ奢侈ヲ禁ジテ勞動時間ヲ増シ農作
 上ノ改良養蚕業ノ獎勵貯蓄ノ勉強ニ心カラ注ギ
 正條植苗ノ勞役勵行ニハ婦人ヲ當ラシメ上位ニ
 アル婦人モ出テ、男子ノ勞カラ分ツノ添ラ立テ
 晏然平居スルヲ得ガラシメ全村一家トシテ貯金
 通帳ヲ藏セサル無キニ至ラシメ品評會ヲ設ケ成
 績表ヲ公示シ各自出品ノ長所短所ヲ褒貶シ村ニ

遊手ノ輩無ク家ニ不學ノ子弟無キニ至リ又明治
 三十六年內國勸業博覽會ノ褒狀ヲ得タリ村長ハ
 誰ソ井上安太郎其ノ人ナリ
 大字 直見 高千六百九十六石 内千九十七石一
 斗六合直見 三百三十九石四斗七升四合小字副
 谷 二百五十九石四斗二升 門垣 小字十個副谷
 門垣 西垣 山中 金谷 大岫 栗谷 才谷 栗尾 宮垣 社數
 十個 天端 三柱 近江 八幡 武 八柱 齋
 三柱 八柱 八幡 同名三社
 本光寺 真宗 淨念寺 同 高源寺 同 專福寺 同
 妹尾山 高源寺 妹尾山ニアリ天保四年五月再
 建ス其ノ起原ヲ詳ニセズ直見村畑村ヲ舉ゲ其ノ

京都府立総合資料館所蔵

檀徒ト爲コシガ門徒宗ノ起ルニ及ビ其ノ教義ノ
簡單ニシテ人氣ニ投ビタルヨリ次第ニ真言宗ノ
繁雜ナル儀式ヲ厭ヒ改宗スルモノ屬々タルヨリ
住僧容易ニ其ノ承諾ヲ與ヘ不勤モスレバ領主ニ
告訴センカバ勢ナリシカバ村民ヨリ住持ニ和訟
シ寺汰ヲ立テ維持永續ヲ講ムル代ハリニ改宗ノ
許可ヲ速ニ與ヘヨトテ杉林ノ繁殖ヲ計リ且ソノ
寺ヲ粟谷ニ移シ後又今ノ處ニ移シタリ明治ノ今
日ヨリ之ヲ顧ミレバ住持ノ僧ガ檀家ノ改宗ヲ拒
ミ從ハザレバ公訴ニ及バントスルナド合點行カ
ヌ重共ナリ當時ノ幕法タル人別帳ナルモノ即チ
戸籍記載移轉等ノ檀義ハ僧侶ノ寺ニアリタレバ

ナリ住所移轉ニ付キテハ村送ヨリハ寺送ノ方ヲ
重ンジタルナリ村送トハ村役人ヨリ與ル居住
證書ニシテ寺送ハ檀寺信徒タルノ證書ナリ
專福寺ノ本尊阿彌陀如來ハ聖徳太子ノ作ト云フ
此ノ寺山中ニアリシヲ寛永七年ニ今ノ處ニ移シ
真宗トナセリ 教蓮寺寛永元年創立真宗
城址粟谷ニアリ直見大膳武綱居住セシ所具ノ老
臣井上壽良中島玄亮ノ子孫ノ居残リタルアリテ
存シ大膳ノ家族ハ本城没落ノ際ニ但馬ニ隨ヒ朝
未郡玉木村ニ匿シタリト云フ却址ハ城址ヨリ西
ニ當ル横畑ト云フ所ニアリテ石垣残ル中嶋邸ハ
城西ニアリ 直見殿屋敷ト云フガ西垣ノ内ナル

字御屋敷ナリ城西ノ谷ニアリ鬢長池ト呼ブ用水
 池アリ池畔ノ小石ニ穴ノ一寸許ノモノアリ大蛇
 ノ穿キタル跡ト云フ此ノ水ニテ頭髪ヲ洗ハバ鬢
 伸ビ艶ヲ出ストノ口碑アリ遠近来リ汲ム大旱ニ
 モ潤ヒズミサゴ山ハ本城戦没ノ時ニ戦死シタ
 ルモノ、屍骸ヲ埋メタル所トテ方一間許ノ塚ニ
 五輪ノ塔ヲ置ク地域長サ四間幅三間許
 小字才谷ヨリ但馬ノ小坂マデ世所直見炸ノ國界
 マテ十町小字山中ニハ百七十八戸アリ
 大字板生高六百五十九石四斗二升九合 文
 久改同 福知山藩領ナリキ
 小字 タヤガキ 羽白 今西 三ツ谷 今西

ヨリ但馬天谷、三十三町 牛ノ尾國界マデ十三
 町
 十二社 三柱三 爰宕ニ 地主 宇徳 武 鎌
 倉 山神 熊野 新宮
 長谷山瑞林寺成範院 真言宗 本尊聖觀世音
 郡西園二十九番札所
 開基智證大師或ハ云、實榮和尚
 大字 平野 高六百五十四石 福知山藩領ナリ
 千 小字 水上 水坂 奥水坂 三ツ立テ石
 小字水坂ノ水坂峠ニアリ國界ヲ標ス幸ノ石高サ
 三尺中ノハ五尺北ノハ四尺但馬國柵谷、通テ路
 ニシテ登リ五六町ノ所ニアリ

丹波 志

八社 年森 住吉 長門 草神 愛宕 三柱
八柱 宇徳

市左衛門與三郎 此ノ兄弟ハ知ニシテ父母ヲ喪
ニ或ル人ニ養育セラレテ成長シ兄ハ父ノ田ヲ受
ケテ耕セバ與三郎ハ之ヲ助ケ耘リ家ヲ共ニシテ
勞作シ水旱ノ年タリトモ其ノ貢租ヲ急ラズ未タ
曾テ未進ノ責ヲ受ケズ雜穀木實ヲ食シテ餘穀ヲ
貯、餘分ヲ以テ木綿ニ換ヘテ衣服トシ外出ノ時
代ハル、之ヲ着用品兄ハ妻ヲ迎ヘ子ヲモ産出
シケレバ第ヲ分家サセントスルニ第之ヲ肯ハズ
曰ハク家族多カル丈ハ失費ヲ要ス吾ハ獨身ニテ
金錢家財ニ用無シト第ノ爲ニ妻ヲ迎フルヤ家財

ノ半數ヲ分クントスルニ應ゼズ強イテ三分ノ一
ヲ受ク家ニニ牛アリ一ハ肥ハ一ハ瘦セタリ互ニ
其ノ瘦タルヲ取ラントス隣人兄ヲシテ肥ニタル
ヲ取ラシム挿秧收穫相互助ケ合ヒ貢納出役又互
ニ輔給シ月且ニハ第及ビ妻モ兄ノ家ニ赴キテ賀
スレバ兄ト嫂ハ茶ヲ煮テ之ヲ進ム兄先飲ミテ第
次ニ喫ヌ寛文六年第丹後ニ人夫トナリテ出役ス
ルニ妻ヲ兄ノ家ニ托ス兄曰ハク業ヲ敬ニ務メテ
歸レ留守ノ下ハ心ニナ懸ケツト第具ノ妻ノ食料
ヲ供シテ出デ數日ヲ経テ歸ル兄コレヲ迎ヘテ吃
ビ喰ヒ餘リノ米穀ヲ返與スルニ受ケズ強イテ之
ヲ返セリ此ノ如キ親睦十數年ナリレカバ領主ヨ

リ兄弟ノ課役ヲ永免セリ

寄生蟲發生 大正九年十月一村ヲ舉ゲテ病人タ
ル有様ニ陥リ醫師衛生委員警察等ヨリ検査シタ
ルニ寄生蟲ノ蔓延流行タルヲ認メ實地調査ヲ爲
セシニ板生ノ惣人口ニ付之ヲ統計シ左表ノ如シ
惣人口 八百四十八名

十二指腸蟲卵保有者 百十三名

蛔蟲卵保有者 五百八十五名

東洋毛様線蟲卵保有者 三十一名

裂頭縲蟲保有者 十八名

蠶蟲卵保有者 五百三十七名

一名ノ患者ニ二種三種ノ卵ヲ保有スル者サハ有

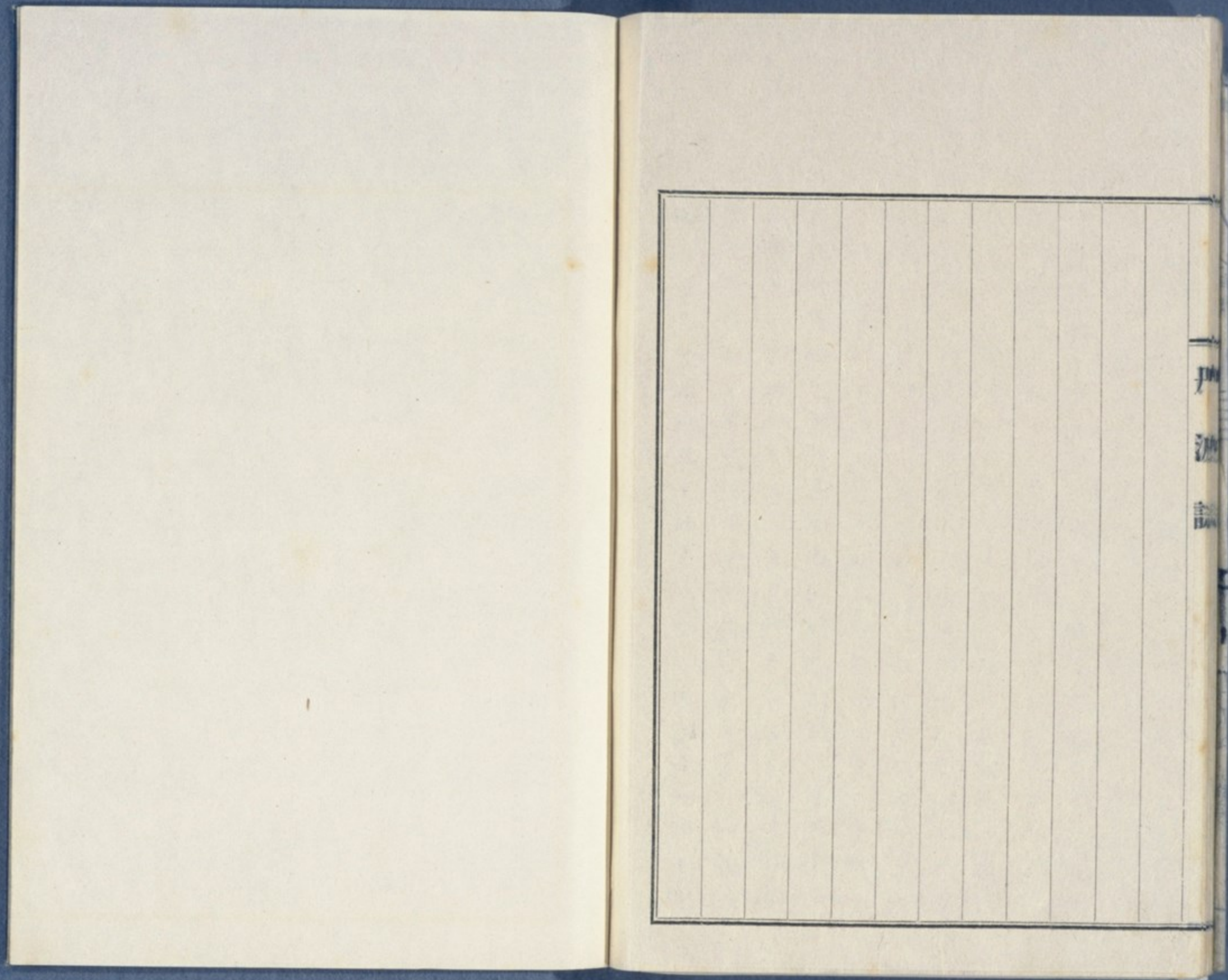
リ蟲卵皆無ト診斷セラレタル者ハ僅ニ九十二名
ノミ 子モウケルニ〇 ナフタリシ一〇ノ二岳ヲ
研和シ膠囊ニ盛リタルモノヲ主劑トシ硫酸マダ
ネシアヲ補助劑トシ村民一同ニ服用セシメタリ
一羊ヲ經テ其ノ重病者タリシモノ、糞便ヲ検査
シタルニ六十一名中只權々二名ノ三板生病ノ名
ヲ以テ近傍村落ヲ恐懼セシメノ自然ト隔離状態ヲ
見タルガ十年ノ夏期ニ至リ交通舊ニ復セリ夫貴
ノ莫大ナルヲ想像ノ外ナリ
古稻夜久野郷 名稱ノ起因ハ古昔ノ曠野ニ取ル
其ノ仰ハ中夜久野村ノ夜久野ニ存ス開墾ノ爲ニ
狹ノラレタリトハ云ハ一里ニ渉ル原野ニ視ルベ

レ應仁ノ乱ニハ一大戰場トナリ又左ニ其ノ一截ヲ録セシ者ヨ

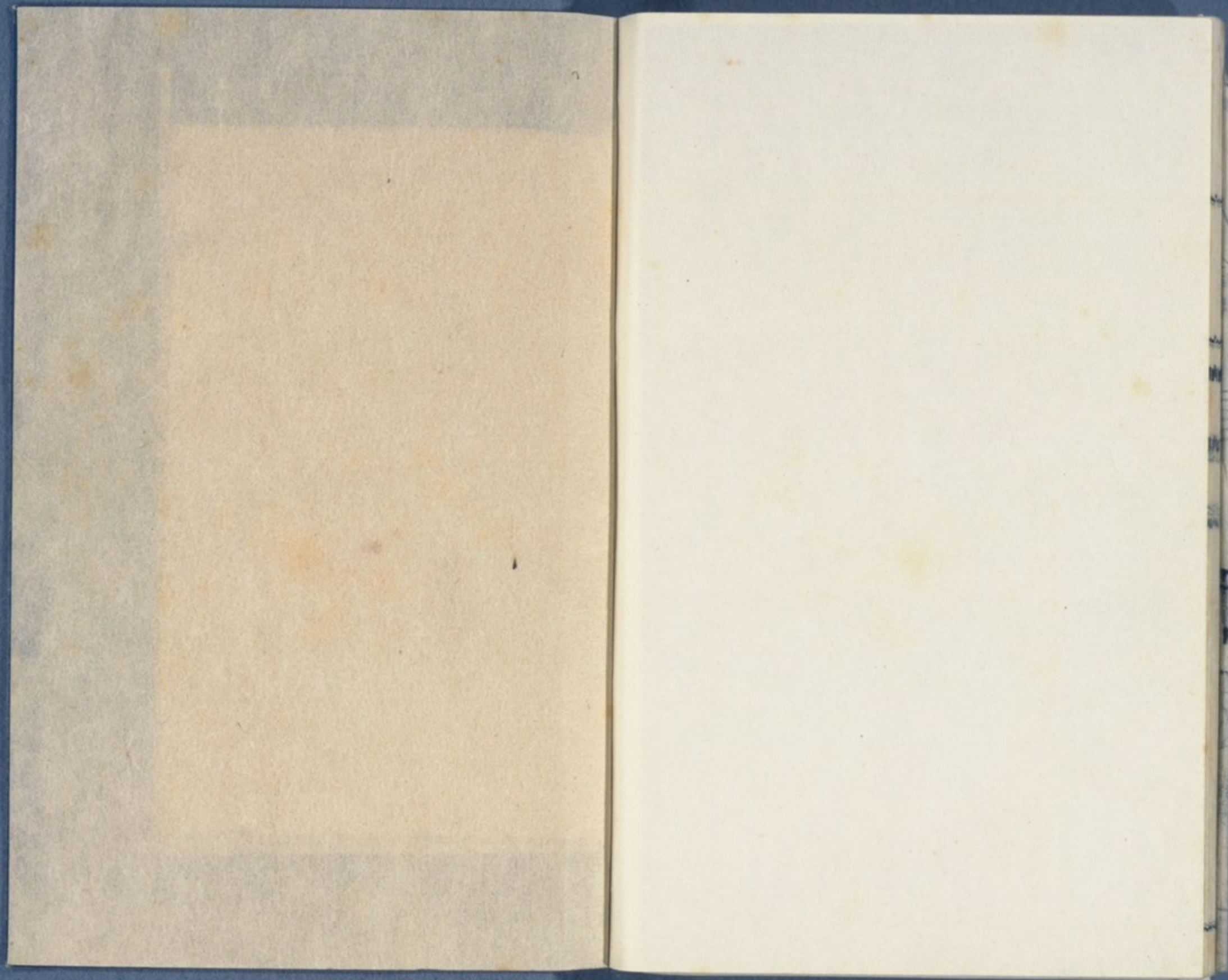
山名宗全初度ノ軍ニ大手ノ陣ヲ燒落トサレテ安カラズ思ヒケレバ急ギ取辱ヲ雪ガント分國ニ早馬ヲ立テ廻文頻リナリシガ丹後ノ和智宮山内江田因幡ノ伊達波多野八部山口伯耆ノ幸條小鴨進村上但馬ノ垣屋八木田井ノ庄太田垣ガ兵共馳セ上リ三萬餘騎但馬國境ニ勢揃シ應仁元年六月六日丹波ハち越シタレバ細川方注進ヲ聞キ丹波境ニテ防ギ止メ京都ハハ入レジト丹波ノ守護代内藤備前守繁則ニ三千餘騎ヲ差シ添ハ夜久野郷ハ出デケルニ三萬餘騎ノ敵勢洪水ノ如クニ押し寄せ

押し通り繁則ノ軍ヲ敗リケレバ内藤孫四郎貞徳ヲ始メ宗徳ノ者悉ク打タレ敵ハ勝ニ集ウテ進ミ民家ヲ燒キ民財ヲ掠メ處々ニ火ヲ放チケレバ夜久郷ハ荒レニ荒レ見ル影無クゾナリニケル

京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵